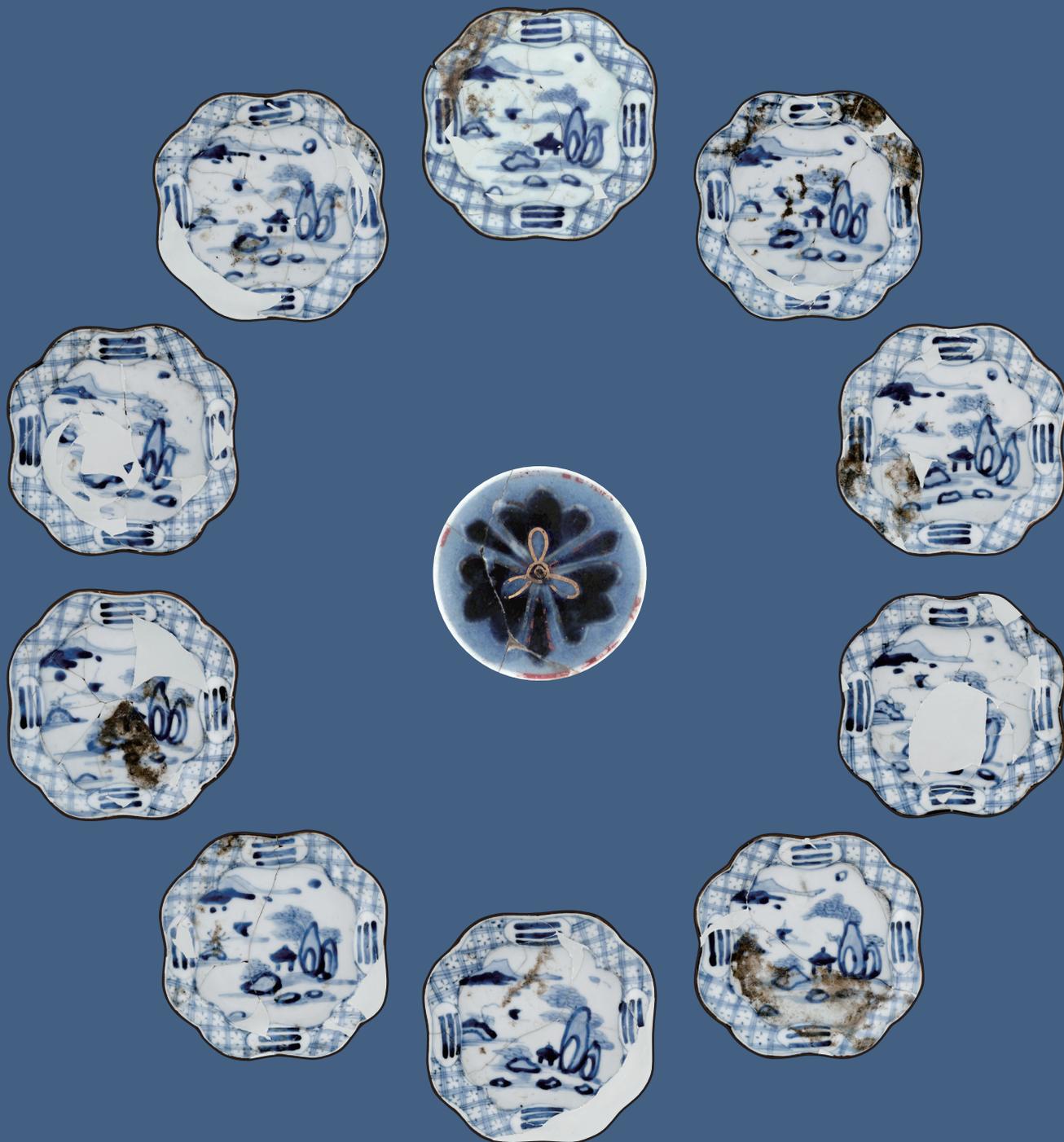


平成29年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）出土品

公家町遺跡（櫛笥家）出土品



2017

京都市文化市民局

平成 29 年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）出土品

公家町遺跡（櫛笥家）出土品



安禪寺杉之坊出土品



1 安禅寺杉之坊出土染付鉢・蓋



2 安禅寺杉之坊出土白磁皿



3 安禅寺杉之坊出土染付皿



4 安禅寺杉之坊出土錆釉染付皿



5 安禅寺杉之坊出土国産磁器



1 安禅寺杉之坊出土青花小鉢



2 安禅寺杉之坊出土青花鉢



3 安禅寺杉之坊出土青花碗



4 安禅寺杉之坊出土青花碗・皿、五彩皿



5 安禅寺杉之坊出土国産・輸入陶器



1 柳筥家出土国産陶器



2 柳筥家出土国産陶器



1 櫛笥家出出国産陶磁器



2 櫛笥家出土輸入陶磁器



5 穴蔵G749地層断面（北から）



2 土坑G1447地層断面（東から）

ご 挨拶

京都市では、市域から出土した膨大な考古資料の中から歴史的な意義がきわめて高い出土文化財を市指定有形文化財として指定をすることで、長く未来へ残してゆく取り組みを続けてきました。公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は京都市からこの事業の委託を受け、市指定有形文化財の候補となる出土文化財を整理し、その評価を行うとともに、多くの皆様に活用していただけるように目録を刊行して参りました。平成21年度から始まった本事業は9年目を迎え、全国から注目の集まる資料が整い始めているところです。

平成29年度の指定候補出土文化財は「公家町遺跡（安禅寺杉之坊）出土品」と「公家町遺跡（櫛笥家）出土品」です。公家町は、16世紀末から17世紀初頭にかけて内裏周辺に形成された公家の集住地域です。御土居の造営や寺町の形成など、近世の武家政権による京都の都市改造の過程で、公家の集住が進められたのです。公家町は他の近世都市には例を見ない京都のみが有する特色ある都市空間といえます。公家町の遺跡は、現在の京都御苑に重なる範囲の地下に残存しており「公家町遺跡」として周知され、これまでに数多くの発掘調査がなされてきました。なかでも、1997年度から2002年度にかけて実施した京都迎賓館の建設に伴う発掘調査は約15,000㎡に及ぶ大規模発掘となり、公家町の街路と宅地割及びその変遷を明らかにしたことに加え、近世公家の生活を彷彿とさせる遺物も大量に出土しました。とりわけ、安禅寺（杉之坊）に比定される宅地11の穴蔵G749出土品と櫛笥家に比定される宅地7の土坑G1447出土品は多くの伝世品を含みつつ、17世紀後半の門跡邸宅・公家邸宅で使用された品々の実態を示す良好な資料群と考えられます。

ここに、その指定候補文化財の写真、実測図、一覧表を公刊することで、広く皆様にご紹介するとともに、更なる活用の便に供していただければ幸いです。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所

所長 井上 満郎

例 言

- 1 本書は、平成 29 年度に公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が京都市から委託を受けて実施した、埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務の報告書である。
- 2 選定の対象とした出土遺物は、京都市内で実施された埋蔵文化財の発掘調査などで出土したもののうち、京都市が保管しているものである。
- 3 平成 29 年度の指定名称は「公家町遺跡（安禅寺杉之坊）出土品」・「公家町遺跡（櫛笥家）出土品」である。
- 4 本書使用の地図は、主として京都市発行 都市計画基本図（縮尺 1：5,000）を参考に、必要に応じて加筆した。
- 5 本書の遺物番号は特に断らない限り指定番号である。
- 6 指定にあたっての諮問委員は以下の先生方に依頼した（五十音順／敬称略）
井上満郎、上原真人、瀧浪貞子、和田晴吾
- 7 本件業務は大立目一が担当し、関広尚世、津々池惣一、津田京美がそれを助けた。
- 8 本書編集の編集作業は内田好昭の指導のもと、大立目一、関広尚世が行った。
- 9 本書の執筆分担は以下のとおりである。
第 1 章～第 3 章 関広尚世
第 4 章 大立目一、関広尚世
- 10 本書の巻頭図版に使用した出土品写真は村井伸也が、目録に使用した写真は津々池惣一が撮影した。
- 11 指定準備作業と本書の作成には、能芝 勉氏のご協力を得た。
- 12 本編扉の図は延宝 5 年（1677）刊行の「新改内裏之図御紋入」（大塚隆編『慶長昭和京都地図集成 1611（慶長 16）年～1940（昭和 15）年』柏書房、1994 年）の一部である。
- 13 文中の〈文献〉表記の番号は、文献目録の番号である。

目 次

巻頭図版

本編	1
第1章 公家町の位置と環境	3
1 公家町の位置と範囲	3
2 公家町の形成と変遷	3
第2章 発掘調査と主要遺構の概要	9
1 調査の概要	9
2 宅地11（安禅寺）について	9
3 宅地7（櫛笥家）について	9
第3章 安禅寺と櫛笥家について	15
1 安禅寺について	15
2 櫛笥家について	16
第4章 指定候補出土遺物の概要	17
1 穴蔵 G749 出土遺物について	17
2 土坑 G1447 出土遺物について	18
文献目録	22
図版	25
一覧表	89

第1章 公家町の位置と環境

1. 公家町の位置と範囲

公家町は、鴨川右岸の扇状地上、北を今出川通、東を寺町通、南を丸太町通、西を烏丸通で囲まれた現在の京都御苑とほぼ同じ範囲に位置していた。

中世以降、土御門東洞院殿を中心とした一町四方、すなわち北を一条大路、東を万里小路、南を鷹司小路、西を烏丸小路で囲まれた区画が平安宮大内裏と同じ扱いとなった。織豊期から江戸時代にこの周囲に公家屋敷が集められ、公家町となる(図2)。

2. 公家町の形成と変遷

平安宮の内裏が安貞元年(1227)に焼失すると、再建されることなく内野となり、里

内裏を用いるようになった。とくに元弘元年(1331)、光厳天皇の即位以後は、土御門東洞院殿が北朝の内裏として機能するようになる。明德3年(1392)、後亀山天皇から三種の神器が土御門殿に渡され南北朝が統一されると、土御門東洞院殿が内裏として固定された(以下、「内裏」)。一条大路・万里小路・鷹司小路・烏丸小路に圍繞された範囲を「陣中」と呼び、四方の辻に「陣口」をおいた。陣中では、都市住民だけでなく公家にも牛車宣旨のない通行への制約があった。

室町時代中期になると内裏周辺は町屋化する。それは、『北野天満宮史料』にある応永32年(1425)の「酒屋交名」に次郎入道という「酒屋」の居住が一条京極西南に認められることから明らかである。また、応仁の乱から室町末期にかけて、朝廷は幕府に命じて禁裏周辺に濠を掘らせ、整備させている(文献30(第1分冊)、23頁)。このころは、内裏東側よりも西側に多

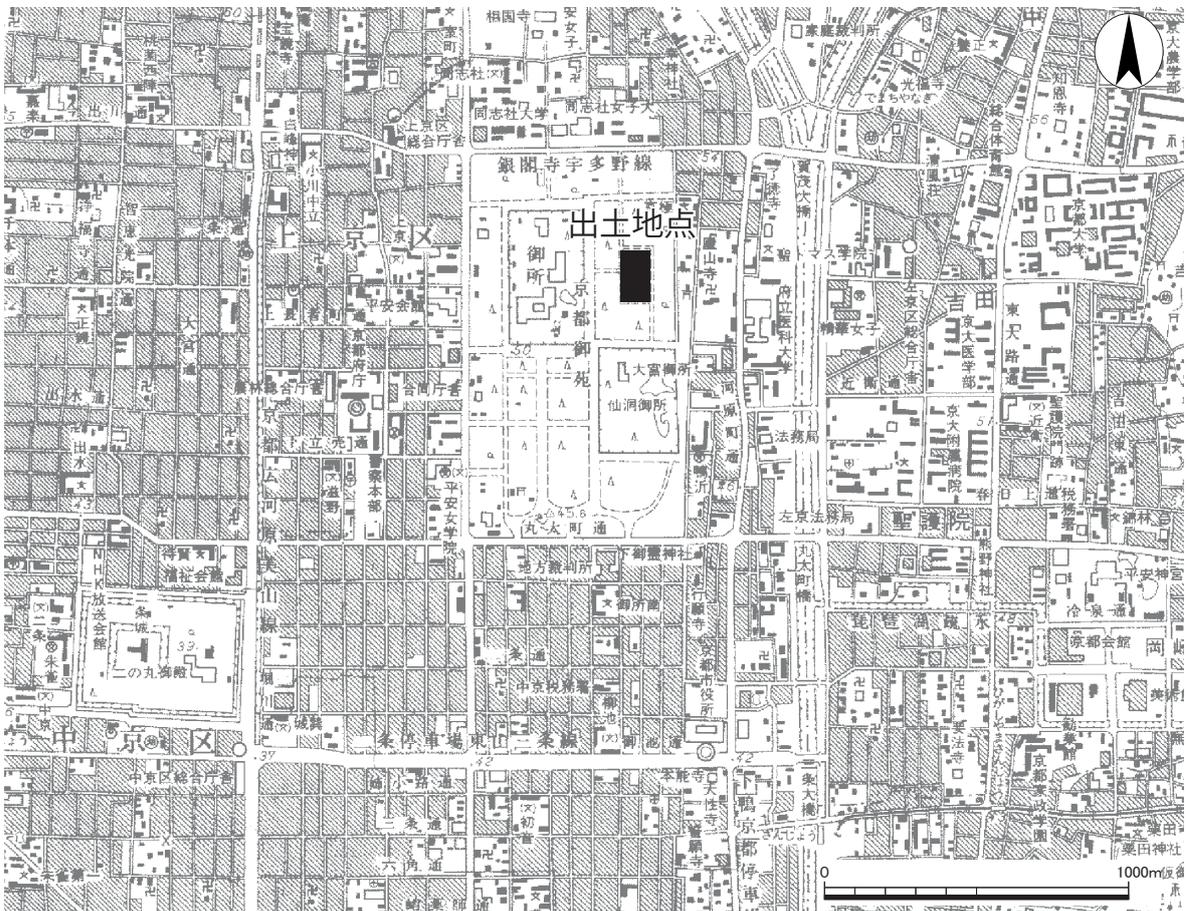


図1 指定候補遺物出土地点(1:25,000)

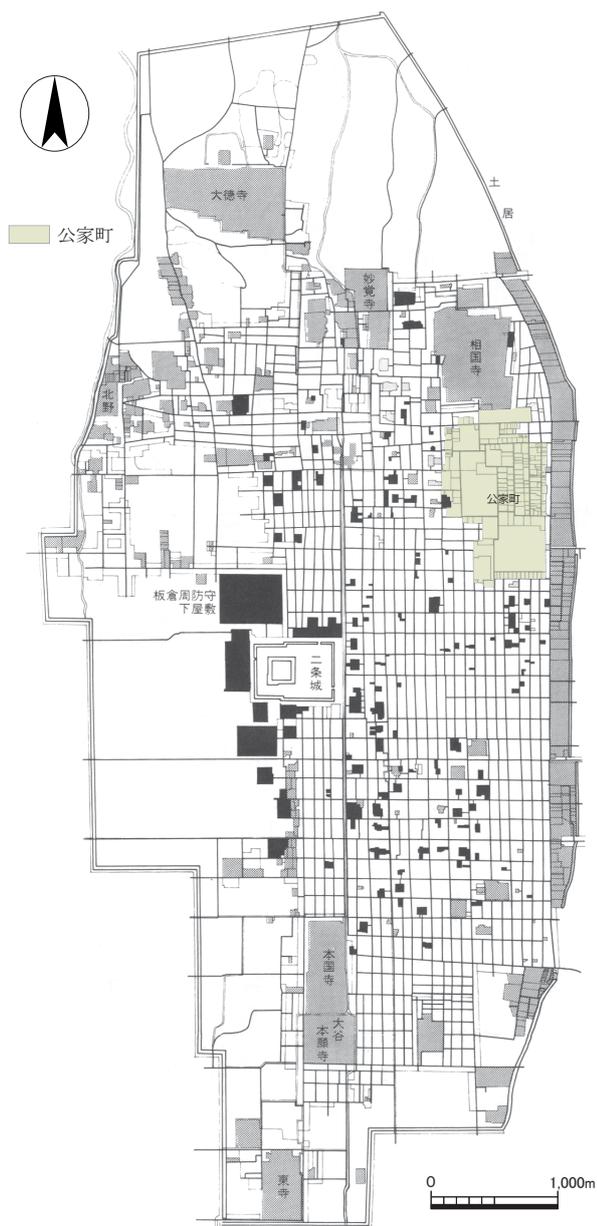


図2 公家町範囲図 (1 : 6,000)

高橋康夫、吉田伸之編『日本都市入門Ⅰ空間』
東京大学出版会 184頁の図に加筆

くの公家・武家が集住していた(文献 15、34頁)。

公家町の建設が本格的に行われるのは、近世に統一政権が誕生してからである。登谷伸宏はこれを4期に大別している。すなわち、①織田政権期、②豊臣政権第Ⅰ期、③豊臣政権第Ⅱ期、④徳川政権期である(文献 15、48頁)。

【織田政権期】 織田信長は、桃山時代の永禄13年(1570)から、内裏の修造を実施する。ところが、元亀四年(1573)に將軍足利義昭

を京都から追放すると、公家・門跡に対して徳政・知行宛行を実施し、保護施策を実施した。さらに天正3年(1575)7月には、正親町天皇から公家集住地区建設の勅許を得ている。その場所とは、当時、まだ畑地であった内裏南東側であった。しかしあくまで、内裏と讓位予定であった正親町天皇の院御所を中心とした計画であり、内裏南側には、勅許に先んじて、土御門以南・近衛以北・高倉以西・烏丸以東の範囲に新在家と呼ばれる都市集落が建設され、内裏東側には、天正9年(1581)に馬揃披露のための馬場を造成した。信長の公家集住計画は実現しなかったが、後に豊臣秀吉は同じ場所に正親町院御所を造営していることから、信長の事業を踏襲したと考えられる(文献 15、34-36頁)。

【豊臣政権期】 豊臣秀吉が正親町院御所造営を行ったのは、天正12年(1584)である。それに続いて、内裏と院御所に隣接した地区に公家町の建設を進めた。

公家町の建設は天正19年(1591)ごろまで行われ、第Ⅰ期(天正13～15年)と第Ⅱ期(天正18・19年)2つの過程に大別できる。

第Ⅰ期は、公家町建設の開始時期で、主として内裏の北・東側に公家の集住地区が設けられた。天正15年(1587)には、北から順に中御門宣泰、白川雅朝、西洞院時慶、大炊御門経頼の屋敷が並び、「中むかし公家町之絵図」の記載と一致する。公家集住地区は正親町院御所の東を南北に走る通り沿いに建設されたとみえる。また、内裏北側には鷹司家、九条家など撰家が集められており、この配置は慶長5年(1600)まで続いたことが明らかになっている。

なお、天正16年(1588)以降、現存する記録からは集住地区建設に関する記事を確認できなくなり、天正17年(1589)には公家屋敷地の再検地が行われていることから、それまでに建設が一段落したと考えられる。

第Ⅱ期は、天正18年(1590)の八条宮家

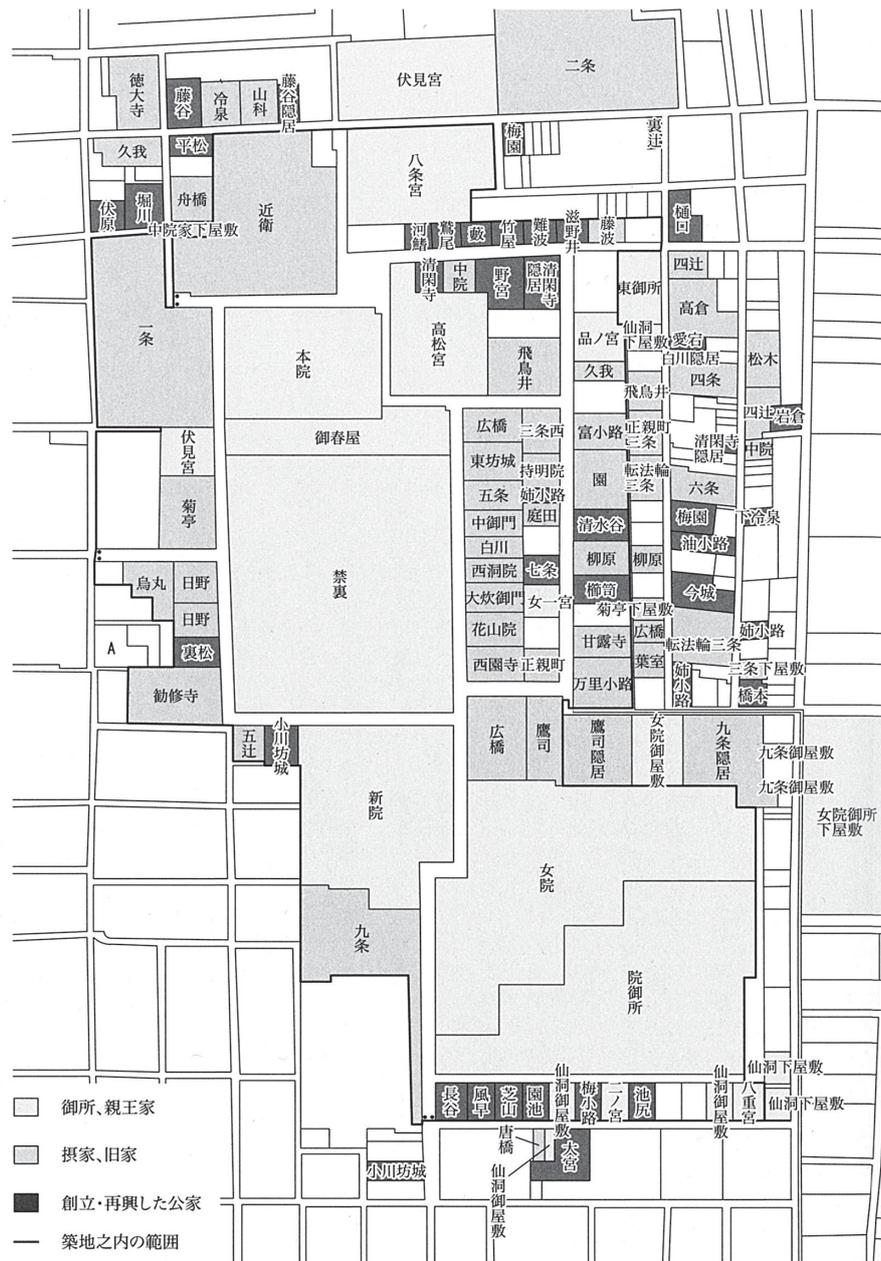


図3 寛文3年頃の公家町（文献15）

創設による屋敷造営にはじまり、主として内裏東側で集住地区の建設が行われた。また、天正19年（1591）から慶長10年（1605）まで、大規模な集住地区の建設を確認できないため、このときまでに内裏東側に隣接する公家屋敷が出そろっていたと考えられる〈文献15、37-44頁〉。

【徳川政権期】 徳川家康は、慶長5年（1600）に関ヶ原の合戦に勝利すると、同年9月に山科言経・冷泉為満・四条隆昌に対し、新たな屋敷地を内裏北側で給付した。これらの土地は関ヶ

原の合戦において西軍に属した武将のものであり、豊臣政権期は内裏北側に摂家・親王家だけでなく武家の屋敷地も混在していたことがわかる。慶長10年（1605）、内裏北側の地は後陽成院御所造営の際に再度、上地されている。院御所造営時には、既存の集住地区東側で、のちの二階町・梨木町にあたる場所へ拡張も行われた。今回、指定の対象とする遺物が出土した地点でもある。また家康は、内裏の拡張も行った。これにより内裏は敷地を南北に広げ、旧正親町院御所を敷地内に取り込んだ。旧正親町院

御所に居住していた新上東門院に対し内裏北側にあった二条家の屋敷を与え、二条家には新在家で替地を与えることになったため、内裏南側では多くの公家屋敷地が移転した。ただし、この移転が本格化したのは慶長15年(1610)のことである。移転対象となった公家は、「二条邸敷地絵図」と「中むかし公家町絵図」との比較から、竹内家・六条家・転法輪三条家・阿野家・藪家・烏丸家・松木家と、二条家屋敷予定地にあたる冷泉家・正親町三条家・正親町家であり、いずれも二階町・梨木町で替地が給付された。『孝亮宿禰日次記』には同年7月25日に二階町と梨木町がすでに存在していたことを示す記事があり、これ以前より既に宅地となっていたことがわかる(文献14)。内裏の造営は、慶長16年(1611)の後水尾天皇の即位後も慶長19年頃(1614)まで継続され、「中むかし公家町絵図」で表現されている公家町の姿が完成した(文献15、44-53頁)。

しかし、火災により集住地区の宅地割が変化することがあった。宅地割の変化は、基本的に火災に起因する。延宝5年(1677)『新改内裏之図』からは、二階町通りに面した屋敷地が、本報告書の対象である「杉之坊」とそれに南接する「柳原」を残して変化した(文献30、第2分冊、1-4頁)。京都で承応2年(1653)から元禄5年(1692)までの間に少なくとも6回、公家町が被災する火事が起きた(文献15、97頁)。影響が大きかったのは万治4年(1661)に御所からの失火により屋敷、寺院、町屋の約700戸が焼失した火事と(文献1、370-371頁)、寛文11年(1671)に六条家の屋敷から発生して東南に広がり、二階町、梨木町、寺町を中心とした区域が焼失した火事である(文献1、381-382頁)。先述の宅地割の変化は寛文11年の火災が原因である。

次に公家町が大きく変化するのは、宝永5年(1708)の大火後である。この火事で、京都の市街地の大半が灰燼に帰した。この復興のため

に町屋を鴨東や聚楽内野へ強制的に移転させ、大規模な都市改造が行われた。公家町も例外ではなく、はじめて体系的な防火対策が行われることとなった。内裏・院御所南側の町屋を郊外へ移転させ、そこへ公家屋敷を移転して、築地内、二階町・梨木町で大規模な道路拡幅を行った。この都市改造後、明地の公家屋敷化を除くと、幕末期まで基本的な構造は変化しなかった(文献15、165-201頁)。

明治2年、東京遷都により公家の大半が東京に移転すると、元公家町に留守宅が増えることになった。そこに店を開くもの、鷹司家のように油を売るもの、間借人を置くものなどが現れた。明治3年には、内裏の管理が宮内省留守官から京都府の所管へと移る。また、明治6年(1873)には有栖川宮旧邸が京都裁判所として利用されはじめ、京都博覧会社による博覧会の開催場所として使われるようになる。そして明治9年(1876)には、旧准后仮御殿が京都府師範学校の校舎として用いられるようになった。華族となった公家の転出に伴い、公家町は変貌を余儀なくされたのである。こうした中、明治10年(1877)に明治天皇が京都に行幸した際、西南戦争が勃発したため長期滞在となった。そして、内裏とその旧観保存の必要性をとく御沙汰書が宮内卿から京都府知事へとおくられた。これが、大内保存事業の始まりである(文献18、14-16頁)。

同事業は、明治10～21年(1877～1888)の計画で毎年4000円の内帑金が支出される予定であったが、保存費の繰り上げ交付によって促進され、明治13年(1880)には当初の構想の追加分を加えたもののほとんどを完了した。その主たる成果は、土地の買い上げ、土塁の築造と門の移設、道路の設置、植樹である。前後するが、明治11年(1878)2月には京都総区長杉浦三郎兵衛による献木願いが出された。有力者他6名を含み、献木の対象となったのは桜・楓・杉など合計350本であった。これに一般

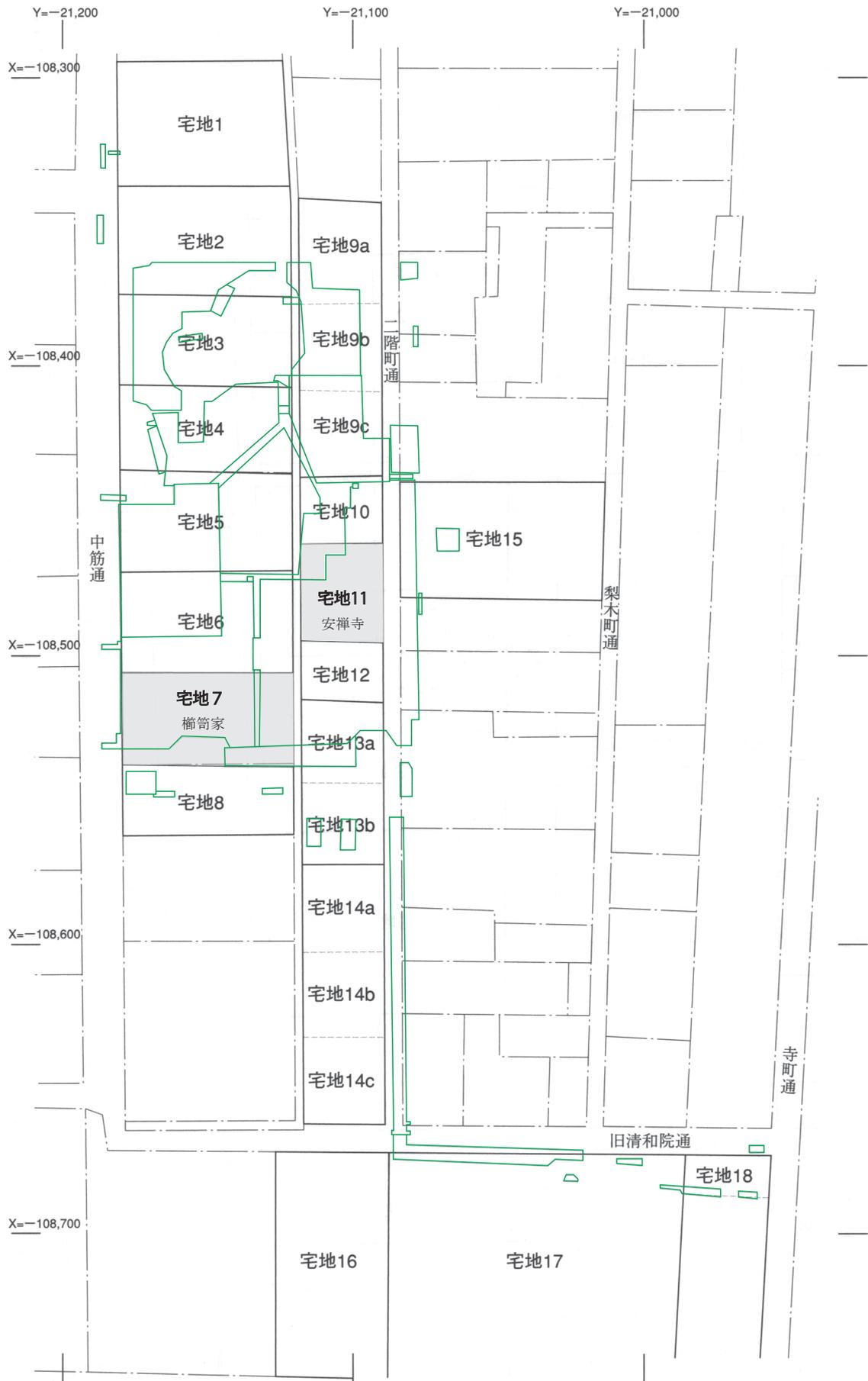


図4 江戸時代前期宅地割図（文献31）※緑線は発掘調査区

市民からの献木、献金が相次いだ。また当時、民間でも府でも「公園」という表現が多用されるようになっていた。しかし、適切な名称ではないことから、同年10月の伺書では皇宮付属地を「御苑」と定義し、12月に旧管内に布告した。なお、京都御苑と呼ばれるのは、さらに後の時期である〈文献18、16-19頁〉。

明治16年(1885)、京都に宮内省支庁が置かれると大内保存費は打ち切りとなったが、遷都後の衰微した京都の市況を復興させ、新時代に発展させる施設として、博覧会場や京都市美術学校が維持された。このような機能は明治28年(1895)の第4回内国勸業博覧会・平安遷都千百年記念祭、平安神宮創建まで続き、その後は大正4年(1915)大正大礼、昭和3年(1928)昭和大礼に代表されるように国家儀礼の空間へと変化した〈文献13、131-132頁〉。

第2章 発掘調査と主要遺構の概要

1. 調査区の概要

本指定候補出土品が出土した発掘調査は、京都御苑内に京都迎賓館建設が計画されたことに伴うものである。内閣府（旧総理府）と国土交通省（旧建設省）は、文化財保護法に基づく通知を京都市埋蔵文化財調査センターへ提出し、建設工事着手前の調査が必要と判断された。このため、試掘調査を行い、遺構の残存状況などの確認を行った上で調査計画を策定し、京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査を実施した。1997年から2002年にかけて、14,678㎡を調査した〈文献31（第1分冊）、1-2頁〉。発掘調査報告書では、中筋や二階町通などの街路に加え公家町の34区画の宅地を検出した。これらの宅地は、『中むかし公家町之絵図』などの絵図類との対比や、家紋瓦の出土傾向などから家主が明らかになっている。今回指定候補となる出土品は、江戸時代前期の宅地7および宅地11内の遺構から出土したものである。宅地7は櫛笥家、宅地11は安禅寺に比定されている〈文献31（第2分冊）、4-9頁〉。

2. 宅地11（安禅寺）について

【宅地概要】 安禅寺杉之坊に比定される宅地11は、二階町にある宅地である。南北約33m、東西約35mあるほぼ方形の宅地で、面積は約1,155㎡ある。宅地東側は二階町通に面し、宅地の四周は掘立柱列で方形に囲われている。門の遺構は検出されていない。宅地の南西隅に蔵G1097がある。蔵の北東には、井戸G3073があり、この付近が台所であろうか。この時代の門跡屋敷の状況をよく示す「竹内様御屋敷指図」によれば、当時の門跡屋敷内には広間、書院、台所等に加え仏堂が存在していたようであ

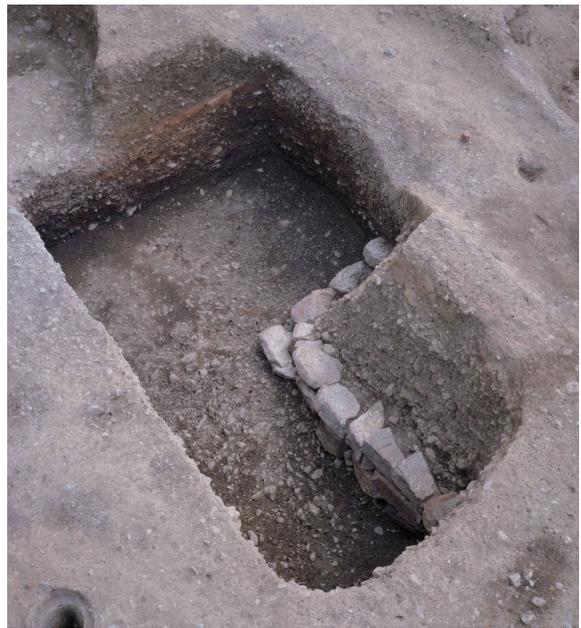


図5 穴蔵G749北西部石組検出状況（北東から）



図6 穴蔵G749北西部石組検出状況（東から）

る〈文献3〉。宅地11においても同様の建物が存在したと思われるが、蔵以外の建物跡は検出できていない。今回指定の対象となる遺物群は、宅地のほぼ中央に位置する穴蔵G749から出土している。穴蔵はいわゆる床下の地下収納施設であり、居間や台所などの床下に設置されたものと思われる。

【穴蔵G749】 平面形は「L」字状を呈する。南北3.6m、東西1.6～2.3m、深さ1.4mの規模である。北西部には石組みがある。（図6）壁には貼り付けられた粘土が残り、被熱により赤色に変化していた。もともと床下の収納施設であるが、埋土は炭混じりの焼土であることから、火災後の廃棄施設として利用されたと考えられる。この火災は、出土遺物の年代と類焼範囲から見て、寛文11年（1671）の火事である

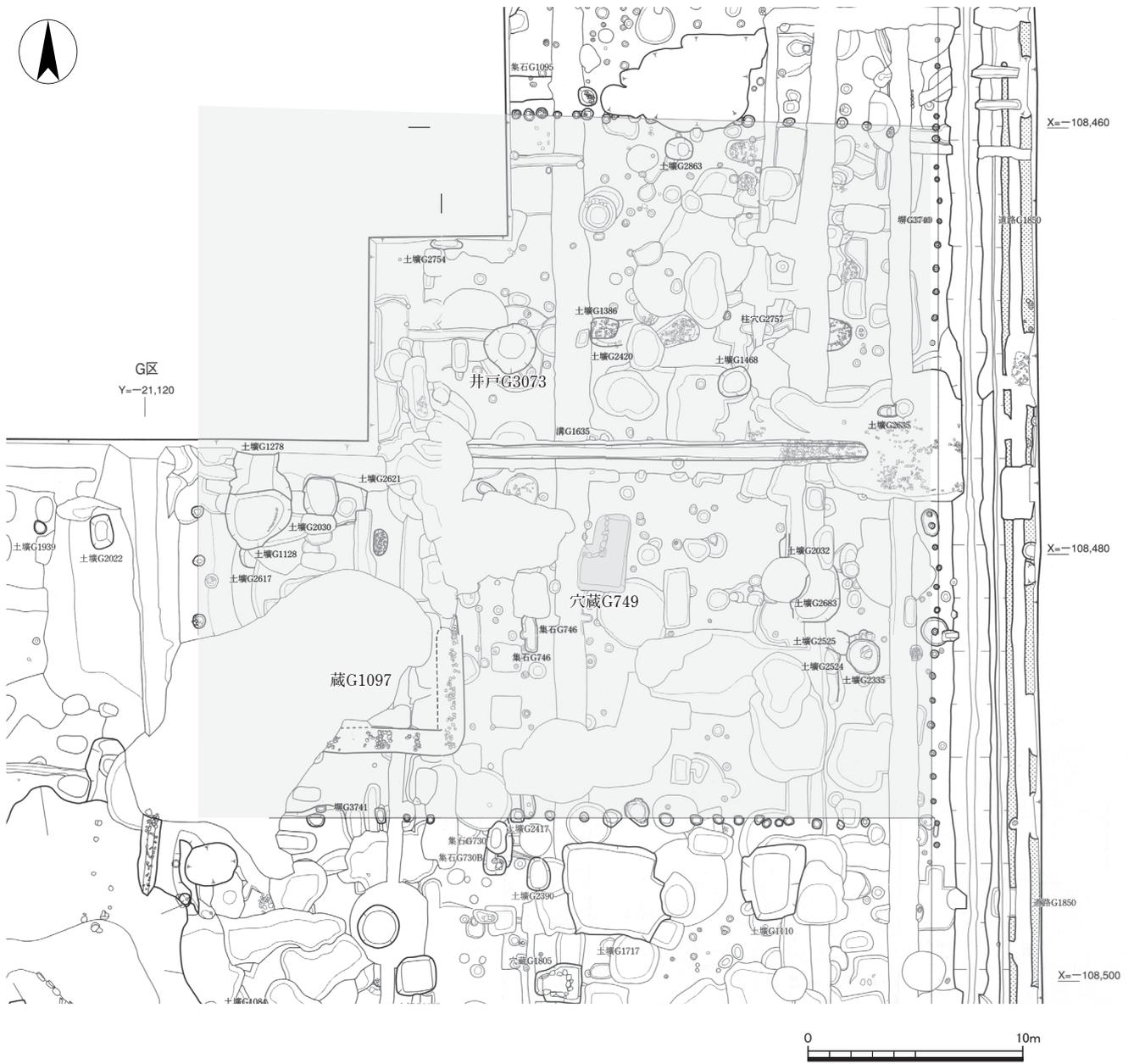


図7 宅地11 (安禅寺) 遺構配置図 (1 : 300 文献31)

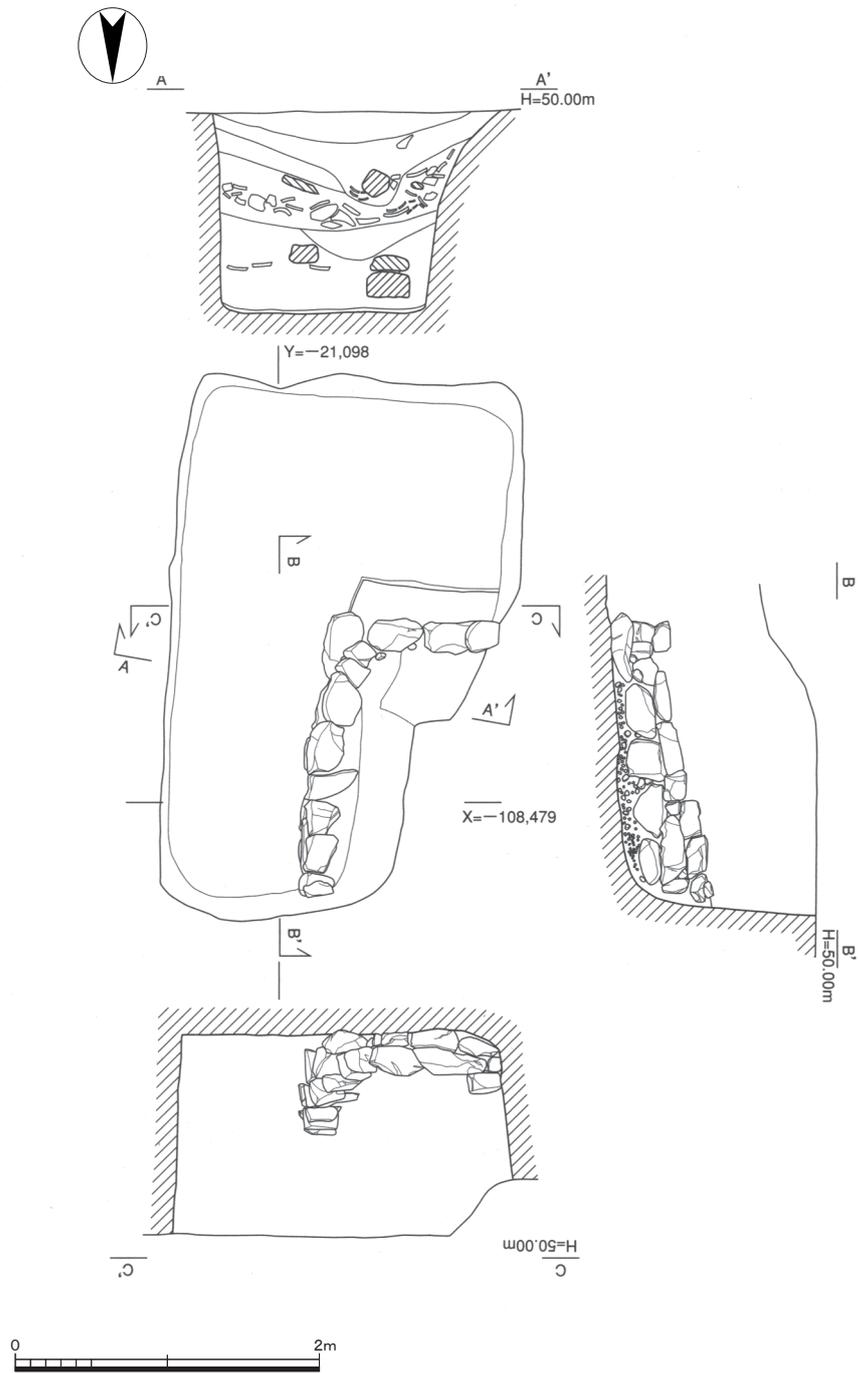


图8 穴蔵G749 平面図・土層断面図 (1:50 文献31)



Y=21,160

Y=21,140

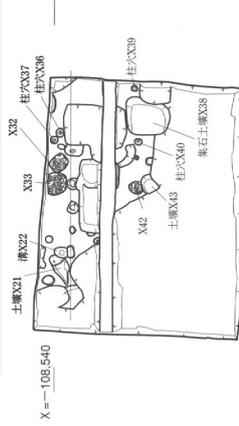
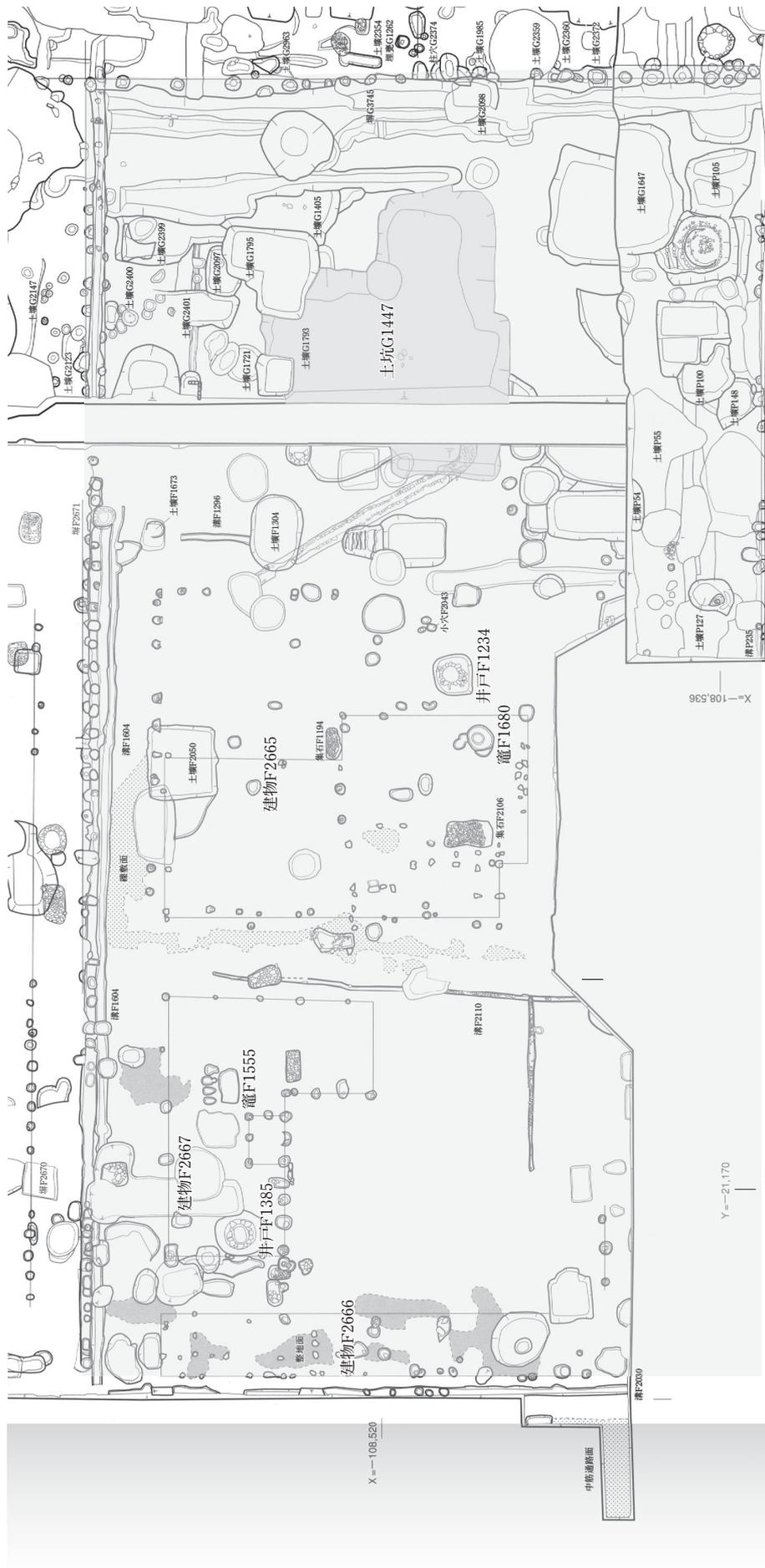


図9 宅地7 (櫛笥家) 遺構配置図 (1 : 300 文献31)

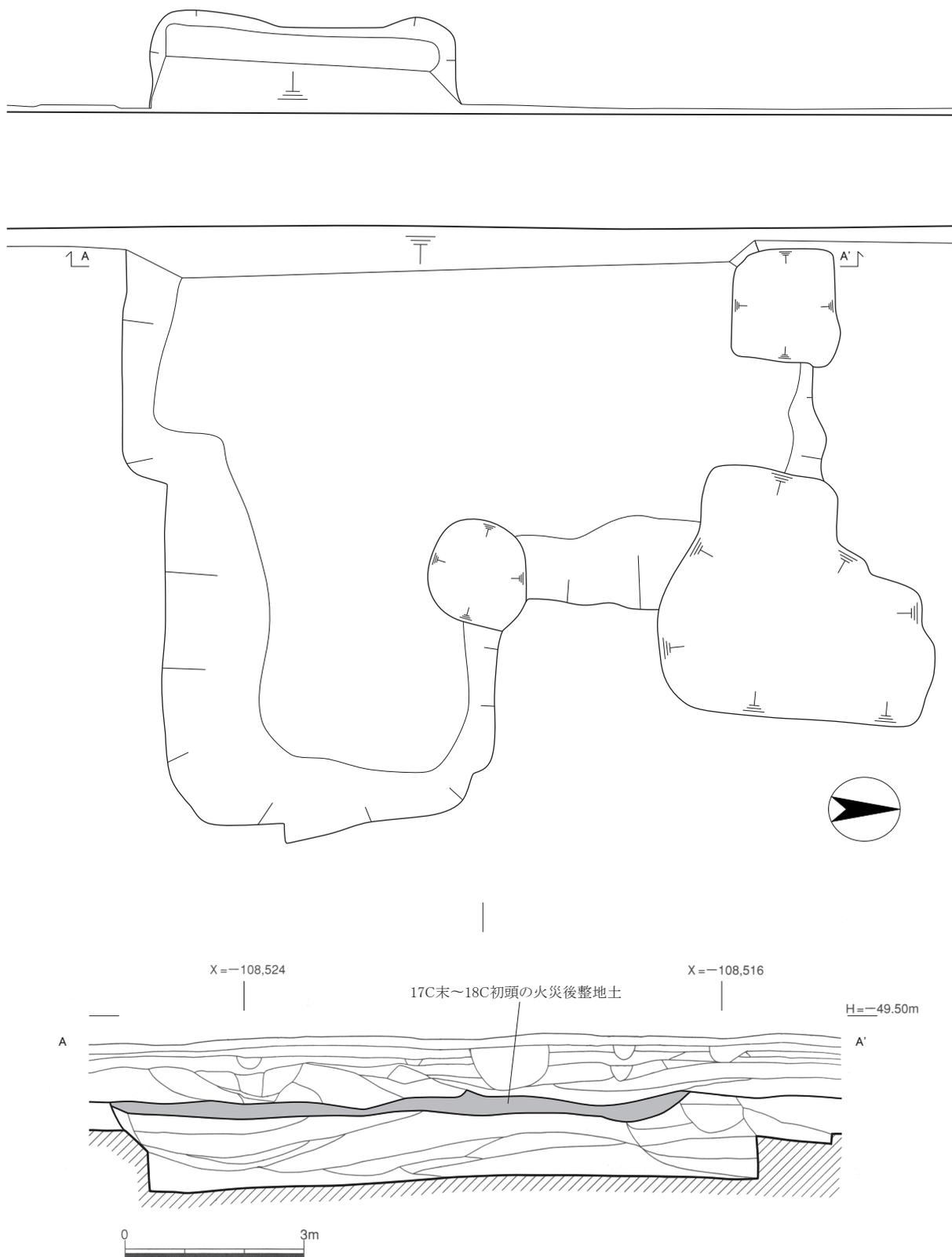


図10 土坑G1447平面図・土層断面図(1:10 文献31)

と考えられる。遺物は主として中層から出土している〈文献31（第2分冊）、44頁〉。

3. 宅地7（櫛笥家）について

【宅地概要】 櫛笥家に比定される宅地7は、中筋に面する宅地である。東西約62m、南北約32mある長方形の宅地で、面積は約1,984㎡ある。宅地の北側、東側、南側は掘立柱列で囲われる。西側の中筋に面する部分には南北に長い建物F2666が検出され、これが長屋門跡と考えられる。宅地の北西部にある建物F2667は、井戸F1385や4連の竈F1555を有することから台所跡と思われる。宅地中央部には建物F2665とする礎石の分布があり、これが広間や書院などの中心建物跡であろう。建物の南東部には竈F1680と井戸F1234があり、ここに湯殿があった可能性がある。今回指定の対象となる遺物群は宅地の東奥部分に検出された土坑G1447から出土している。この遺構は広間や書院などの中心建物の東側の屋外にあたる。後述するように、日常的に生活ゴミを投棄してい

たゴミ穴であると考えられる。

【土坑G1447】 南北約10m、東西約12m、深さ約1.3mの規模である。遺構埋土の上部を覆う整地層は（図10アミ掛け部分）、焼土層であり、遺物の年代から宝永大火に伴うものである。遺構の埋土にはわずかに焼灰層を含むが、顕著なものではない。レンズ状堆積が認められ、少しずつ埋没していった状況がうかがえる。したがってこの遺構は、火災時の廃棄物の処理穴等の臨時的なものではなく、宅地の裏空間に設置されていた日常的なゴミ穴と考えられる〈文献31（第2分冊）、47頁〉。



図11 土坑G1447検出状況（北から）

第3章 櫛笥家と安禅寺について

1. 安禅寺について

安禅寺は尼寺であった。官寺ではなかったが、歴代天皇の葬送を行うことになっていた泉涌寺が応仁の乱で炎上し、僧侶がいない状態のとき、後花園天皇の葬送を執り行った。その後も、天皇家の尼寺として、災害時には避難所として一定の役割を担った。

しかし、寺の創建については明確になっていない。安禅寺住持であった足利満詮女浄源院が創始者であるといわれ、広智国師土曇乾峰が山州八幡に建立したという記録もあるが、定かではない〈文献16〉。

文献にみえる最古の記事としては、応安5年(1372)6月29日付の契約状がある。この契約状は、越中国高野庄領家定照が安禅寺方丈文林大姉に宇都宮まつ万疋のうち三分の二を譲るといものである。つまり、14世紀後半には尼寺としての安禅寺が存在していた。〈文献16〉。

室町時代を通じて天皇家の尼寺として存続したが、天正元年(1573)に得度した誠仁親王皇女が最後の尼であり、天正10年(1582)に誠仁親王の皇子七宮が入室すると、これを機に僧寺へと転換した〈文献16〉。

室町時代の安禅寺の所在について、『京都坊目誌』は、「堀川中御門」、「土御門西洞院の南」、「西洞院中御門の南」と移転を繰り返し、天正期に公家町二階町に移ったとする〈文献7〉。慶長20年(1615)頃の公家町を描いたとされる『中むかし公家町絵図』には二階町に「安禅寺門跡」が見えており、これが発掘調査で検出された宅地11に他ならない。したがって、公家町二階町に存在したのは僧寺転換以降の安禅寺である。

宝永5年(1708)の宝永大火後に公家町は再編されるが、これに伴い安禅寺は二階町を離れたものと思われる。正徳元年(1711)刊行の

『山城名勝志』が依然「今在二階町」と記すのは、宝永大火以前の状況が記載されたものであろう〈文献8〉。寛保元年(1741)刊行の『増補再板京大絵図 乾』には、寺町通東側の本禅寺北側に「あんせんし」と記される区画があり、これが移転後の安禅寺であろう〈図12〉。このことは、宝暦4年(1754)刊行の『山城名跡巡行志』が「京極通今出川ノ南」に所在する「本禅寺」の北にあると記すこと、宝暦12年(1762)刊行の『京町鑑』が「芝薬師町東側」と記すことと整合する。

江戸時代の安禅寺は『安禅寺由緒』における記載からわずかにうかがえる程度であった。同書によると、江戸時代の寺領は160石であり、徳川吉宗の治世にそれが廃され、禁中より66石分の金子を拝領していたとある。

明治維新後は荒廃が進み、明治9年(1876)11月7日には因幡堂薬王院に合併された。このとき建物は借入金の返済分として売却、土地は入札され、安禅寺は廃絶した〈文献16、36-37頁〉。

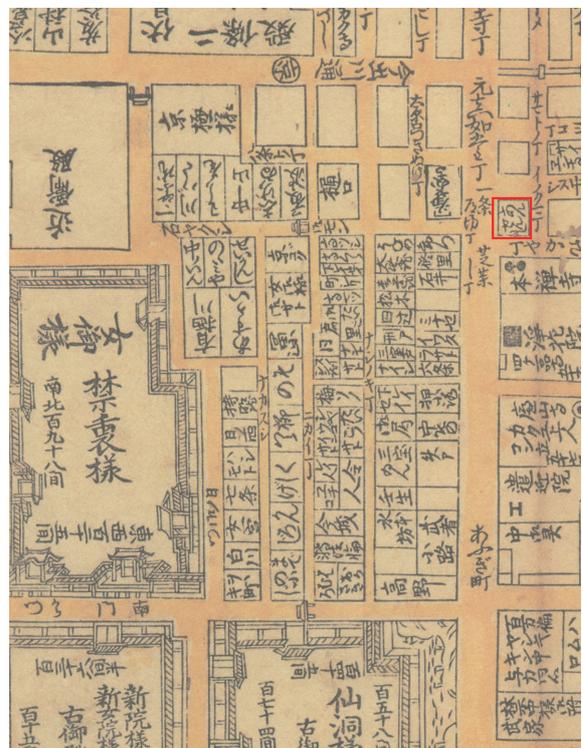


図12 『増補再板京大絵図 乾』部分
※赤線部分が移転後の安禅寺
(大塚隆編『慶長昭和京都地図集成』柏書房、1994年より転載)

2. 櫛笥家について

第2分冊、8頁)。

櫛笥家は、藤原氏四条家庶流にあたり、四条隆憲(不明-1591)を祖とする。隆憲は養子であるが、養父には2説ある。『諸家伝』および『櫛笥家譜』には隆益男とされており、『諸家知譜拙記』では隆昌男とある。従三位参議隆益は永禄10年(1567)9月に病死するが、跡取りがなくいったん断絶する。天正3年(1575)3月に冷泉権中納言為益男が四条家の養子に入り、隆益と改名した。天正8年(1580)正月に従四位下まで昇格するも勅命により勘当される。四条家が再度、断絶の危機に陥ってしまうことから、養子に迎えられたのが隆憲であったと考えられる。隆益は他界していたが、隆昌が勅勘中であることから隆益の養子とされた可能性が高いとされる(文献5・文献17)。

隆憲は天正16年(1588)に従五位上・左少将に昇進し、天正19年(1591)に亡くなった。このとき、跡取りがなかったため再度、正親町三条公兄孫を養子に迎えた。隆致(1582-1613年)である。櫛笥を家名としたのは、この隆致以降であった。家格はいわゆる武官の家である羽林家にあたり、家禄は183石である。平公家の中では最上位の家格である。禁裏小番では、天皇の居所近くの内々において勤務し、五摂家の一つである近衛家の家礼で、有職故実を家職とした。江戸時代前期から中期にかけて当主であったのは、第5代の櫛笥隆胤(1642-1662年)と第6代の櫛笥隆賀(1652-1733年)である。隆賀は、中御門天皇の外祖父で、従一位内大臣となった。続く隆成・隆兼・隆望は議奏を勤仕した。明治17年(1884)になると隆督が子爵を授けられた(文献17)。

中世までの櫛笥家の所在をつまびらかにしないが、「中むかし公家町絵図」の中筋の東側に「四条殿」とあるのがその宅地で、以後江戸時代を通じてこの場所に居を構えていたことが、各時期の公家町絵図により明らかである(文献31

第4章 指定候補出土遺物の概要

今回、発掘調査報告書〈文献31〉に掲載されているものを中心に、安禅寺杉之坊出土品281点、櫛笥家出土品274点の総数555点を指定遺物の候補として選択した。その内容は、土器類が大半を占め、土製品・金属製品・骨製品・石製品が含まれる。以下、概略を記す。

1. 安禅寺杉之坊出土品について

安禅寺杉之坊出土品、すなわち穴蔵G749出土品の器種組成については表1のとおりである。

土器類 264点(001～264)を指定候補とした。

土器類の内訳は、土師器17点、国産磁器(肥前)138点、輸入磁器53点、国産施釉陶器(肥前・京都・瀬戸・美濃・高取産・産地不明)40点、輸入陶器(中国)3点、国産焼締陶器(備前・信楽・丹波・高取・伊賀産・産地不明)13点、輸入焼締陶器はベトナム産(250)、中国産(259)、タイ産(264)の3点である。穴蔵G749出土土器類の特徴は4つある。

第1に2次被熱の痕跡が見受けられる。出土状況とあわせ、火災処理に伴う資料であることを示している。

第2に国産磁器には同じデザインが何枚かセットになっている資料が多い。最も揃うのは19客で(022～040)、元来は10客が2組の20客で購入された可能性がある。また、10客組の例が最も多く、国産磁器で4例、国産陶器で1例ある。また、これは5客2組の揃いで購入された可能性がある。これらの碗皿類は景德鎮の模倣で高台内、見込に「大明成化年」「大明製」と記される例が多く見られる。輸入磁器では青花碗皿類にも揃物となるのは6例あり、10客組は2例である。これらの中でも優品にあげられるものとしては、国産磁器では色絵染

付皿(067・068)、色絵染付碗(069～080)、色絵皿(103～108)があり、染付蓋・鉢は同じ花文を呉須で描き、上絵付けでも赤色と金銀彩で描かれる。色絵皿は見込みに上絵付で金彩の草花文を施された特注品と考えられる。国産陶器では10客組の肥前産の灰釉溝縁皿(218～227)、錆釉染付皿(086～088)があげられる。輸入磁器では10客組に青花碗(159～168)と青花鉢(176～185)がある。青花碗は体部外面四方に4文字で「福寿康寧」銘が入る。5客組では青花芙蓉手鉢(170～174・186～190)などがあり同様に優品である。

第3に上記資料の年代の幅が広く、14世紀後半から17世紀後半頃までの幅広い資料が含まれる。14世紀後半～15世紀中頃までの資料には龍泉窯系青磁皿(201)、おなじく香炉(204)がある。安禅寺創建期からの伝世品の可能性がある。16世紀後半の資料は、景德鎮系青花小鉢(176)、朝鮮産白磁鉢(205)、ベトナム産白磁碗(206)である。17世紀初頭～17世紀前半の主な資料には、輸入磁器では、景德鎮窯系の青花芙蓉手兜鉢(186～191)、青花鉢(170～174)、青花印籠(192)、漳州窯系では青花碗・皿類(197・198)、五彩印判手大皿(199)などがある。国産施釉陶器では絵唐津杳形碗(216・217)、高取系筒形碗(214)、溝縁皿(218～227)、高取系鉢(228)、国産焼締陶器の高取系水指(248)などがある。1630～40年代に時期限定できる資料としては、国産磁器の肥前染付碗(047)、面取染付碗(048)、染付兎文皿(099)、染付宝文皿(102)、染付瓶類(152～155)などがある。17世紀中頃の資料には京焼碗類(209～212)がある。

17世紀後半の主な資料には、肥前染付杯(022～040)、色絵染付皿鉢蓋物(067～080)、錆釉染付皿(086～088)、白磁木瓜文形皿(109～118)、白磁変形皿(119～128)、五彩蓋付壺(144・145)、五彩蓋付鉢(146・147)など揃物の優品がある。陶磁器類以外で共伴出土

している陶磁器類以外では土師器皿（001～016）があり、これら土師器皿は土師器型式編年では17世紀後半期（1650～80年）の時期幅に比定される。このことから、14世紀後半から17世紀前半までの各土器類は安禅寺が伝世品を所蔵し、あるいは逐次的に購入していたことを示している。

第4に茶道具が多く含まれる。茶道具には抹茶を使用する茶道具と急須を用いて茶葉に湯を注いで飲む煎茶道具がある。前者は桃山時代～江戸時代初期のものが多く含まれ、絵唐津杳茶碗（216・217）、絵唐津鉢（229）、瀬戸・美濃天目茶碗（232）、瀬戸・美濃、中国産の茶入（235～246）、高取産水指（248）、高取産四耳壺（256・257）、丹波産建水（253）、伊賀産壺（254）、茶臼（280・281）などがあり、これらは伝世品に位置づけられる。後者では安禅寺が、17世紀後半には文人趣味の一つである煎茶文化を受け入れていたことを示す資料として、中国宜興窯の茶罐、煎茶碗として使用された可能性がある染付杯（018～040）が含まれる。

金属製品 9点（265～273）を指定候補とした。銅製品6点、鉄製品2点、真鍮製品1点からなる。銅製品には香道具（266）がある。

銭貨 2点（274～275）を指定候補とした。永楽通寶と寛文8年（1668）以降に鑄造された新寛永通寶である。

角製品 1点（276）を指定候補とした。茶入蓋で、鹿角製である。

石製品 5点（277～281）を指定候補とした。硯片3点である。そのうち松文様の彫刻が施されたもの（278）、葉脈を表すような線刻と彫刻が施されたもの（279）があり、輸入品の可能性がある文人趣味に関連する文房具である。碾茶（てんちゃ）をひいて抹茶にする茶臼は2点である。茶臼は2次被熱の痕跡があり、火災の影響を受けたものと考えられる。

上記資料は、天正期の僧寺転換後に用いられ

ていたものであるが、伝製品や優品を揃いで多く所有していたことは、日常的な使用ではなく、儀礼や饗宴、年中行事などの接客用として使用された饗膳具であったことがうかがわれる。また茶の湯や煎茶文化を示す道具が多数含まれることなどから、江戸時代前期の門跡寺院の社交文化をよく示す資料構成とすることができる。

2. 櫛笥家出土品について

櫛笥家出土品、すなわち土坑 G1447 から選択した指定遺物候補は以下のとおりである。

土器類 273点（001～273）を指定候補とした。

土器類の内訳は、土師器59点、国産磁器（肥前）102点、輸入磁器59点、国産施釉陶器（肥前・京都・瀬戸・美濃産）44点、国産焼締陶器（備前・丹波産）9点。

これら候補土器類の種類別組成、国内産地別組成、生産国別組成は表2に示した。

土坑 G1447 出土土器類の特徴は3つある。

第1に資料に二次被熱の痕跡が認められない。このため、同遺構は日常的なゴミ捨て穴として機能していたと考えられる。廃棄された17世紀前半の国産磁器には、いわゆる初期伊万里である染付皿（124）、陶器には瀬戸・美濃天目茶碗（230・240・241～243）、1630～40年代に比定される資料には、初期伊万里よりも類例が少ないとされる肥前碗（070）、灰釉陶器碗（236）、17世紀中頃（1650年代）の資料には、内野山窯系に推定されるいわゆる呉器手風碗（247）など若干の古い年代の資料があるが、全体的に17世紀後半（1670年代）の資料が多くみられる。また、伝世品として16世紀前半に比定される資料として瀬戸産の天目茶碗（228・229）が含まれる。

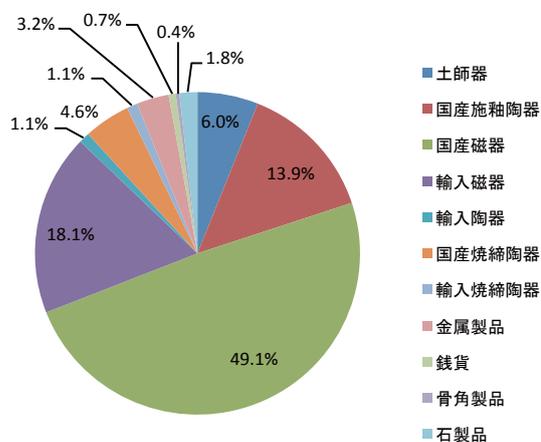
第2に公家で日常的に用いられていた雑器類が多く含まれる。土師器は、皿（001～028）と泉州系の焼塩壺蓋（043～048）、焼塩壺身

表1 穴蔵G749 指定候補比率一覧表

指定候補種類別組成

種類	点数	比率
土師器	17	6.0%
国産施釉陶器	39	13.9%
国産磁器	138	49.1%
輸入磁器	51	18.1%
輸入陶器	3	1.1%
国産焼締陶器	13	4.6%
輸入焼締陶器	3	1.1%
金属製品	9	3.2%
銭貨	2	0.7%
骨角製品	1	0.4%
石製品	5	1.8%
	281	100%

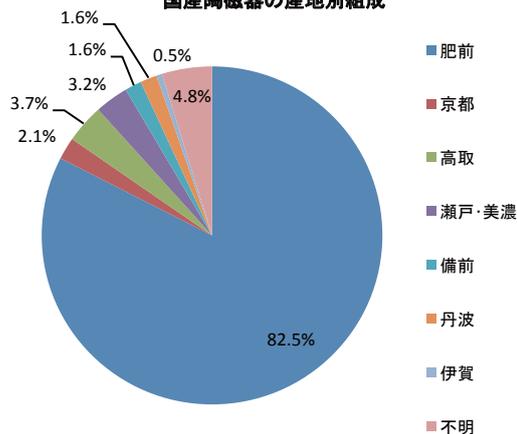
指定候補種類別組成



国産陶磁器国内産地別組成

種類	点数	比率
肥前	156	82.5%
京都	4	2.1%
高取	7	3.7%
瀬戸・美濃	6	3.2%
備前	3	1.6%
丹波	3	1.6%
伊賀	1	0.5%
不明	9	4.8%
	189	100%

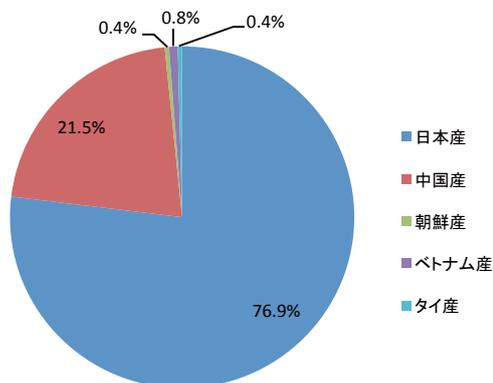
国産陶磁器の産地別組成



陶磁器生産国別組成

種類	点数	比率
日本産	190	76.9%
中国産	53	21.5%
朝鮮産	1	0.4%
ベトナム産	2	0.8%
タイ産	1	0.4%
	247	100%

陶磁器生産国別組成



(055～059) や京都系(岩倉)の焼塩壺(049～054)が出土しており、泉州系の焼塩壺には「ミなと藤左エ門」の刻文があるものがある。陶磁器には、肥前産で高台内、見込みに「太明」「太明成化」の銘が記される椀皿が多く見られる。

第3に安禅寺穴蔵G749出土資料のような揃物はない。ただし、一般には流通をしていないような優品が多く含まれる。輸入磁器の景德鎮系では色絵小杯、青花碗・皿・壺類、白磁蓋、鉄釉皿など52点あり、揃物を含めた穴蔵G749よりも多い。特に青花皿・鉢類(196～217)、青花壺・瓶(218～220)、白磁蓋(214)など優品がある。国産施釉陶器では京焼隅切り折敷(263)、京焼色絵皿(226)、京焼錆絵碗(225)、京焼色絵平碗(235)、京焼灰釉水滴(223)、京焼を模倣した肥前陶器の錆絵平碗(234)がある。茶道具関係では上記の伝世品天目茶碗、瀬戸・美濃産の天目茶碗(230・241～243)、肥前系の壁掛け双耳花生(261)、いわゆる朝鮮唐津と称される徳利(262)がある。

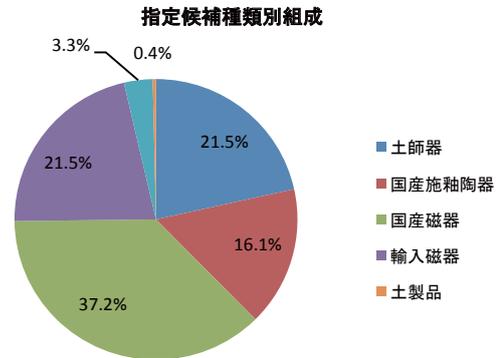
土製品 1点(274)を指定候補とした。植木鉢に転用などが考えられる埴塙である。

上記資料は、安禅寺のように揃物を有するわけではないが、優品が多く含まれる。また日常的に用いられていた資料も含まれることから、江戸時代前期の公家の生活文化をよく示す構成といえることができる。

表2 土坑G1447 指定候補比率一覽表

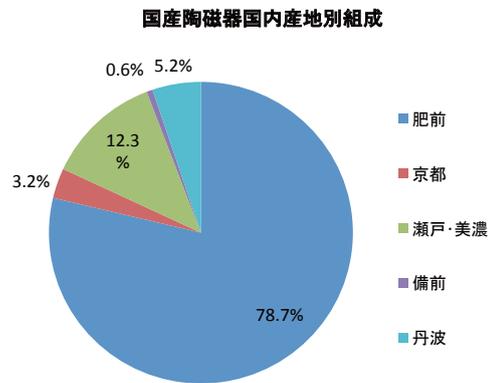
指定候補種類別組成

種類	点数	比率
土師器	59	21.5%
国産施釉陶器	44	16.1%
国産磁器	102	37.2%
輸入磁器	59	21.5%
国産焼締陶器	9	3.3%
土製品	1	0.4%
	274	100%



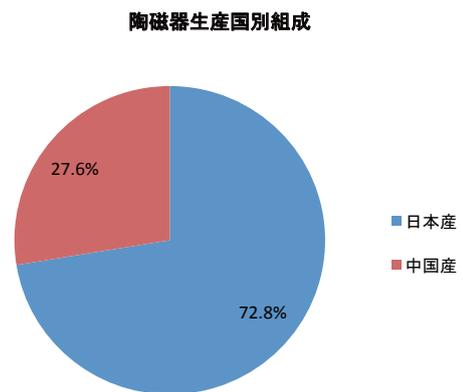
国産陶磁器国内産地別組成

産地	点数	比率
肥前	122	78.7%
京都	5	3.2%
瀬戸・美濃	19	12.3%
備前	1	0.6%
丹波	8	5.2%
	155	100%



陶磁器生産国別組成

生産国	点数	比率
日本産	155	72%
中国産	59	28%
	214	100%



文献目録

【公家町関連】

1. 池田正一郎『日本災変通志』新人物往来社、2004年。
2. 川上貢「公家住宅の変遷について」冷泉為任編『冷泉家の歴史』朝日新聞社、1981年、135-178頁。
3. 川上貢「竹内門跡屋敷指図について」『建築指図を読む』中央公論美術出版、1988年、74-84頁。
4. 西川幸治・森谷尅久「公家町の展開」林屋辰三郎編『京都の歴史5 近世の展開』学芸書林、1972年、492-496頁。
5. 武部敏夫「櫛笥家」、国史大辞典編集委員会編『国史大辞典』第4巻、吉川弘文館、1979年、758頁。
6. 新修京都叢書刊行会「拾遺都名所圖會卷一」『新修京都叢書』第7巻、臨川書店、1967年、71頁。
7. 新修京都叢書刊行会「京都坊目誌上京第九学区之部」『新修京都叢書』第18巻、臨川書店、1968年、272・273・411頁。
8. 新修京都叢書刊行会「山城名勝志巻之二」『新修京都叢書』第13巻、臨川書店、1968年、79頁。
9. 新修京都叢書刊行会「京町鑑縦町」『新修京都叢書』第3巻、臨川書店、1969年、180頁。
10. 新修京都叢書刊行会「山城名跡巡行志第一」『新修京都叢書』第22巻、臨川書店、1972年、242頁。
11. 菅原正子「中世後期-天皇家と比丘尼御所」服藤早苗編『歴史の中の皇女たち』小学館、2002年、149-186頁。
12. 杉森哲也「第1章 近世京都の成立-京都改造を中心に」『近世京都の都市と社会』東京大学出版会、2008年、19-50頁。
13. 高木博志「近世の内裏空間・近代の京都御苑」『近代天皇制と古都』岩波書店、2006年、93-132頁。
14. 東京大学史料編纂所「孝亮宿禰日次記」『大日本史料 第十二編之七』東京大学出版会、1905年、333-334頁。
15. 登谷伸宏『近世の公家社会と京都 集住のかたちと都市社会』思文閣出版、2015年。
16. 西口順子「天皇家の尼寺-安禪寺を中心に-」『中世の女性と仏教』法蔵館、2006年、33-58頁。
17. 橋本政宣「櫛笥家」同編『公家事典』吉川弘文館、2010年、604-606頁。
18. 森忠文「明治初期における京都御苑の造成について」『造園雑誌』Vol.41, No.3 日本造園学会、1978年、14-23頁。

【遺物関連】

19. 愛知県陶磁資料館学芸課編『呉須赤絵・呉須染付・餅花手-スワトウ・ウェアの世界-』愛知県陶磁資料館、1996年。
20. 愛知県陶磁資料館学芸課編『遺跡にみる戦国・桃山の茶道具-特別出品・茶の湯の名陶』愛知県陶磁資料館、1997年。
21. 愛知県陶磁資料館学芸課編『煎茶とやきもの-江戸・明治の中国趣味-』愛知県陶磁資料館、2000年。
22. 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター編『瀬戸大窯とその時代 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立10周年記念・企画展図録』瀬戸市埋蔵文化財センター、2001年。
23. 大橋康二『古伊万里の文様-初期肥前磁器を中心に-』理工学社、1994年。
24. 九州近世陶磁学会編『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会、2000年。
25. 九州近世陶磁学会編『第12回九州近世陶磁学会資料 国内出土の肥前陶磁 西日本の流通をさぐる』(第1分冊)、九州近世陶磁学会、2002年。

26. 京都国立博物館編『特別展覧会 日本人が好んだ中国陶磁』京都国立博物館、1991年。
27. 京都国立博物館編『特別展覧会 京焼 - みやこの意匠と技』京都国立博物館、2006年。
28. 京都大学埋蔵文化財研究センター編『京都大学構内遺跡調査研究年報 1996年度』京都大学埋蔵文化財研究センター、2000年。
29. 伏見城研究会・京都市住宅局編『伏見奉行所発掘調査報告Ⅱ-桃陵団地立て替え工事に伴う埋蔵文化財調査-』伏見城研究会・京都市住宅局、1997年。
30. 財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平安京左京二条四坊十町』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 第19冊、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2001年。
31. 財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平安京左京北辺四坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2004年。
32. 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『研究紀要』第3号、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1996年、187-271頁。
33. 佐賀県立九州陶磁文化館編『柿右衛門-その様式の全容-』佐賀県立九州陶磁文化館、1999年。
34. 茶道資料館編『東南アジアの茶道具 わび茶が伝えた名器』茶道資料館、2002年。
35. 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター編『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品-東アジア的視野から』財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター、2001年。
36. 弦本美菜子「日本における漳州窯系陶磁器の流通・消費」『陶磁器の考古学』雄山閣、2016年、137-151頁。
37. 鈴木重治・同志社大学校地学術調査委員会編『上京・西大路町遺跡桜の御所址隣接地点の発掘-同志社大学育真館地点の発掘調査-』、同志社大学校地学術調査委員会、1997年。
38. 東洋陶磁学会編『東洋陶磁史-その研究の現在-』東洋陶磁学会、2002年。
39. 土岐市美濃陶磁歴史館編『美濃桃山陶の系譜』土岐市美濃陶磁歴史館、1995年。
40. 土岐市美濃陶磁歴史館編『洛中桃山のやきもの-新兵衛宅跡出土資料ほか』土岐市美濃陶磁歴史館、1997年。
41. 土岐市美濃陶磁歴史館編『織部 御深井 古染付-桃山から江戸のやきものへ』土岐市美濃陶磁歴史館、1999年。
42. 土岐市美濃陶磁歴史館編『豊臣期のやきもの-大坂城出土の桃山陶磁』土岐市美濃陶磁歴史館、2000年。
43. 根津美術館編『南蛮・島物-南海請来の茶陶-』根津美術館、1993年。
44. 根津美術館編『知られざる唐津 二彩・単色釉・三島手』根津美術館、2002年。
45. 藤沢良祐『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年。
46. 堀内秀樹「江戸遺跡出土陶磁器の段階設定とその画期」『竹石健二先生・澤田大多郎先生還暦記念論文集』竹石健二先生・澤田大多郎両先生の還暦を祝う会、2000年。
47. 村上伸之「肥前における明・清磁器の影響」『貿易陶磁研究』No.19 日本貿易陶磁研究会、1999年、65-84頁。
48. 矢部良明他編『角川日本陶磁大辞典』角川書店、2002年。
49. 財団法人冷泉家時雨亭文庫・朝日新聞社編『冷泉家展-近世公家の生活と伝統文化-』財団法人冷泉家時雨亭文庫・朝日新聞社、1999年。
50. 渡辺誠「焼塩壺」江戸遺跡研究会編『江戸の食文化』吉川弘文館、1992年、107-127頁。

図 版





001 土師器 皿



002 土師器 皿



003 土師器 皿



004 土師器 皿



005 土師器 皿



006 土師器 皿



007 土師器 皿



008 土師器 皿



009 土師器 皿



010 土師器 皿



011 土師器 皿



012 土師器 皿



013 土師器 皿



014 土師器 皿



015 土師器 皿



016 土師器 皿



017 土師器 羽釜



018 国産磁器 染付杯

公家町遺跡（安禪寺杉之坊） 019～036



019 国産磁器 染付杯



020 国産磁器 染付杯



021 国産磁器 染付杯



022 国産磁器 染付杯



023 国産磁器 染付杯



024 国産磁器 染付杯



025 国産磁器 染付杯



026 国産磁器 染付杯



027 国産磁器 染付杯



028 国産磁器 染付杯



029 国産磁器 染付杯



030 国産磁器 染付杯



031 国産磁器 染付杯



032 国産磁器 染付杯



033 国産磁器 染付杯



034 国産磁器 染付杯



035 国産磁器 染付杯



036 国産磁器 染付杯



037 国産磁器 染付杯



038 国産磁器 染付杯



039 国産磁器 染付杯



040 国産磁器 染付杯



041 国産磁器 染付碗



042 国産磁器 染付碗



043 国産磁器 染付碗



044 国産磁器 染付碗



045 国産磁器 染付碗



046 国産磁器 染付碗



047 国産磁器 染付碗



048 国産磁器 染付碗



049 国産磁器 染付碗



050 国産磁器 染付碗



051 国産磁器 染付碗



052 国産磁器 染付碗



053 国産磁器 染付碗



054 国産磁器 染付碗

公家町遺跡（安禅寺杉之坊） 055～072



055 国産磁器 染付碗



056 国産磁器 染付碗



057 国産磁器 染付碗



058 国産磁器 染付碗



059 国産磁器 染付碗



060 国産磁器 染付碗



061 国産磁器 染付碗



062 国産磁器 染付碗



063 国産磁器 染付碗



064 国産磁器 染付碗



065 国産磁器 染付碗



066 国産磁器 色絵染付碗



067 国産磁器 色絵染付皿



068 国産磁器 色絵染付皿



069 国産磁器 色絵染付碗



070 国産磁器 色絵染付碗



071 国産磁器 色絵染付碗



072 国産磁器 色絵染付碗



073 国産磁器 色絵染付碗



074 国産磁器 色絵染付碗



075 国産磁器 色絵染付碗



076 国産磁器 色絵染付碗



077 国産磁器 色絵染付碗



078 国産磁器 色絵染付碗



079 国産磁器 色絵染付碗



080 国産磁器 色絵染付碗



081 国産磁器 白磁碗



082 国産磁器 白磁杯



083 国産磁器 白磁杯



084 国産磁器 白磁碗



085 国産磁器 白磁碗



086 国産磁器 錆釉染付皿



087 国産磁器 錆釉染付皿



088 国産磁器 錆釉染付皿



089 国産磁器 染付隅入り皿



090 国産磁器 染付隅入り皿

公家町遺跡（安禅寺杉之坊） 091～108



091 国産磁器 染付隅入り皿



092 国産磁器 染付隅入り皿



093 国産磁器 染付隅入り皿



094 国産磁器 染付隅入り皿



095 国産磁器 染付隅入り皿



096 国産磁器 染付隅入り皿



097 国産磁器 染付隅入り皿



098 国産磁器 染付隅入り皿



099 国産磁器 染付皿



100 国産磁器 染付皿



101 国産磁器 染付皿



102 国産磁器 染付皿



103 国産磁器 色絵皿



104 国産磁器 色絵皿



105 国産磁器 色絵皿



106 国産磁器 色絵皿



107 国産磁器 色絵皿



108 国産磁器 色絵皿



109 国産磁器 白磁輪花皿



110 国産磁器 白磁輪花皿



111 国産磁器 白磁輪花皿



112 国産磁器 白磁輪花皿



113 国産磁器 白磁輪花皿



114 国産磁器 白磁輪花皿



115 国産磁器 白磁輪花皿



116 国産磁器 白磁輪花皿



117 国産磁器 白磁輪花皿



118 国産磁器 白磁輪花皿



119 国産磁器 白磁変形皿



120 国産磁器 白磁変形皿



121 国産磁器 白磁変形皿



122 国産磁器 白磁変形皿



123 国産磁器 白磁変形皿



124 国産磁器 白磁変形皿



125 国産磁器 白磁変形皿



126 国産磁器 白磁変形皿



127 国産磁器 白磁変形皿



128 国産磁器 白磁変形皿



129 国産磁器 白磁輪花皿



130 国産磁器 白磁輪花皿



131 国産磁器 白磁輪花皿



132 国産磁器 白磁輪花皿



133 国産磁器 白磁輪花皿



134 国産磁器 白磁輪花皿



135 国産磁器 白磁輪花皿



136 国産磁器 白磁輪花皿



137 国産磁器 白磁輪花皿



138 国産磁器 白磁輪花皿



139 国産磁器 白磁皿



140 国産磁器 白磁皿



141 国産磁器 染付合子蓋



142 国産磁器 染付合子身



143 国産磁器 染付香炉身



144 国産磁器 五彩壺蓋



145 国産磁器 五彩壺



146 国産磁器 五彩壺蓋



147 国産磁器 五彩鉢



148 国産磁器 染付壺



149 国産磁器 染付壺



150 国産磁器 染付鉢



151 国産磁器 染付鉢



152 国産磁器 染付瓶



153 国産磁器 染付瓶



154 国産磁器 染付瓶



155 国産磁器 染付瓶



156 輸入磁器 青花鉢



157 輸入磁器 青花鉢



158 輸入磁器 青花碗



159 輸入磁器 青花碗



160 輸入磁器 青花碗



161 輸入磁器 青花碗



162 輸入磁器 青花碗



163 輸入磁器 青花碗



164 輸入磁器 青花碗



165 輸入磁器 青花碗



166 輸入磁器 青花碗



167 輸入磁器 青花碗



168 輸入磁器 青花碗



169 輸入磁器 青花碗



170 輸入磁器 青花鉢



171 輸入磁器 青花鉢



172 輸入磁器 青花鉢



173 輸入磁器 青花鉢



174 輸入磁器 青花鉢



175 輸入磁器 青花鉢



176 輸入磁器 青花鉢



177 輸入磁器 青花鉢



178 輸入磁器 青花鉢



179 輸入磁器 青花鉢



180 輸入磁器 青花鉢



181 輸入磁器 青花鉢



182 輸入磁器 青花鉢



183 輸入磁器 青花鉢



184 輸入磁器 青花鉢



185 輸入磁器 青花鉢



186 輸入磁器 青花鉢



187 輸入磁器 青花鉢



188 輸入磁器 青花鉢



189 輸入磁器 青花鉢



190 輸入磁器 青花鉢



191 輸入磁器 青花鉢



192 輸入磁器 青花印籠



193 輸入磁器 青花皿



194 輸入磁器 青花皿



195 輸入磁器 青花皿



196 輸入磁器 青花皿



197 輸入磁器 青花碗



198 輸入磁器 青花皿



199 輸入磁器 五彩印判手大皿



200 輸入磁器 白磁碗



201 輸入磁器 青磁皿



202 輸入磁器 青花馬上杯



203 輸入磁器 青花馬上杯



204 輸入磁器 青磁香炉



205 輸入磁器 白磁鉢



206 輸入磁器 白磁碗



207 輸入磁器 紫泥茶罐蓋



208 輸入磁器 紫泥茶罐



209 国産施釉陶器 京焼筒形碗



210 国産施釉陶器 京焼平碗



211 国産施釉陶器 京焼平碗



212 国産施釉陶器 京焼平碗



213 国産施釉陶器 筒形碗



214 国産施釉陶器 筒形碗



215 国産施釉陶器 青緑釉碗



216 国産施釉陶器 絵唐津沓茶碗



217 国産施釉陶器 絵唐津沓茶碗



218 国産施釉陶器 溝縁皿



219 国産施釉陶器 溝縁皿



220 国産施釉陶器 溝縁皿



221 国産施釉陶器 溝縁皿



222 国産施釉陶器 溝縁皿



223 国産施釉陶器 溝縁皿



224 国産施釉陶器 溝縁皿



225 国産施釉陶器 溝縁皿



226 国産施釉陶器 溝縁皿



227 国産施釉陶器 溝縁皿



228 国産施釉陶器 鉢



229 国産施釉陶器 絵唐津鉢



230 国産施釉陶器 合子蓋



231 国産施釉陶器 蓋



232 国産施釉陶器 天目茶碗



233 国産施釉陶器 香炉



234 国産施釉陶器 香炉

公家町遺跡（安禅寺杉之坊） 235～252



235 国産施釉陶器 茶入



236 国産施釉陶器 茶入



237 国産施釉陶器 茶入



238 国産施釉陶器 茶入



239 国産施釉陶器 茶入



240 国産施釉陶器 茶入



241 国産施釉陶器 茶入



242 輸入陶器 茶入



243 国産施釉陶器 茶入



244 国産施釉陶器 茶入



245 国産施釉陶器 茶入



246 国陶器 茶入



247 国産施釉陶器 壺



248 国産施釉陶器 水指



249 国産施釉陶器 壺



250 国産焼締陶器 長胴瓶



251 国産焼締陶器 瓶



252 国産焼締陶器 徳利



253 国産焼締陶器 建水



254 国産焼締陶器 壺



255 国産焼締陶器 壺



256 国産焼締陶器 四耳壺



257 国産焼締陶器 四耳壺



258 国産焼締陶器 四耳壺



259 輸入焼締陶器 壺



260 国産焼締陶器 四耳壺



262 国産焼締陶器 搦鉢



261 国産焼締陶器 壺



263 国産焼締陶器 搦鉢



264 輸入焼締陶器 四耳壺



265 鉄製爛鍋



266 銅製香道具



267 蓋状銅製品



268 銅製蝶番



269 銅製飾金具

公家町遺跡（安禪寺杉之坊） 270～281



270 銅製飾金具



271 銅製小柄



272 真鍮製煙管



273 鉄製釘



274 永樂通寶



275 寛永通寶



276 茶入壺



277 碗



278 碗



279 碗



280 茶臼



281 茶臼



001 土師器 皿



002 土師器 皿



003 土師器 皿



004 土師器 皿



005 土師器 皿



006 土師器 皿



007 土師器 皿



008 土師器 皿



009 土師器 皿



010 土師器 皿



011 土師器 皿



012 土師器 皿



013 土師器 皿



014 土師器 皿



015 土師器 皿



016 土師器 皿



017 土師器 皿



018 土師器 皿

公家町遺跡（櫛笥家） 019～036



019 土師器 皿



020 土師器 皿



021 土師器 皿



022 土師器 皿



023 土師器 皿



024 土師器 皿



025 土師器 皿



026 土師器 皿



027 土師器 皿



028 土師器 蓋



029 土師器 小壺



030 土師器 小壺



031 土師器 小壺



032 土師器 小壺



033 土師器 ミニチュア壺



034 土師器 ミニチュア壺



035 土師器 ミニチュア壺



036 土師器 小型灯明皿



037 土師器 高杯



038 土師器 鉢



039 土師器 鉢



040 土師器 鉢



041 土師器 鉢



042 土師器 鉢



043 土師器 焼塩壺蓋



044 土師器 焼塩壺蓋



045 土師器 焼塩壺蓋



046 土師器 焼塩壺蓋



047 土師器 焼塩壺蓋



048 土師器 焼塩壺蓋



049 土師器 焼塩壺



050 土師器 焼塩壺



051 土師器 焼塩壺



052 土師器 焼塩壺



053 土師器 焼塩壺



054 土師器 焼塩壺

公家町遺跡（櫛笥家） 055～072



055 土師器 焼塩壺



056 土師器 焼塩壺



057 土師器 焼塩壺



058 土師器 焼塩壺



059 土師器 焼塩壺



060 国産磁器 染付小杯



061 国産磁器 染付小杯



062 国産磁器 色絵小杯



063 国産磁器 染付小杯



064 国産磁器 染付小杯



065 国産磁器 染付小杯



066 国産磁器 染付小杯



067 国産磁器 染付碗



068 国産磁器 染付小杯



069 国産磁器 染付小杯



070 国産磁器 染付碗



071 国産磁器 染付碗



072 国産磁器 染付碗



073 国産磁器 染付碗



074 国産磁器 染付碗



075 国産磁器 染付碗



076 国産磁器 染付碗



077 国産磁器 染付碗



078 国産磁器 染付碗



079 国産磁器 染付碗



080 国産磁器 染付碗



081 国産磁器 染付碗



082 国産磁器 染付碗



083 国産磁器 染付碗



084 国産磁器 染付碗



085 国産磁器 染付碗



086 国産磁器 染付碗



087 国産磁器 染付碗



088 国産磁器 染付碗



089 国産磁器 染付碗



090 国産磁器 染付碗

公家町遺跡（櫛笥家） 091～108



091 国産磁器 染付碗



092 国産磁器 染付碗



093 国産磁器 染付碗



094 国産磁器 染付碗



095 国産磁器 染付碗



096 国産磁器 染付碗



097 国産磁器 染付碗



098 国産磁器 染付碗



099 国産磁器 青磁碗



100 国産磁器 青磁碗



101 国産磁器 青磁碗



102 国産磁器 染付碗



103 国産磁器 染付碗



104 国産磁器 白磁碗



105 国産磁器 白磁碗



106 国産磁器 白磁碗



107 国産磁器 染付筒形碗



108 国産磁器 染付碗



109 国産磁器 染付碗



110 国産磁器 染付輪花皿



111 国産磁器 染付輪花皿



112 国産磁器 染付輪花皿



113 国産磁器 染付皿



114 国産磁器 染付皿



115 国産磁器 染付皿



116 国産磁器 染付皿



117 国産磁器 染付皿



118 国産磁器 染付皿



119 国産磁器 染付皿



120 国産磁器 染付皿



121 国産磁器 染付皿



122 国産磁器 染付皿



123 国産磁器 染付皿



124 国産磁器 染付皿



125 国産磁器 染付皿



126 国産磁器 染付輪花皿



127 国産磁器 染付輪花皿



128 国産磁器 染付輪花皿



129 国産磁器 染付輪花皿



130 国産磁器 染付輪花皿



131 国産磁器 染付輪花皿



132 国産磁器 染付輪花皿



133 国産磁器 染付輪花皿



134 国産磁器 色絵皿



135 国産磁器 染付皿



136 国産磁器 染付皿



137 国産磁器 染付皿



138 国産磁器 染付皿



139 国産磁器 染付皿



140 国産磁器 染付輪花皿



141 国産磁器 染付皿



142 国産磁器 染付碗



143 国産磁器 染付鉢



144 国産磁器 染付鉢



145 国産磁器 染付鉢



146 国産磁器 青磁鉢



147 国産磁器 青磁輪花鉢



148 国産磁器 青磁染付鉢



149 国産磁器 白磁鉢



150 国産磁器 白磁香炉



151 国産磁器 青磁香炉



152 国産磁器 染付鉢



153 国産磁器 染付皿



154 国産磁器 青磁盤



155 国産磁器 青磁盤



156 国産磁器 錆絵染付筒形容器



157 国産磁器 染付仏飴具



158 国産磁器 染付蓋



159 国産磁器 白磁人形



160 国産磁器 白磁人形



161 国産磁器 白磁人形



162 輸入磁器 色絵小杯



163 輸入磁器 染付小杯



164 輸入磁器 青花碗



165 輸入磁器 青花碗



166 輸入磁器 青花碗



167 輸入磁器 青花碗



168 輸入磁器 青花碗



169 輸入磁器 青花碗



170 輸入磁器 青花碗



171 輸入磁器 青花碗



172 輸入磁器 青花碗



173 輸入磁器 青花碗



174 輸入磁器 白磁輪花碗



175 輸入磁器 青磁小碗



176 輸入磁器 青花碗



177 輸入磁器 青花碗



178 輸入磁器 青花碗



179 輸入磁器 青花碗



180 輸入磁器 青花碗



181 輸入磁器 青花碗



182 輸入磁器 青花碗



183 輸入磁器 青花碗



184 輸入磁器 青花碗



185 輸入磁器 青花碗



186 輸入磁器 青花碗



187 輸入磁器 青花輪花鉢



188 輸入磁器 青花鉢



189 輸入磁器 青花鉢



190 輸入磁器 青花鉢



191 輸入磁器 青花鉢



192 輸入磁器 青花鉢



193 輸入磁器 青花鉢



194 輸入磁器 青花鉢



195 輸入磁器 青花鉢



196 輸入磁器 青花鉢



197 輸入磁器 青花鉢



198 輸入磁器 青花鉢



199 輸入磁器 青花鉢



200 輸入磁器 青花鉢



201 輸入磁器 青花皿



202 輸入磁器 青花皿



203 輸入磁器 青花皿



204 輸入磁器 青花鉢



205 輸入磁器 青花鉢



206 輸入磁器 青花鉢



207 輸入磁器 青花鉢



208 輸入磁器 青花鉢



209 輸入磁器 青花皿



210 輸入磁器 青花皿



211 輸入磁器 青花皿



212 輸入磁器 鉄釉皿



213 輸入磁器 青花皿



214 輸入磁器 白磁蓋



215 輸入磁器 青花鉢



216 輸入磁器 青花鉢



217 輸入磁器 青花鉢



218 輸入磁器 青花壺蓋



219 輸入磁器 青花壺



220 輸入磁器 青花瓶



221 国産施釉陶器 鉄釉碗



222 国産施釉陶器 鉄釉片口鉢



223 国産施釉陶器 京焼灰釉水滴



224 国産施釉陶器 鉄釉碗



225 国産施釉陶器 京焼錆絵碗



226 国産施釉陶器 京焼色絵皿



227 国産施釉陶器 鉄釉碗



228 国産施釉陶器 天目茶碗



229 国産施釉陶器 天目茶碗



230 国産施釉陶器 天目茶碗



231 国産施釉陶器 鉄釉小杯



232 国産施釉陶器 鉄釉小杯



233 国産施釉陶器 鉄釉小杯



234 国産施釉陶器 錆絵碗

公家町遺跡（櫛笥家） 235～252



235 国産施釉陶器 色絵平碗



236 国産施釉陶器 灰釉碗



237 国産施釉陶器 鉄釉鉢



238 国産施釉陶器 鉄釉鉢



239 国産施釉陶器 灰釉碗



240 国産施釉陶器 小天目茶碗



241 国産施釉陶器 天目茶碗



242 国産施釉陶器 天目茶碗



243 国産施釉陶器 天目茶碗



244 国産施釉陶器 灰釉小杯



245 国産施釉陶器 灰釉小杯



246 国産施釉陶器 鉄釉碗



247 国産施釉陶器 碗



248 国産施釉陶器 灰釉蓋



249 国産施釉陶器 鉄釉蓋



250 国産施釉陶器 灰釉蓋



251 国産施釉陶器 鉄釉蓋



252 国産施釉陶器 鉄釉鉢



253 国産施釉陶器 灰釉盤



254 国産施釉陶器 二彩唐津壺



255 国産施釉陶器 二彩唐津壺



256 国産施釉陶器 絵唐津壺



257 国産施釉陶器 鉄釉甕



258 国産施釉陶器 鉄釉壺



259 国産施釉陶器 三島唐津鉢



260 国産施釉陶器 二彩唐津鉢



261 国産施釉陶器 花生



262 国産施釉陶器 瓶



263 国産施釉陶器 京焼隅切折敷



264 国産施釉陶器 鉄釉水滴



265 国産焼締陶器 蓋



266 国産焼締陶器 片口壺



267 国産焼締陶器 盤



268 国産焼締陶器 盤



269 国産焼締陶器 盤



270 国産焼締陶器 盤

公家町遺跡（櫛笥家） 271～274



271 国産焼締陶器 盤



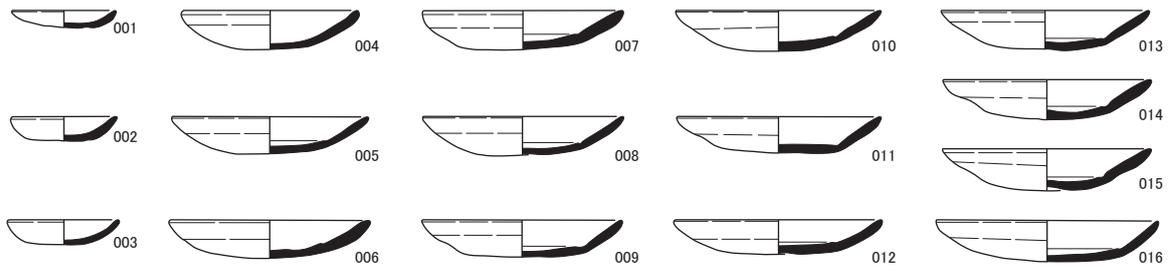
272 国産焼締陶器 搦鉢



273 国産焼締陶器 建水



274 土製品 坩堝

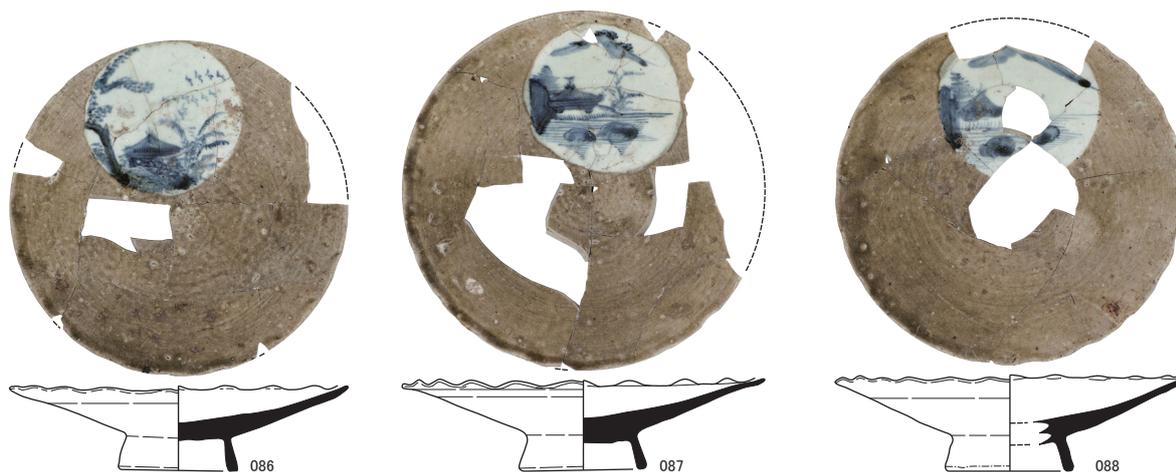


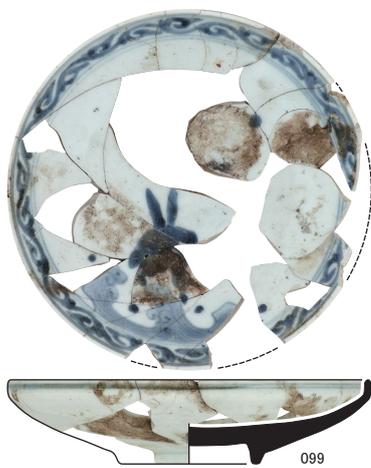
公家町遺跡（安禪寺杉之坊） 037～062、066





0 20cm







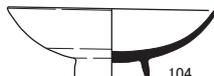
101



103



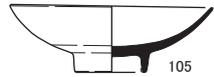
106



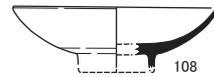
104



107



105



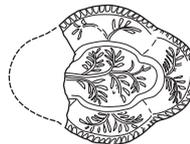
108



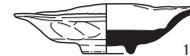
109



112



115



117



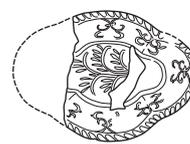
110



113



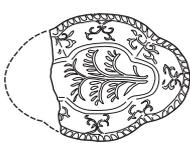
116



118

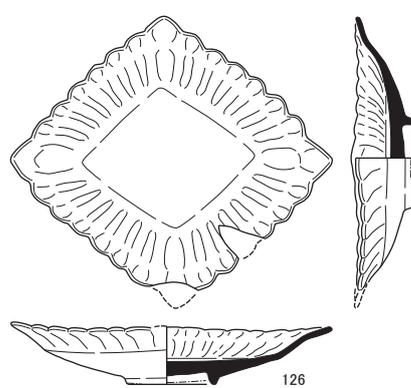
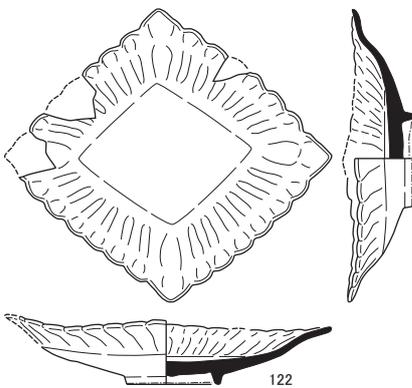
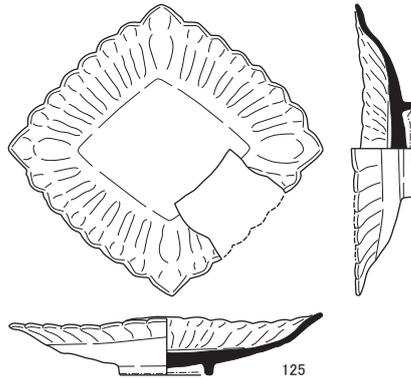
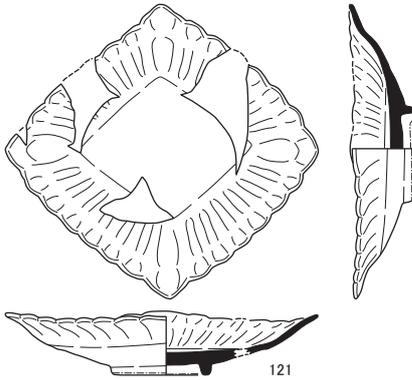
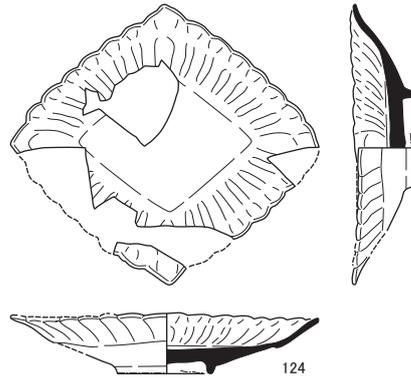
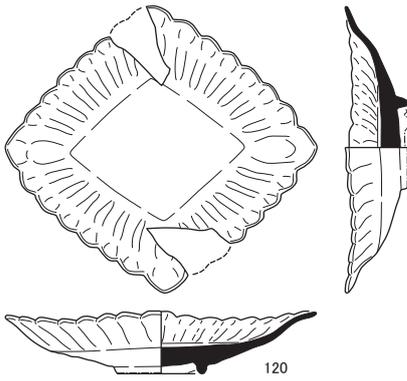
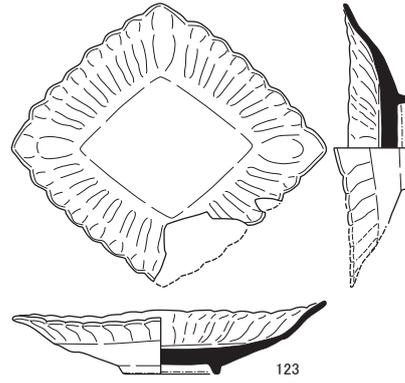
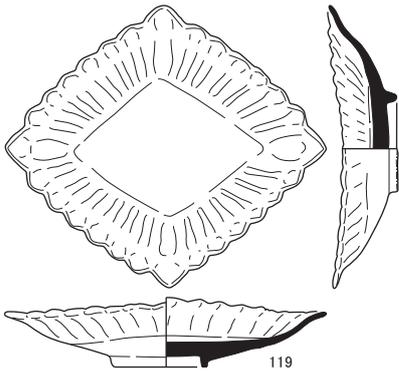


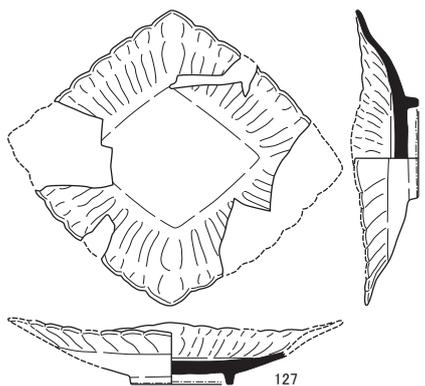
111



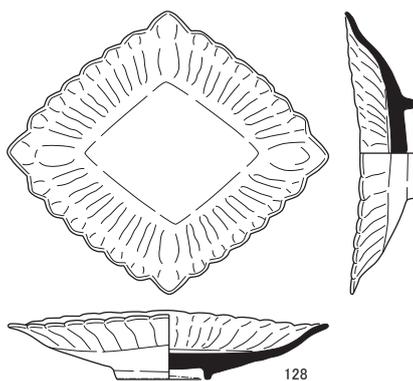
114



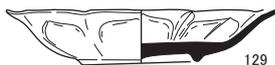
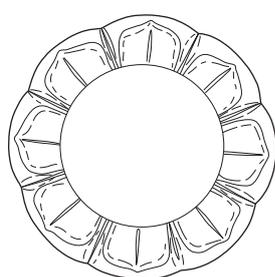




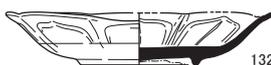
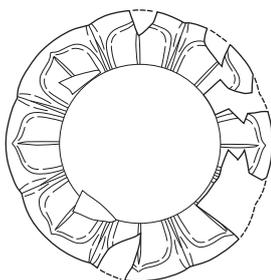
127



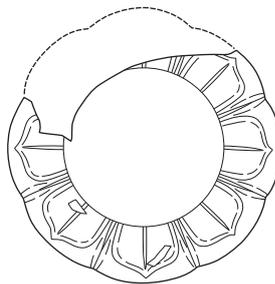
128



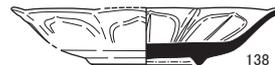
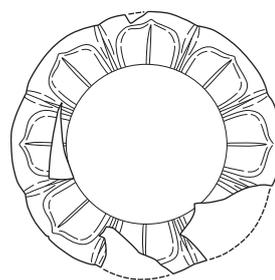
129



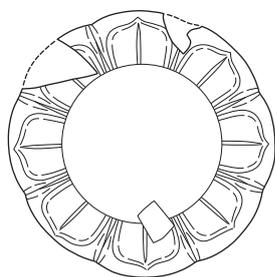
132



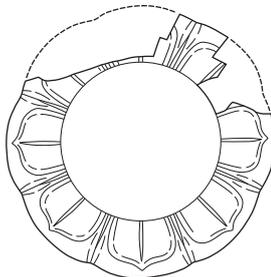
134



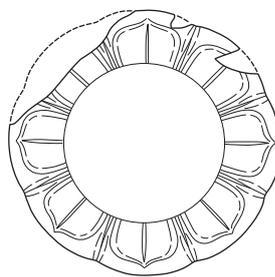
138



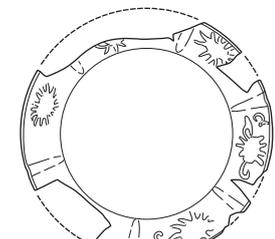
130



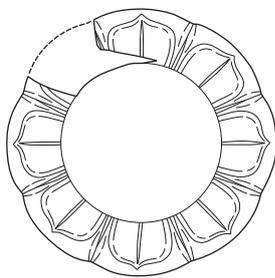
133



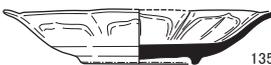
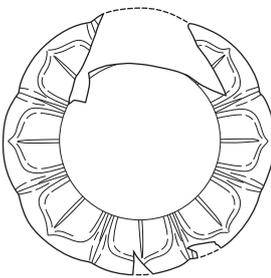
136



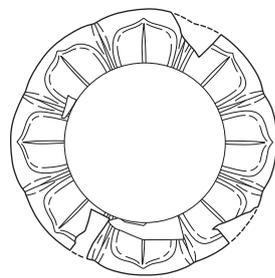
139



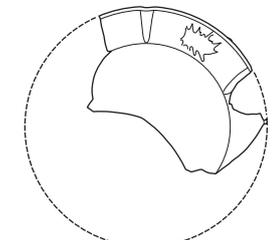
131



135

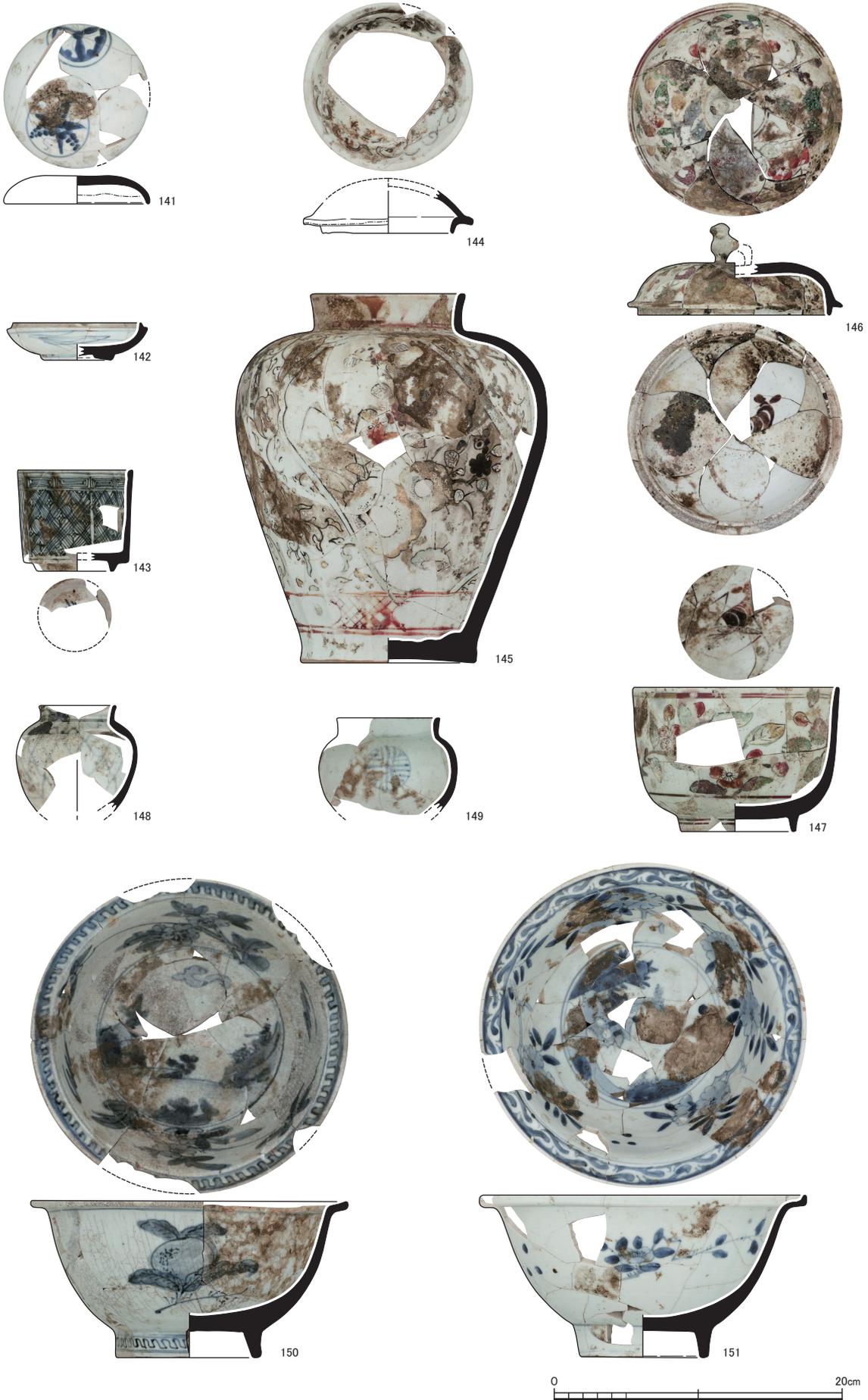


137



140

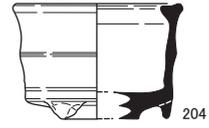




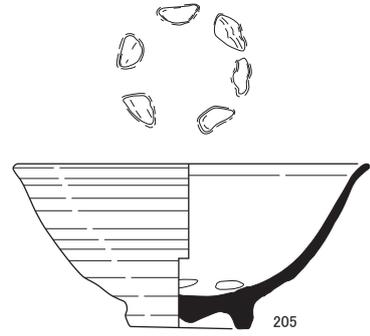




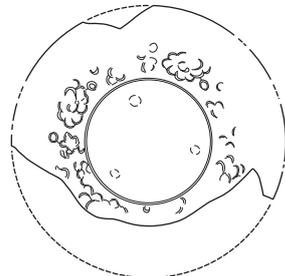




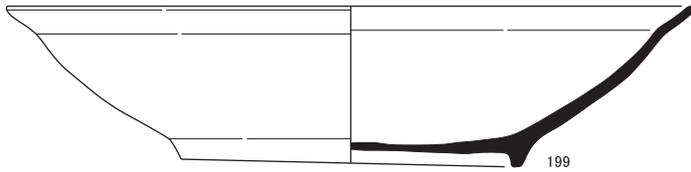
204



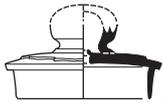
205



206



199



207



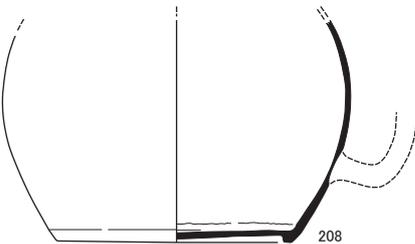
211



212



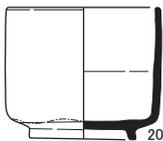
216



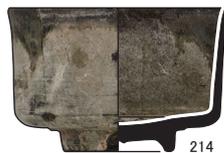
208



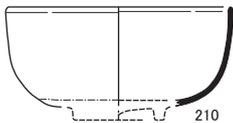
213



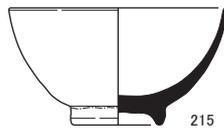
209



214



210

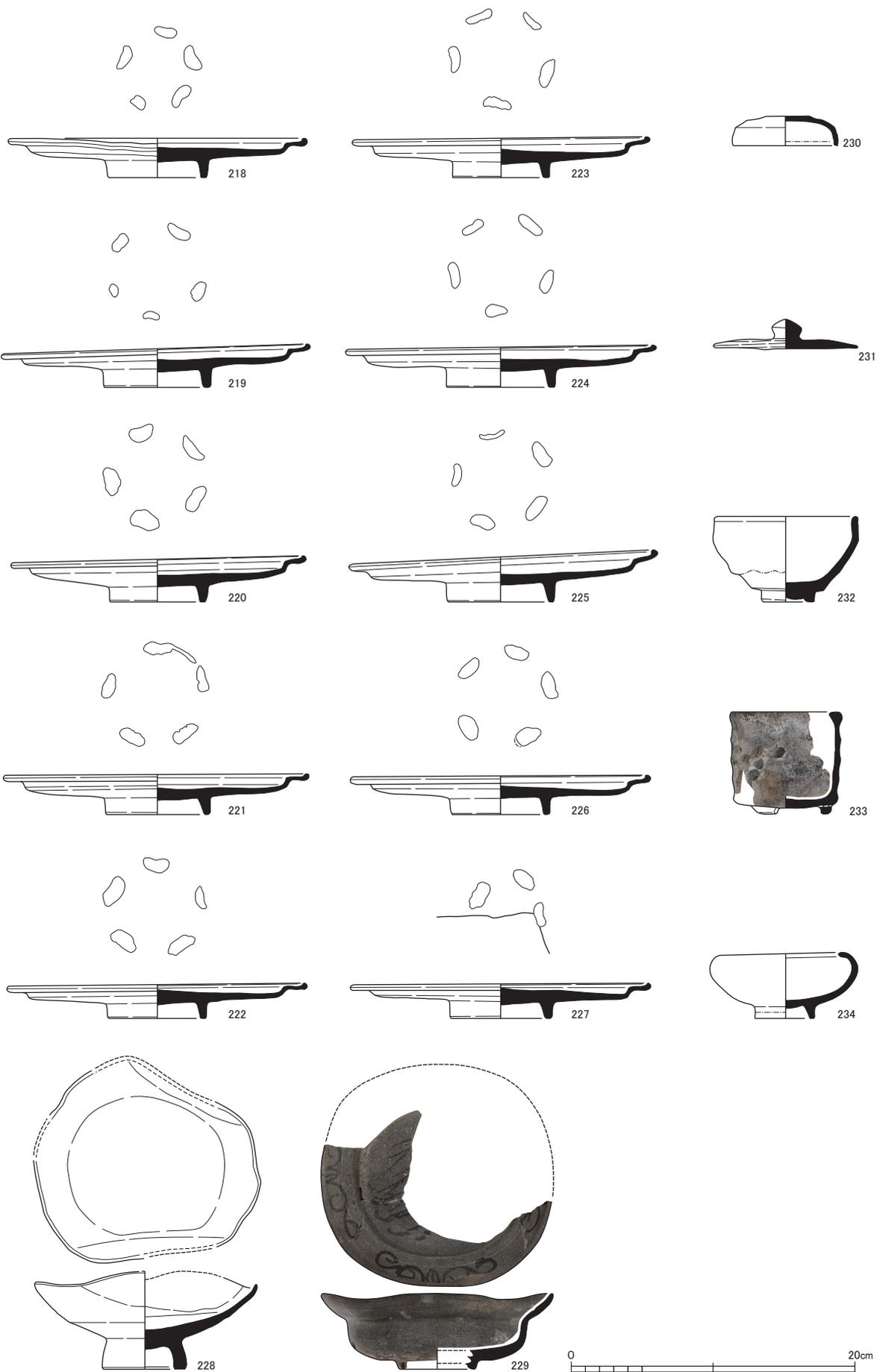


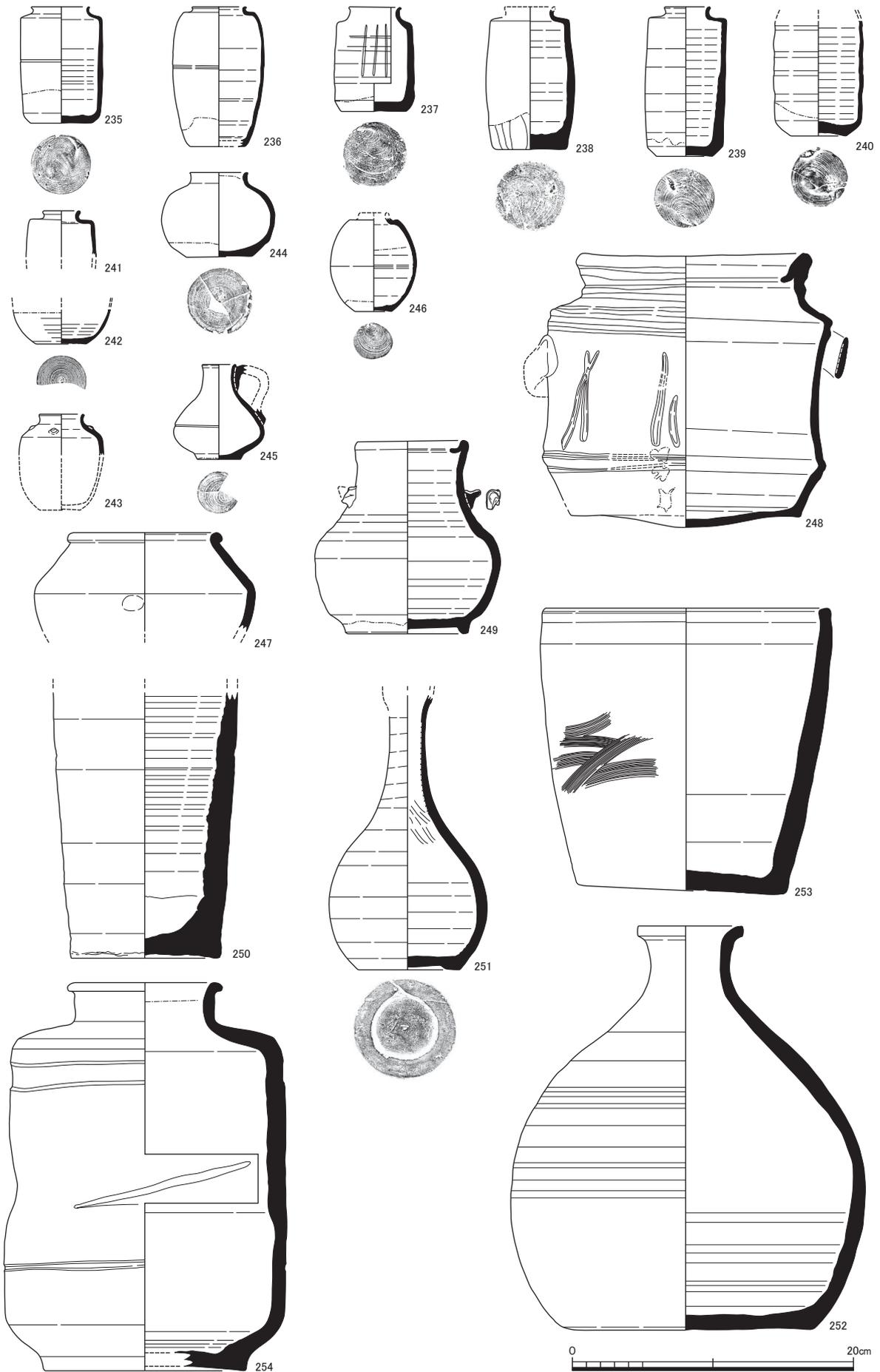
215

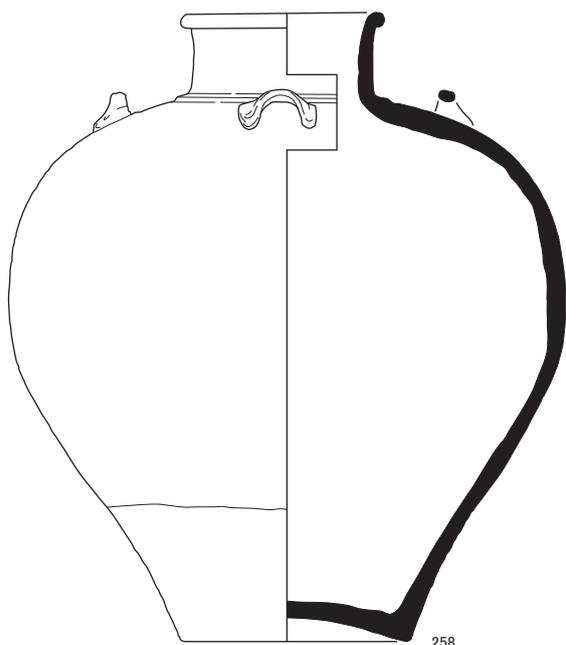


217

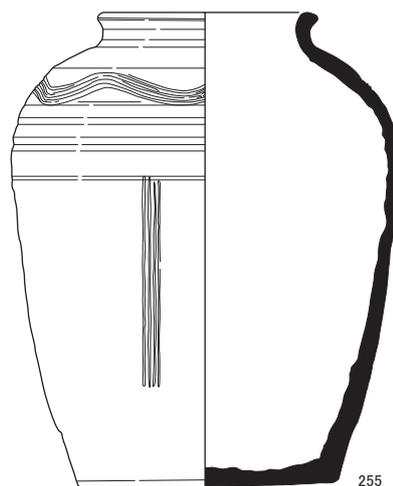




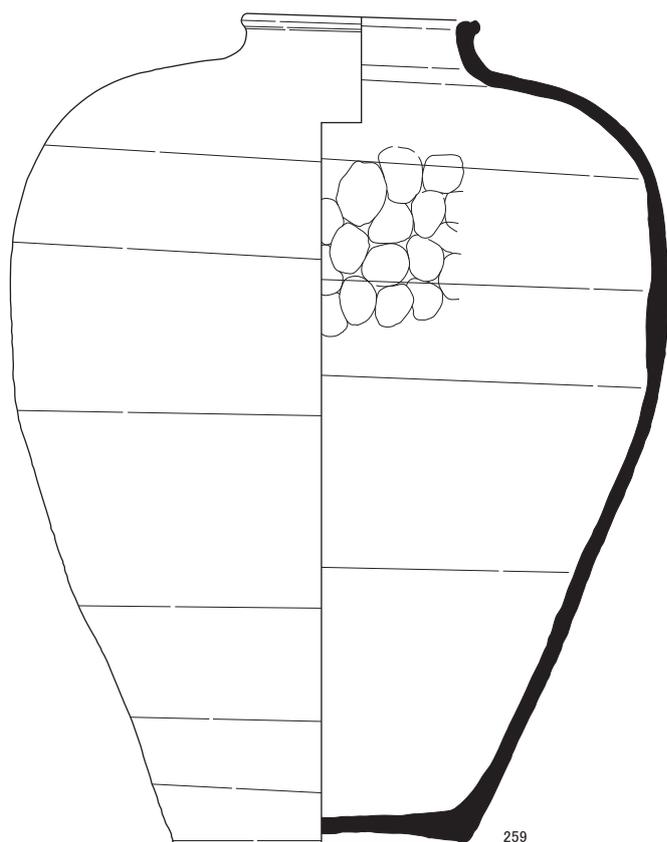




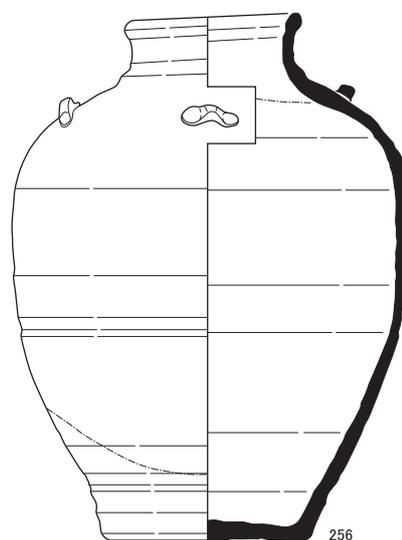
258



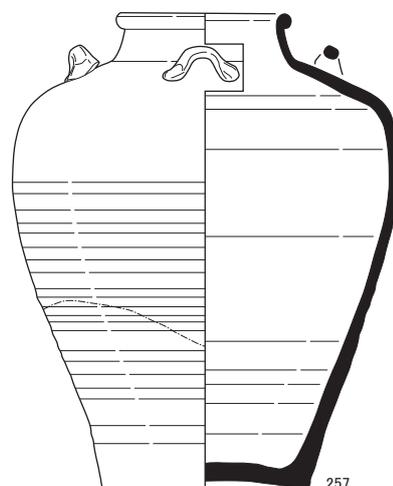
255



259

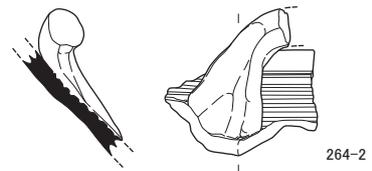
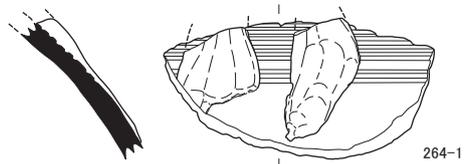
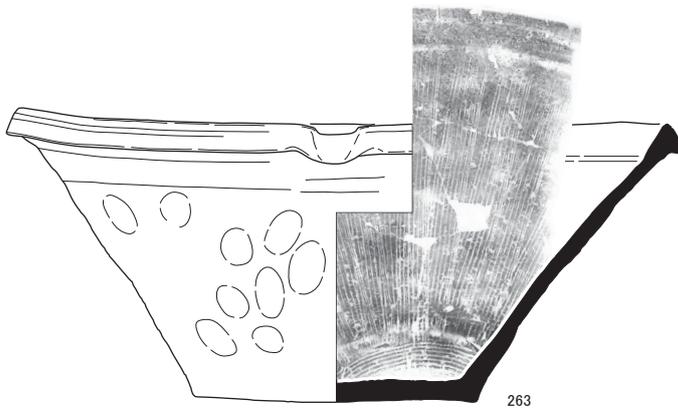
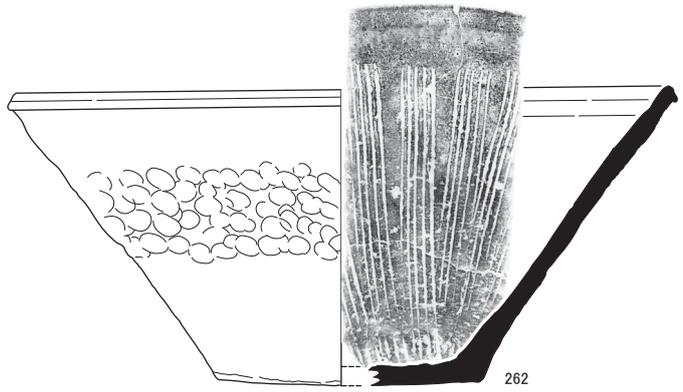
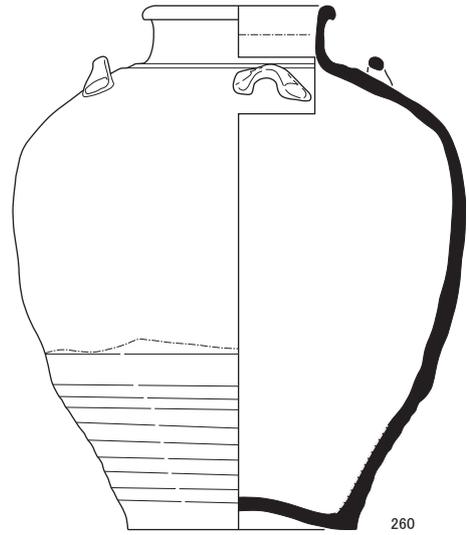
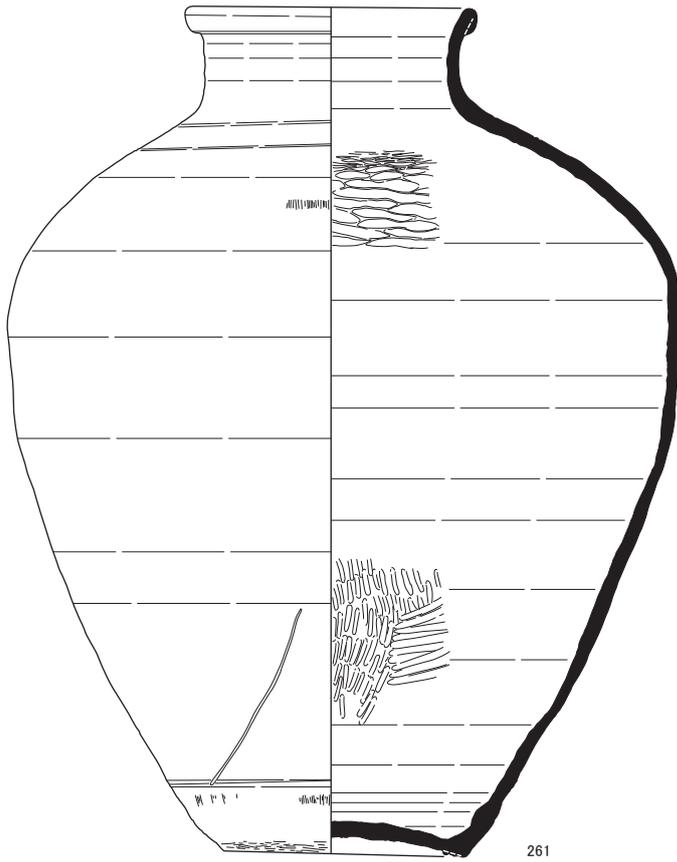


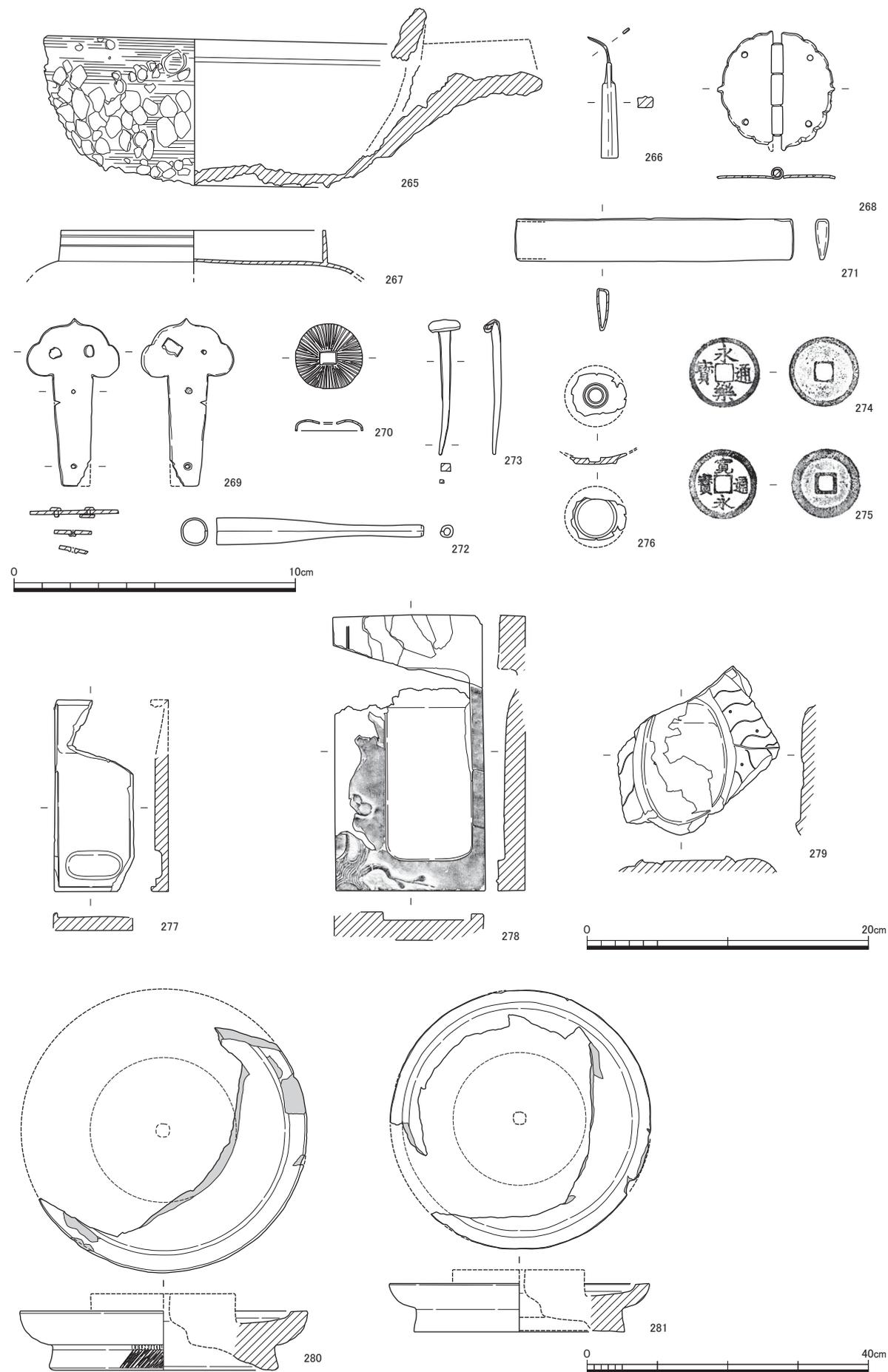
256

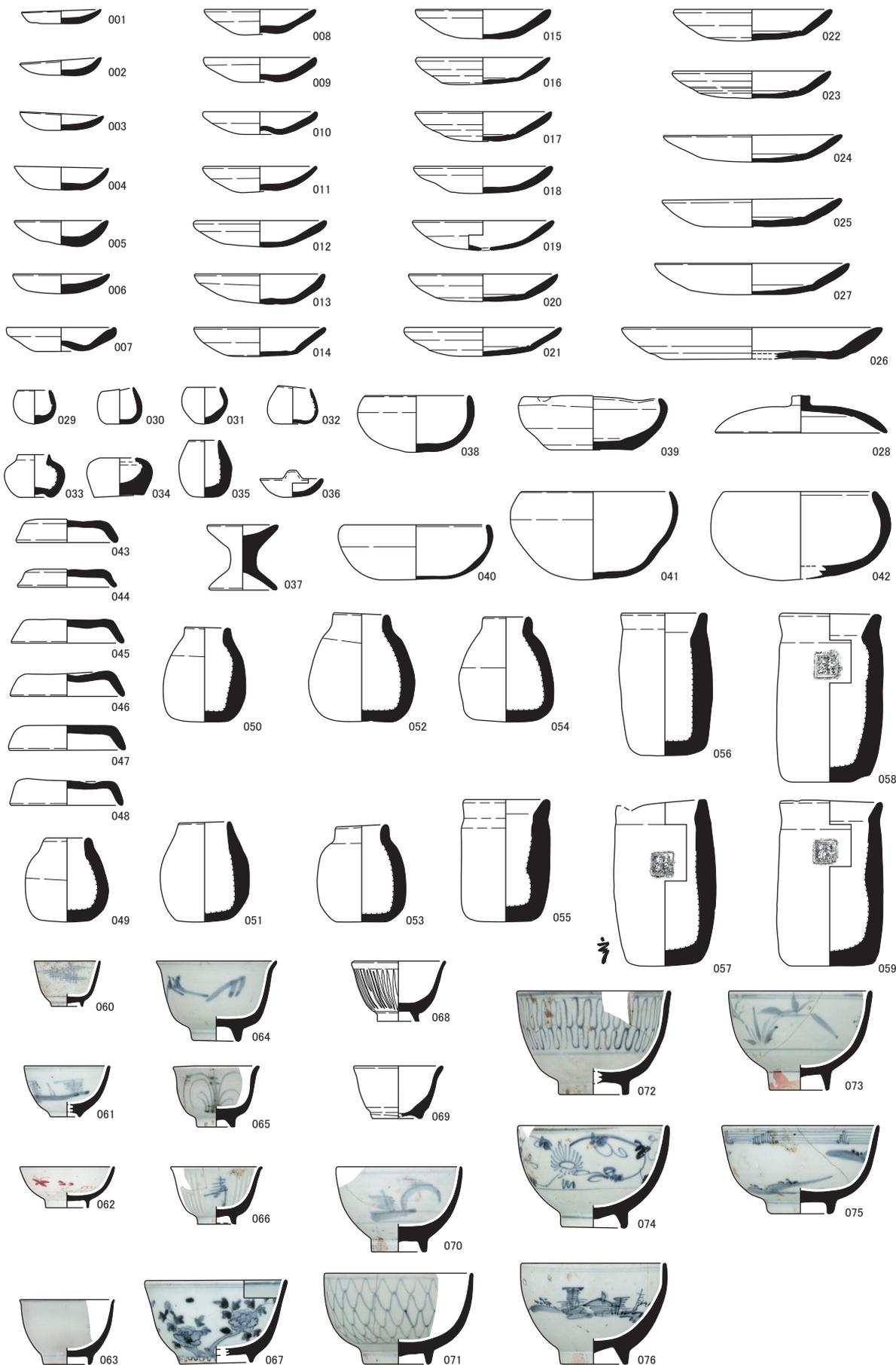


257





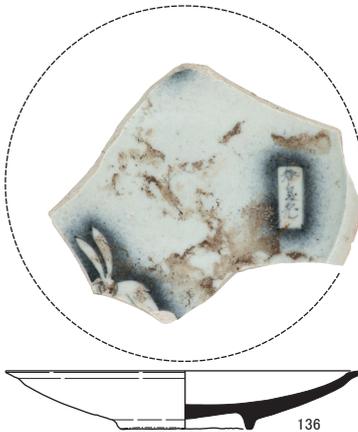
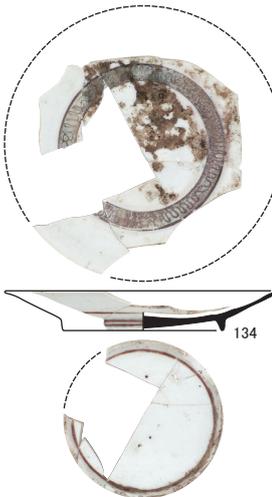
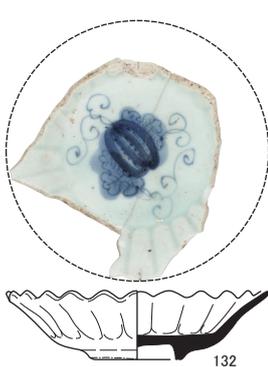
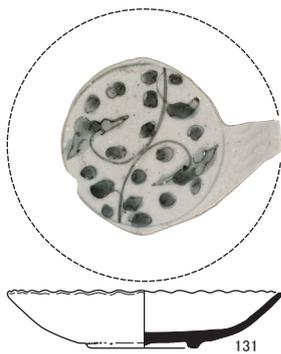
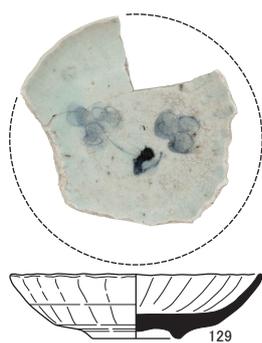
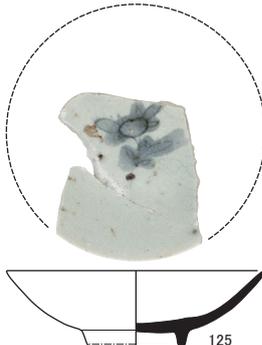
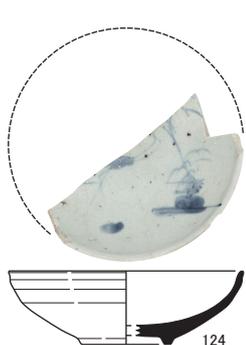
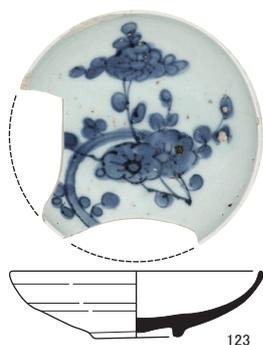


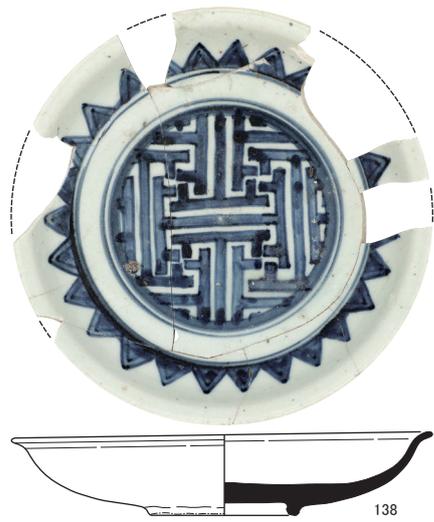


公家町遺跡（櫛笥家） 077～103

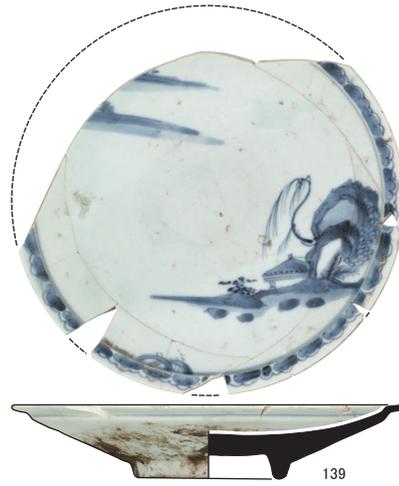








138



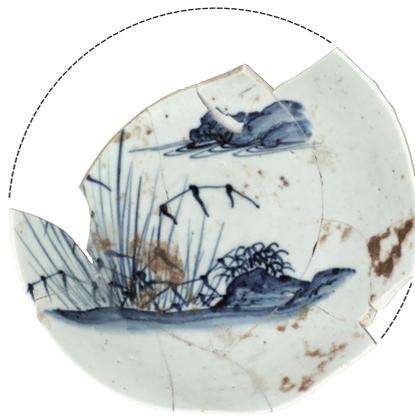
139



142



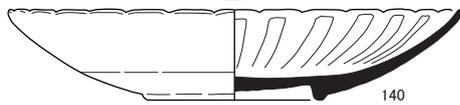
140



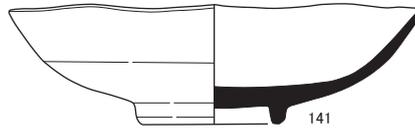
141



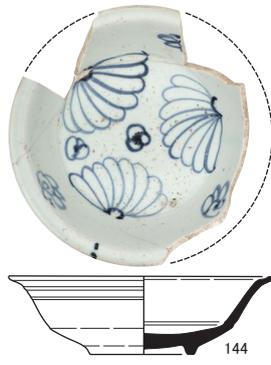
143



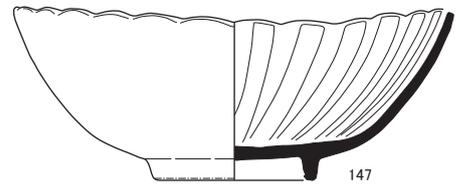
146



141



144



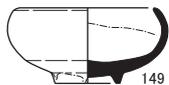
147



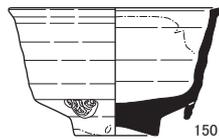
148



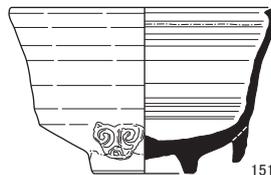
145



149

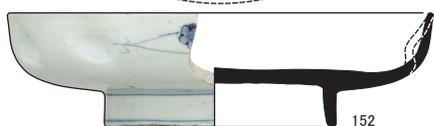


150



151

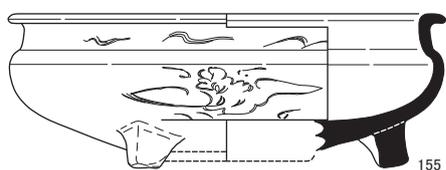




152



154



155



159



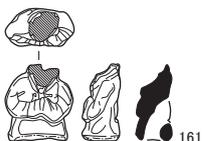
164



160



165



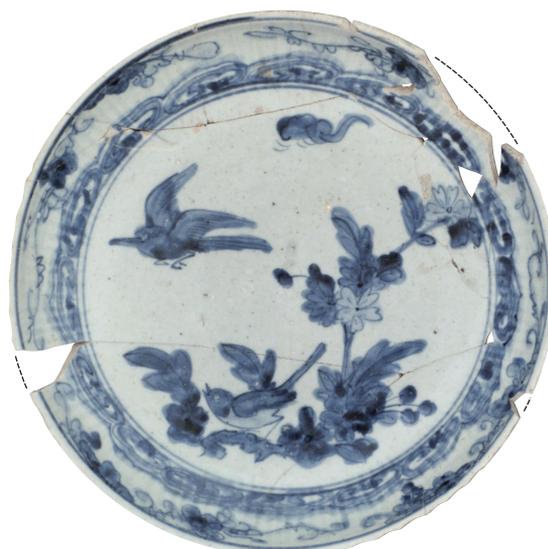
161



166



175



153



156



157



158



162



163



167



170



大明寺
櫛笥家



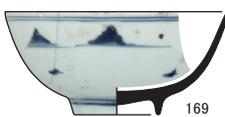
168



171



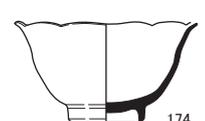
大明寺
櫛笥家



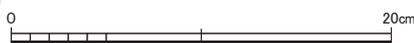
169



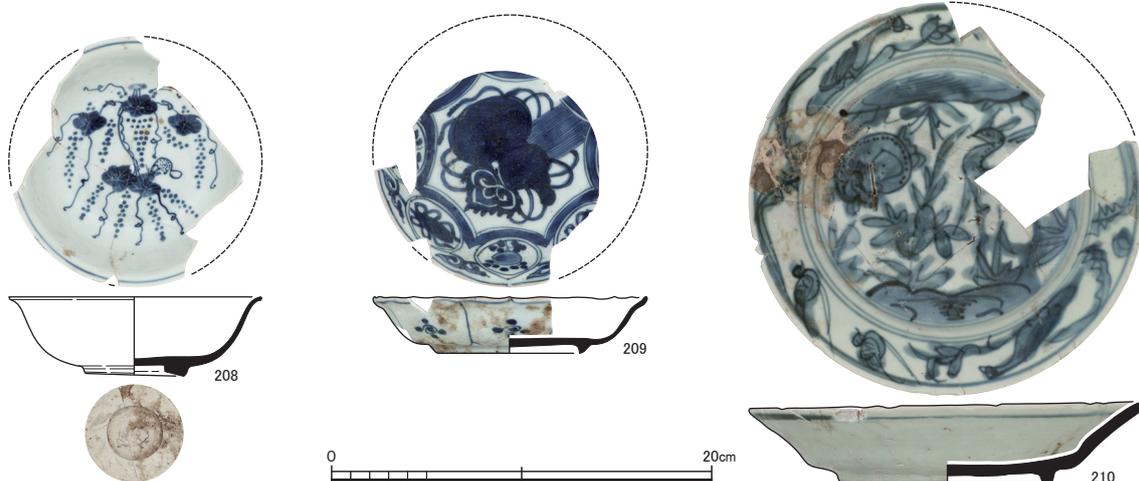
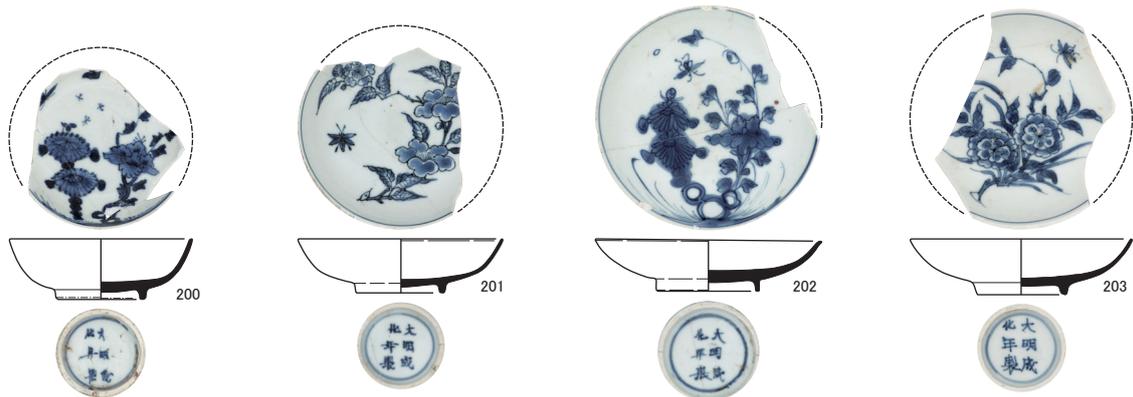
大明寺
櫛笥家

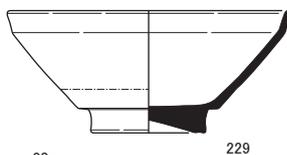
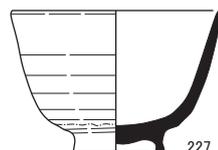
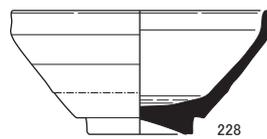
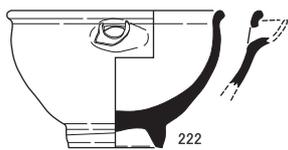
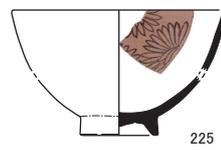
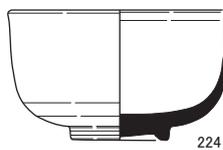
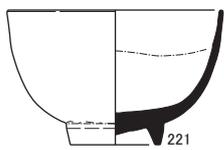
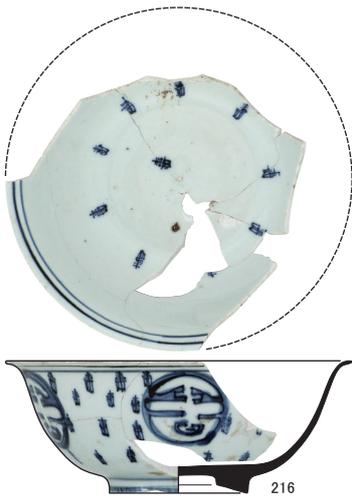
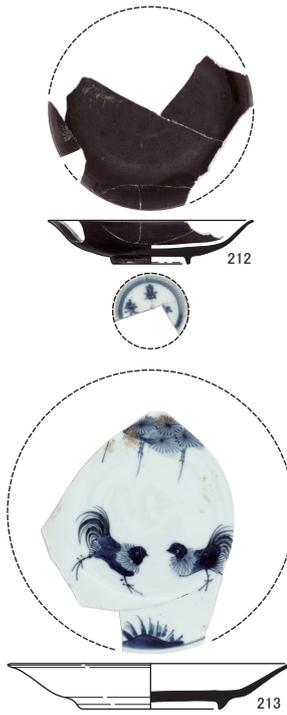
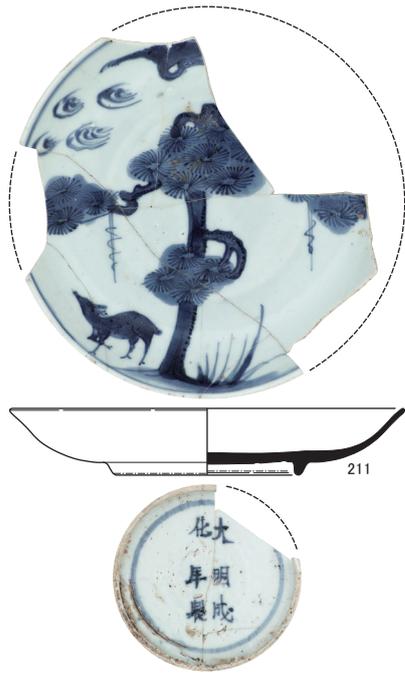


174

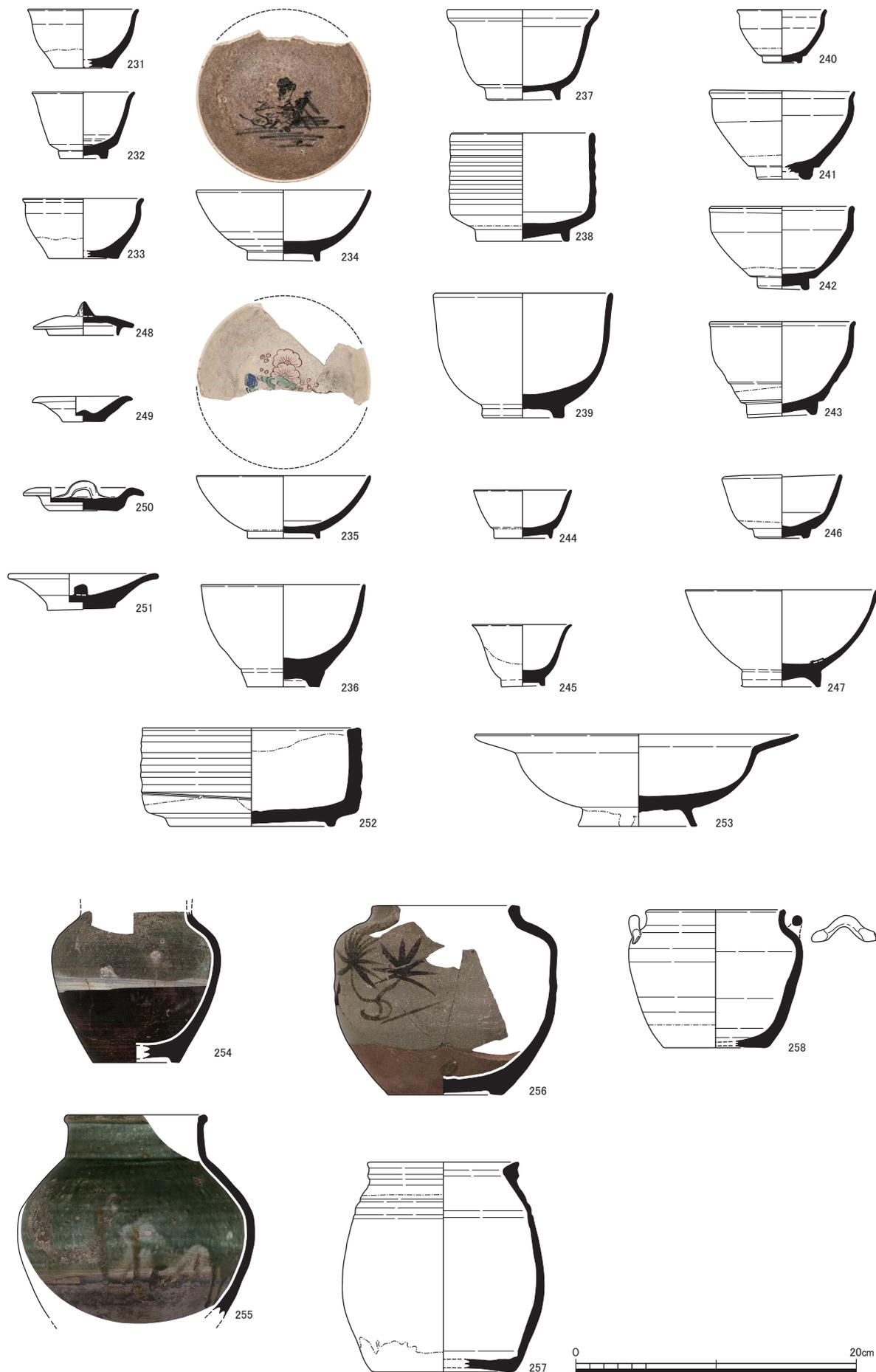


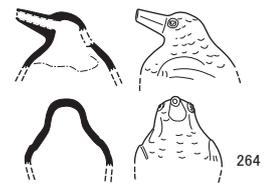
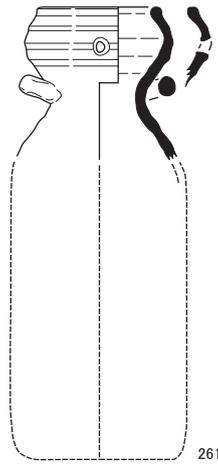
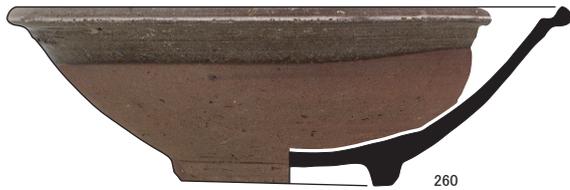
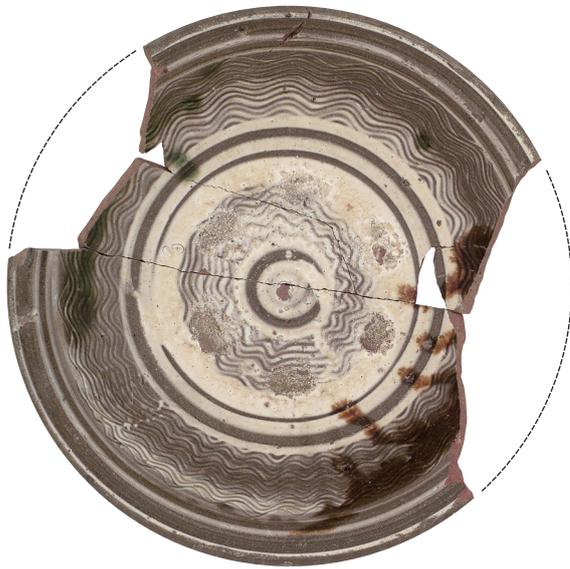


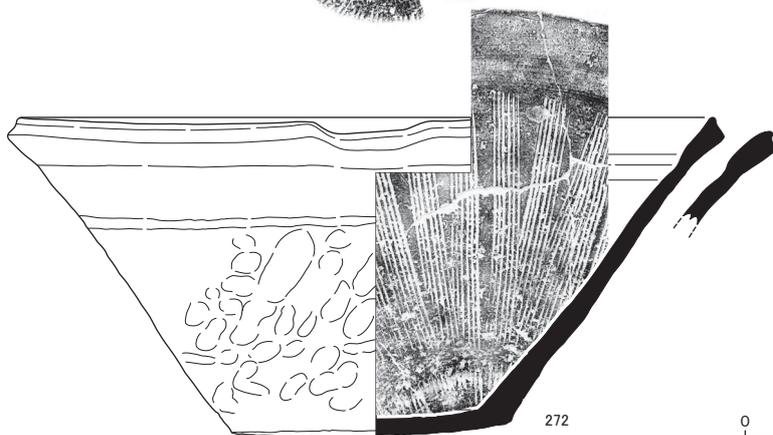
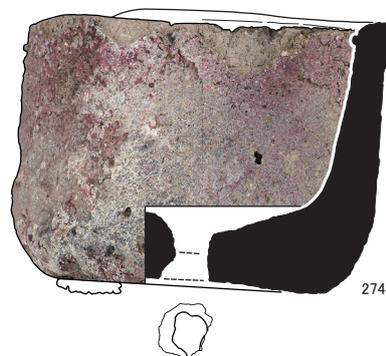
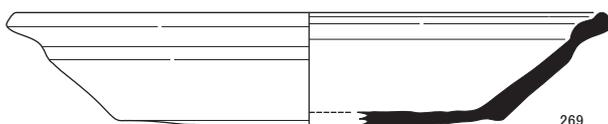
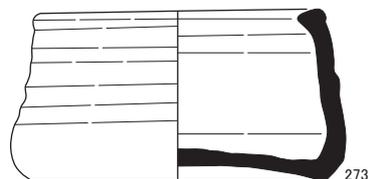
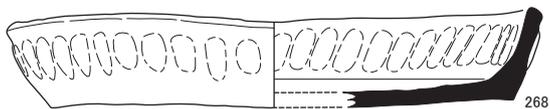
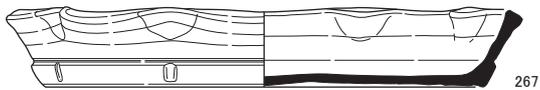
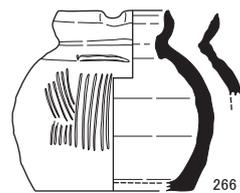




公家町遺跡（櫛笥家） 231 ~ 258







一覽表



公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補陶磁器一覽表 1

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	生産地	備考
001	土師器	皿	5.4	1.0	—	—	12期古(新相)
002	土師器	皿	5.5	1.1	—	—	12期古(新相)
003	土師器	皿	5.6	1.4	—	—	12期古(新相)
004	土師器	皿	9.1	2.1	—	—	12期古(新相)
005	土師器	皿	10.2	2.0	—	—	12期古(新相)
006	土師器	皿	10.3	2.1	—	—	12期古(新相)
007	土師器	皿	10.3	2.1	—	—	12期古(新相)
008	土師器	皿	10.4	2.1	—	—	12期古(新相)
009	土師器	皿	10.4	2.0	—	—	12期古(新相)
010	土師器	皿	10.5	2.2	—	—	12期古(新相)
011	土師器	皿	10.7	2.0	—	—	12期古(新相)
012	土師器	皿	10.7	1.9	—	—	12期古(新相)
013	土師器	皿	10.9	2.2	—	—	12期古(新相)
014	土師器	皿	10.7	2.2	—	—	12期古(新相)
015	土師器	皿	10.7	2.2	—	—	12期古(新相)
016	土師器	皿	11.6	2.2	—	—	12期古(新相)
017	土師質土器	羽釜	25.2	12.1(残)	—	—	
018	国産磁器	染付杯	6.2	4.1	2.0	肥前	端反形
019	国産磁器	染付杯	6.3	4.2	2.3	肥前	端反形
020	国産磁器	染付杯	6.9	3.8	2.4	肥前	端反形
021	国産磁器	染付杯	7.3	4.7	3.0	肥前	端反形
022	国産磁器	染付杯	8.5	4.9	2.8	肥前	19客組、見込み「大明成化年製」銘
023	国産磁器	染付杯	8.9	5.3	3.3	肥前	
024	国産磁器	染付杯	9.0	5.0	3.3	肥前	
025	国産磁器	染付杯	8.8	5.1	3.3	肥前	
026	国産磁器	染付杯	9.0	5.1	3.2	肥前	
027	国産磁器	染付杯	9.1	4.8	3.3	肥前	
028	国産磁器	染付杯	9.0	5.0	3.4	肥前	
029	国産磁器	染付杯	9.0	4.8	3.3	肥前	
030	国産磁器	染付杯	8.6	5.0	3.3	肥前	
031	国産磁器	染付杯	9.0	4.8	3.4	肥前	
032	国産磁器	染付杯	8.7	5.3	3.3	肥前	
033	国産磁器	染付杯	8.8	5.0	3.3	肥前	
034	国産磁器	染付杯	9.3	5.0	3.2	肥前	
035	国産磁器	染付杯	9.2	5.0	3.4	肥前	
036	国産磁器	染付杯	8.4	5.0	3.2	肥前	
037	国産磁器	染付杯	8.3	4.7	3.1	肥前	
038	国産磁器	染付杯	8.8	4.9	3.2	肥前	
039	国産磁器	染付杯	8.9	4.8	3.3	肥前	
040	国産磁器	染付杯	8.8	4.9	3.3	肥前	
041	国産磁器	染付碗	8.9	5.9	4.0	肥前	5客組
042	国産磁器	染付碗	9.3	6.1	4.2	肥前	
043	国産磁器	染付碗	9.4	6.0	4.1	肥前	
044	国産磁器	染付碗	9.0	6.1	4.3	肥前	
045	国産磁器	染付碗	9.4	6.1	4.4	肥前	
046	国産磁器	染付碗	9.9	5.1	3.9	肥前	
047	国産磁器	染付碗	9.1	6.7	4.6	肥前	口縁端部釉剥ぎ、蓋が付く器形
048	国産磁器	染付碗	10.5	6.4	4.8	肥前	面取りする椀
049	国産磁器	染付碗	10.7	5.6	4.3	肥前	7客組、高台内「大明成化年製」銘
050	国産磁器	染付碗	11.3	5.6	4.6	肥前	
051	国産磁器	染付碗	11.0	5.6	4.9	肥前	
052	国産磁器	染付碗	11.3	5.7	4.7	肥前	
053	国産磁器	染付碗	10.9	5.5	4.7	肥前	
054	国産磁器	染付碗	10.2	5.8	4.5	肥前	
055	国産磁器	染付碗	11.2	5.8	4.5	肥前	
056	国産磁器	染付碗	10.6	5.5	4.7	肥前	2脚組、高台内「福」銘
057	国産磁器	染付碗	11.1	6.0	4.4	肥前	高台内「大明」銘
058	国産磁器	染付碗	12.1	6.4	4.3	肥前	
059	国産磁器	染付碗	12.1	5.9	5.0	肥前	高台内「大明成化年製」銘

公家町遺跡（安禅寺杉之坊）指定候補陶磁器一覧表 2

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高(cm)	高台径 (cm)	生産地	備考
060	国産磁器	染付碗	12.1	5.9	4.9	肥前	3客組、高台内「大明成化年製」銘
061	国産磁器	染付碗	12.4	5.9	5.1	肥前	
062	国産磁器	染付碗	12.4	5.9	5.2	肥前	
063	国産磁器	染付碗	12.5	5.9	5.1	肥前	3客組、高台内「大明成化年製」銘
064	国産磁器	染付碗	12.8	5.9	5.1	肥前	
065	国産磁器	染付碗	12.0	6.1	5.0	肥前	
066	国産磁器	色絵染付碗	11.8	5.7	4.4	肥前	古九谷様式、見込にも絵を描く
067	国産磁器	色絵染付皿	9.3	2.6	3.8	肥前	2客組、外面、見込に呉須で花文、赤色と金・銀彩
068	国産磁器	色絵染付皿	9.5	2.6	4.1	肥前	
069	国産磁器	色絵染付碗	10.4	3.8	4.4	肥前	3客組、外面と見込に呉須で花文、赤色と金・銀彩
070	国産磁器	色絵染付碗	10.4	3.7	4.1	肥前	
071	国産磁器	色絵染付碗	10.4	3.8	4.3	肥前	
072	国産磁器	色絵染付碗	11.0	4.7	4.5	肥前	3客組、外面と見込に呉須で花文、赤色と金・銀彩
073	国産磁器	色絵染付碗	11.3	4.6	4.8	肥前	
074	国産磁器	色絵染付碗	11.8	4.8	5.0	肥前	
075	国産磁器	色絵染付碗	11.9	6.0	5.6	肥前	3客組、外面と見込に呉須で花文、赤色と金・銀彩
076	国産磁器	色絵染付碗	12.3	5.9	5.4	肥前	
077	国産磁器	色絵染付碗	12.1	5.9	5.3	肥前	
078	国産磁器	色絵染付碗	12.8	8.0	5.4	肥前	3客組、外面と見込に呉須で花文、赤色と金・銀彩
079	国産磁器	色絵染付碗	12.8	8.0	5.7	肥前	
080	国産磁器	色絵染付碗	13.0	8.0	5.4	肥前	
081	国産磁器	白磁碗	3.3	1.7	1.8	肥前	ミニチュア
082	国産磁器	白磁杯	7.1	4.0	2.8	肥前	端反形
083	国産磁器	白磁杯	6.6	4.7	2.6	肥前	端反形
084	国産磁器	白磁碗	11.4	5.7	4.0	肥前	
085	国産磁器	白磁碗	11.6	6.0	4.4	肥前	
086	国産磁器	錆釉染付皿	17.7	4.6	5.4	肥前	3客組、丸窓内に絵
087	国産磁器	錆釉染付皿	19.0	4.8	5.9	肥前	
088	国産磁器	錆釉染付皿	18.3	5.1	5.9	肥前	
089	国産磁器	染付隅入り皿	13.5	2.1	6.9	肥前	10客組、高台内「大明製」銘
090	国産磁器	染付隅入り皿	13.5(最大)	2.3	7.6	肥前	
091	国産磁器	染付隅入り皿	13.7(最大)	2.3	7.4	肥前	
092	国産磁器	染付隅入り皿	13.5(最大)	2.5	7.1	肥前	
093	国産磁器	染付隅入り皿	13.7(最大)	2.2	7.1	肥前	
094	国産磁器	染付隅入り皿	13.9(最大)	2.4	7.4	肥前	
095	国産磁器	染付隅入り皿	13.6(最大)	2.4	7.2	肥前	
096	国産磁器	染付隅入り皿	13.7(最大)	2.6	7.7	肥前	
097	国産磁器	染付隅入り皿	13.8(最大)	2.5	7.7	肥前	
098	国産磁器	染付隅入り皿	13.7(最大)	2.0	7.8	肥前	
099	国産磁器	染付皿	18.5	4.5	6.8	肥前	見込に兔文
100	国産磁器	染付皿	22.3	2.9	12.9	肥前	見込に蝶文
101	国産磁器	染付皿	22.5	4.7	13.2	肥前	見込に鷲文
102	国産磁器	染付皿	25.9	6.6	8.5	肥前	見込に宝文
103	国産磁器	色絵皿	10.9	3.4	3.6	肥前	6客組、見込に草花、金彩
104	国産磁器	色絵皿	11.0	3.8	4.0	肥前	
105	国産磁器	色絵皿	10.7	3.6	3.8	肥前	
106	国産磁器	色絵皿	10.7	3.1(残)	-	肥前	
107	国産磁器	色絵皿	11.2	3.6	3.9	肥前	
108	国産磁器	色絵皿	10.8	3.3(残)	-	肥前	
109	国産磁器	白磁輪花皿	9.5	2.5	2.6	肥前	木瓜形、10客組、型打成形
110	国産磁器	白磁輪花皿	9.5(最大)	2.6	3.2	肥前	
111	国産磁器	白磁輪花皿	9.8(最大)	2.4	2.8	肥前	
112	国産磁器	白磁輪花皿	9.5(最大)	2.6	2.8	肥前	
113	国産磁器	白磁輪花皿	9.5(最大)	2.4	2.8	肥前	
114	国産磁器	白磁輪花皿	9.8(最大)	2.4	3.2	肥前	
115	国産磁器	白磁輪花皿	10.0(最大)	2.5	2.8	肥前	
116	国産磁器	白磁輪花皿	9.4(最大)	2.4	2.9	肥前	
117	国産磁器	白磁輪花皿	9.8(最大)	2.7	2.8	肥前	
118	国産磁器	白磁輪花皿	9.8(最大)	2.5	2.8	肥前	

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補陶磁器一覽表 3

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	生産地	備考
119	国産磁器	白磁変形皿	17.0(最大)	3.7	4.5	肥前	10 客組、型打成形
120	国産磁器	白磁変形皿	16.4(最大)	3.3	4.6	肥前	
121	国産磁器	白磁変形皿	16.5(最大)	3.4	5.2	肥前	
122	国産磁器	白磁変形皿	17.2(最大)	3.4	5.0	肥前	
123	国産磁器	白磁変形皿	16.5(最大)	3.9	5.1	肥前	
124	国産磁器	白磁変形皿	16.2(最大)	3.2	5.1	肥前	
125	国産磁器	白磁変形皿	16.5(最大)	3.3	4.9	肥前	
126	国産磁器	白磁変形皿	16.9(最大)	3.3	4.8	肥前	
127	国産磁器	白磁変形皿	17.6(最大)	3.4(残)	5.3	肥前	
128	国産磁器	白磁変形皿	16.9(最大)	3.7	4.9	肥前	
129	国産磁器	白磁輪花皿	14.1	2.9	5.9	肥前	10 客組、型打成形で布目痕
130	国産磁器	白磁輪花皿	14.0	3.2	6.1	肥前	
131	国産磁器	白磁輪花皿	14.2	3.1	6.1	肥前	
132	国産磁器	白磁輪花皿	14.0	2.8	6.2	肥前	
133	国産磁器	白磁輪花皿	14.1	2.8	6.2	肥前	
134	国産磁器	白磁輪花皿	14.3	2.9	6.0	肥前	
135	国産磁器	白磁輪花皿	14.3	2.9	6.2	肥前	
136	国産磁器	白磁輪花皿	14.2	3.1	5.9	肥前	
137	国産磁器	白磁輪花皿	14.2	3.1	6.0	肥前	
138	国産磁器	白磁輪花皿	14.0	2.9	6.0	肥前	
139	国産磁器	白磁皿	13.0	3.3	5.8	肥前	2 客組、型打成形、口紅
140	国産磁器	白磁皿	12.8	3.2	6.2	肥前	
141	国産磁器	染付合子蓋	9.9	1.9	-	肥前	
142	国産磁器	染付合子身	8.9	2.6	4.4	肥前	
143	国産磁器	染付香炉身	7.2	7.1	4.8	肥前	祥瑞写し
144	国産磁器	五彩壺蓋	11.9(最大)	3.9(推定)	-	肥前	輸出用、145 の蓋
145	国産磁器	五彩壺	10.3	25.8	10.9	肥前	輸出用、144 の蓋と組
146	国産磁器	五彩壺蓋	15.0	6.4	-	肥前	輸出用、147 の蓋
147	国産磁器	五彩鉢	14.2	10.1	8.1	肥前	輸出用、146 の蓋と組
148	国産磁器	染付壺	5.1	7.4(残)	-	肥前	
149	国産磁器	染付壺	6.7	6.6(残)	-	肥前	
150	国産磁器	染付鉢	21.7	11.0	9.1	肥前	折縁鉢
151	国産磁器	染付鉢	22.5	11.4	8.4	肥前	折縁鉢
152	国産磁器	染付瓶	2.5	11.1	4.0	肥前	
153	国産磁器	染付瓶	3.5	11.9	5.0	肥前	
154	国産磁器	染付瓶	3.8	19.2	5.7	肥前	
155	国産磁器	染付瓶	2.1	26.1	7.4	肥前	
156	輸入磁器	青花鉢	11.5	5.4	3.8	中国	漳州窯系
157	輸入磁器	青花鉢	11.2	5.5	3.8	中国	漳州窯系
158	輸入磁器	青花碗	13.2	5.4	5.3	中国	漳州窯系
159	輸入磁器	青花碗	11.6	6.0	4.2	中国	10 客組、景德鎮窯系、外面四方に「福寿康寧」
160	輸入磁器	青花碗	11.9	6.1	4.3	中国	
161	輸入磁器	青花碗	11.9	5.9	4.3	中国	
162	輸入磁器	青花碗	11.7	5.9	4.3	中国	
163	輸入磁器	青花碗	11.9	5.9	4.4	中国	
164	輸入磁器	青花碗	12.0	5.9	4.5	中国	
165	輸入磁器	青花碗	11.8	6.0	4.2	中国	
166	輸入磁器	青花碗	11.9	5.8	4.4	中国	
167	輸入磁器	青花碗	11.8	5.9	4.3	中国	
168	輸入磁器	青花碗	12.0	6.0	4.4	中国	
169	輸入磁器	青花碗	11.6	5.9	4.1	中国	景德鎮窯系
170	輸入磁器	青花鉢	12.0	6.4	4.5	中国	5 客組、景德鎮窯系の芙蓉手鉢、口縁部が稜花状
171	輸入磁器	青花鉢	11.8	6.6	5.4	中国	
172	輸入磁器	青花鉢	12.0	6.6	5.4	中国	
173	輸入磁器	青花鉢	12.0	6.4	5.4	中国	
174	輸入磁器	青花鉢	11.8	6.4	5.2	中国	
175	輸入磁器	青花鉢	9.0	3.0	4.1	中国	景德鎮窯系

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補陶磁器一覧表 4

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	生産地	備考
176	輸入磁器	青花鉢	7.8	3.2	3.9	中国	10 客組、景德鎮窯系
177	輸入磁器	青花鉢	8.5	3.2	4.4	中国	
178	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.1	4.1	中国	
179	輸入磁器	青花鉢	8.5	3.2	4.4	中国	
180	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.2	4.2	中国	
181	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.1	4.8	中国	
182	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.2	4.2	中国	
183	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.3	4.3	中国	
184	輸入磁器	青花鉢	8.4	3.3	4.3	中国	
185	輸入磁器	青花鉢	8.5	3.2	4.2	中国	
186	輸入磁器	青花鉢	15.2	5.2	7.1	中国	5 客組、景德鎮窯系兜鉢、見込に水鳥
187	輸入磁器	青花鉢	14.5	4.8	7.0	中国	
188	輸入磁器	青花鉢	14.8	4.8	7.2	中国	
189	輸入磁器	青花鉢	15.0	5.2	7.3	中国	
190	輸入磁器	青花鉢	15.1	5.1	7.3	中国	
191	輸入磁器	青花鉢	18.1	6.4(残)	-	中国	景德鎮窯系、吉祥文
192	輸入磁器	青花印籠	7.2(推定)	2.9(残)	-	中国	景德鎮窯系、蓋と1段
193	輸入磁器	青花皿	12.7	2.8	7.5	中国	2 客組、景德鎮窯系
194	輸入磁器	青花皿	13.2	2.9	7.4	中国	
195	輸入磁器	青花皿	12.8	2.6	7.5	中国	2 客組、景德鎮窯系
196	輸入磁器	青花皿	13.2	2.6	7.7	中国	
197	輸入磁器	青花碗	18.3	8.0	6.0	中国	漳州窯系
198	輸入磁器	青花皿	31.8	7.0	15.1	中国	漳州窯系
199	輸入磁器	五彩印判手大皿	35.7	8.6	17.2	中国	漳州窯系、五彩印判手
200	輸入磁器	白磁碗	12.5	7.2	4.8	中国	徳化窯系、見込目跡痕
201	輸入磁器	青磁皿	20.7	4.0	8.8	中国	龍泉窯、14世紀後半～15世紀中頃
202	輸入磁器	青花馬上杯	7.8	6.9	3.0	中国	2 客組、景德鎮窯系
203	輸入磁器	青花馬上杯	7.9	6.5	3.2	中国	
204	輸入磁器	青磁香炉	6.8	6.1	7.4	中国	龍泉窯、14世紀後半～15世紀中頃
205	輸入磁器	白磁鉢	18.7	8.7	5.4	朝鮮	朝鮮王朝、見込砂目痕、
206	輸入磁器	白磁碗	13.7	5.2	5.9	ベトナム	ベトナム産、型押し成形、高台が低い
207	輸入磁器	紫泥茶罐蓋	8.3(最大)	3.9(残)	-	中国	宜興窯、つまみに湯気抜き穴
208	輸入磁器	紫泥茶罐	-	11.8(残)	11.5	中国	宜興窯
209	国産施釉陶器	京焼筒形碗	7.6	7.1	5.0	京都	鉄釉
210	国産施釉陶器	京焼平碗	11.7	5.3(残)	-	京都	
211	国産施釉陶器	京焼平碗	11.3	5.0	3.6	京都	高台内不明の刻印
212	国産施釉陶器	京焼平碗	-	1.4(残)	3.7	京都	底部、高台内「音羽」刻印
213	国産施釉陶器	筒形碗	7.5	6.1	5.4	高取	高取産、碁碁底
214	国産施釉陶器	筒形碗	11.5	7.6	5.2	高取	高取産、貝目痕
215	国産施釉陶器	青緑釉碗	11.1	6.2	4.2	肥前	内野山皿期
216	国産施釉陶器	絵唐津沓茶碗	14.6	8.1	4.6	肥前	
217	国産施釉陶器	絵唐津沓茶碗	15.7(最大)	7.8	4.7	肥前	
218	国産施釉陶器	溝縁皿	20.5	2.8	6.3	肥前	10 客組、見込に三日月形の砂目痕
219	国産施釉陶器	溝縁皿	21.8	3.1	7.6	肥前	
220	国産施釉陶器	溝縁皿	20.8	3.3	6.8	肥前	
221	国産施釉陶器	溝縁皿	21.6	2.9	7.4	肥前	
222	国産施釉陶器	溝縁皿	21.2	2.5	7.0	肥前	
223	国産施釉陶器	溝縁皿	21.0	2.9	6.9	肥前	
224	国産施釉陶器	溝縁皿	21.9	3.0	7.7	肥前	
225	国産施釉陶器	溝縁皿	21.8	3.7	7.5	肥前	
226	国産施釉陶器	溝縁皿	21.2	2.8	7.0	肥前	
227	国産施釉陶器	溝縁皿	21.2	2.5	7.2	肥前	
228	国産施釉陶器	鉢	16.1	6.9	4.3	高取	高台が高く、口縁部を内側に歪める
229	国産施釉陶器	鉢	16.2	5.5	4.9	肥前	胎土目痕
230	国産施釉陶器	合子蓋	7.1	2.1	-	肥前	白化粧
231	国産施釉陶器	蓋	10.2(最大)	2.3	-	高取	
232	国産施釉陶器	天目茶碗	9.7	6.1	3.4	瀬戸・美濃	
233	国産施釉陶器	香炉	6.1	7.3	5.5	肥前	白化粧

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補陶磁器一覽表 5

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	生産地	備考
234	国産施釉陶器	香炉	7.5	4.7	3.5	肥前	鉄釉
235	国産施釉陶器	茶入	3.8	8.4	4.3	産地不明	肩衝、底部糸切
236	国産施釉陶器	茶入	3.5	10.0	3.8	産地不明	肩衝、瀬戸・美濃か
237	国産施釉陶器	茶入	3.5	7.5	4.6	瀬戸・美濃	肩衝、底部糸切
238	国産施釉陶器	茶入	-	10.0	4.9	瀬戸・美濃	肩衝、底部糸切
239	国産施釉陶器	茶入	3.2	10.7	4.0	瀬戸・美濃	肩衝、底部糸切
240	国産施釉陶器	茶入	-	8.3(残)	3.9	産地不明	肩衝、底部糸切、瀬戸・美濃か
241	国産施釉陶器	茶入	2.5	3.3(残)	-	産地不明	肩衝、瀬戸・美濃か
242	国産施釉陶器	茶入	-	2.5(残)	3.5	中国	底部同心円糸切
243	国産施釉陶器	茶入	2.9	6.4	2.6	産地不明	瀬戸・美濃か
244	国産施釉陶器	茶入	3.8	6.1	4.7	瀬戸・美濃	文琳、底部糸切
245	国産施釉陶器	茶入	2.1	6.8	3.1	産地不明	把手、底部糸切、瀬戸・美濃か
246	国産施釉陶器	茶入	-	6.7	2.6	産地不明	底部糸切、瀬戸・美濃か
247	国産施釉陶器	壺	10.1	7.1(残)	-	肥前	広口壺
248	国産焼締陶器	水指	16.6	19.8	16.4	高取	肩部に耳、胴部にへう描文
249	国産施釉陶器	壺	7.7	13.8	8.0	瀬戸・美濃	御深井釉
250	輸入焼締陶器	長胴瓶	-	19.0(残)	10.4	ベトナムか	ベトナム産の長胴瓶に類品
251	国産焼締陶器	瓶	-	19.7(残)	6.1	備前	
252	国産焼締陶器	徳利	7.4	29.0	17.2	備前	所謂舟徳利
253	国産焼締陶器	建水	19.4	20.6	14.8	丹波	桶形
254	国産焼締陶器	壺	9.6	27.8	14.2	伊賀	肩衝形壺
255	国産焼締陶器	壺	10.4	25.1	13.5	備前	肩にクシ描きの波状文
256	国産焼締陶器	四耳壺	9.0	27.9	10.4	高取	
257	国産焼締陶器	四耳壺	8.2	25.4	10.6	高取	
258	国産焼締陶器	四耳壺	9.0	33.4	12.8	産地不明	
259	輸入焼締陶器	壺	10.9	44.0	15.3	中国	
260	国産焼締陶器	四耳壺	9.2	27.9	10.5	産地不明	
261	国産焼締陶器	壺	14.3	90.3	25.4	信楽	玉縁状の口縁
262	国産焼締陶器	搦鉢	34.3	16.0	13.7	丹波	丹波産
263	国産焼締陶器	搦鉢	34.0	15.7	14.8	丹波	丹波産
264	輸入焼締陶器	四耳壺	-	6.9(残)	-	タイ	264-1・2あり
264	輸入焼締陶器		-	7.8(残)	-	タイ	

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補金属製品一覽表

指定番号	種類	名称	高さ(長さ) × 幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
265	金属製品	鉄製爛鍋	6.4(器高) × 13.6(口径)	17.7(幅)	椀形に注口、板状把手が付く
266	金属製品	銅製香道具	4.3 × 1.0	0.4	
267	金属製品	蓋状銅製品	1.5(残器高) × 9.4(つまみ径)	0.1	
268	金属製品	銅製蝶番	4.3 × 4.2	0.5	
269	金属製品	銅製飾金具	5.0 × 3.3	0.3	板状
270	金属製品	銅製飾金具	2.3 × 2.4	0.4	円形
271	金属製品	銅製小柄	9.9 × 1.5	0.5	
272	金属製品	真鍮製煙管	7.4 × 1.0	1.0	煙管の吸い口部
273	金属製品	鉄製釘	4.9 × 1.1	0.6	

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補銭貨類一覽表

指定番号	種類	名称	直径 (mm)	円孔径 (mm)	厚さ (mm)	備考
274	銭貨	永楽通寶	25.0	6.0	1.5	永楽9年(1411年) 鑄造
275	銭貨	寛永通寶	24.0	5.0	1.2	新寛永通寶(寛文8年、1668年以降に鑄造)

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）指定候補骨製品一覽表

指定番号	種類	名称	口径 (cm)	器高 (cm)	備考
276	角製品	茶入蓋	1.4	0.4(残)	鹿の角製品

公家町遺跡（安禅寺杉之坊）指定候補骨製品一覧表

指定番号	種類	名称	高さ（長さ）×幅（cm）	厚さ（cm）	備考
277	石製品	硯	13.7×5.6	1.2	石材不明、長方形の硯 丘の下端に水溜め風の凹みを作る 海部の右半を欠く
278	石製品	硯	19.8×10.8	2.0	石材不明、長方形の硯、縁の左下に松を浮き彫りにする 左上にはタテ方向の線刻
279	石製品	硯	12.1(残)×11.5(残)	1.4	石材不明、縁には葉脈を表すような線彫と彫刻が有る
280	石製品	茶臼	8.4(残)×38.2(残)	-	石材砂質ホルンフェルス二次的被熱で赤く変色
281	石製品	茶臼	6.9(残)×37.0	-	石材閃緑岩～斑礫岩、二次的被熱で赤く変色

公家町遺跡（櫛笥家）指定候補陶磁器一覧表 1

指定番号	種類	器形	口径（cm）	器高（cm）	高台径（cm）	産地	備考
001	土師器	皿	5.4	1.1	-	-	12期古段階
002	土師器	皿	5.5	1.3	-	-	12期古段階
003	土師器	皿	5.7	1.4	-	-	12期古段階
004	土師器	皿	6.4	1.7	-	-	12期古段階
005	土師器	皿	6.4	1.9	-	-	12期古段階
006	土師器	皿	6.6	1.4	-	-	12期古段階
007	土師器	皿	7.4	1.7	-	-	12期古段階
008	土師器	皿	7.6	1.8	-	-	12期古段階
009	土師器	皿	7.7	1.7	-	-	12期古段階
010	土師器	皿	7.8	1.6	-	-	12期古段階
011	土師器	皿	7.8	1.9	-	-	12期古段階
012	土師器	皿	9.0	1.9	-	-	12期古段階
013	土師器	皿	8.8	2.2	-	-	12期古段階
014	土師器	皿	9.0	2.1	-	-	12期古段階
015	土師器	皿	9.2	2.1	-	-	12期古段階
016	土師器	皿	9.1	2.0	-	-	12期古段階
017	土師器	皿	9.5	2.1	-	-	12期古段階
018	土師器	皿	9.5	2.0	-	-	12期古段階
019	土師器	皿	9.7	2.1	-	-	12期古段階
020	土師器	皿	10.4	2.0	-	-	12期古段階
021	土師器	皿	10.7	2.0	-	-	12期古段階
022	土師器	皿	10.7	2.3	-	-	12期古段階
023	土師器	皿	10.8	1.9	-	-	12期古段階
024	土師器	皿	12.3	1.9	-	-	12期古段階
025	土師器	皿	12.4	2.0	-	-	12期古段階
026	土師器	皿	12.3	2.1	-	-	12期古段階
027	土師器	皿	13.3	2.2	-	-	12期古段階
028	土師器	蓋	11.8	2.7	-	-	12期古段階
029	土師器	小壺	2.0	2.4	-	-	
030	土師器	小壺	1.9	2.6	-	-	
031	土師器	小壺	2.3	2.6	-	-	
032	土師器	小壺	2.4	2.7	-	-	
033	土師器	ミニチュア壺	2.0	3.0	2.1	-	
034	土師器	ミニチュア壺	2.3	2.8	3.4	-	
035	土師器	ミニチュア壺	2.0	4.0	1.9	-	
036	土師器	小型灯明皿	4.0	2.0	1.9	-	
037	土師器	高杯	4.7	4.6	4.4	-	12期古段階、小型の高杯
038	土師器	鉢	7.1	4.0	2.5	-	
039	土師器	鉢	9.2	3.8	5.6	-	
040	土師器	鉢	9.9	3.9	4.9	-	
041	土師器	鉢	10.7	6.2	3.8	-	
042	土師器	鉢	10.2	6.3	4.4	-	
043	土師器	焼塩壺蓋	6.7	1.7	-	-	
044	土師器	焼塩壺蓋	6.6	1.3	-	-	
045	土師器	焼塩壺蓋	7.7	1.7	-	-	
046	土師器	焼塩壺蓋	7.8	1.8	-	-	
047	土師器	焼塩壺蓋	7.8	1.7	-	-	
048	土師器	焼塩壺蓋	7.5	1.9	-	-	
049	土師器	焼塩壺	2.8	5.9	3.2	-	
050	土師器	焼塩壺	2.6	6.7	3.2	-	

公家町遺跡（櫛笥家）指定候補陶磁器一覧表 2

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	産地	備考
051	土師器	焼塩壺	3.3	7.0	3.5	-	
052	土師器	焼塩壺	3.5	7.8	3.9	-	
053	土師器	焼塩壺	3.3	6.9	3.6	-	
054	土師器	焼塩壺	3.0	7.4	4.0	-	
055	土師器	焼塩壺	5.5	8.6	3.8	-	
056	土師器	焼塩壺	5.0	10.0	3.4	-	
057	土師器	焼塩壺	4.8	11.5	3.9	-	「ミなと藤左エ門」刻印
058	土師器	焼塩壺	6.4	11.9	4.3	-	「ミなと藤左エ門」刻印
059	土師器	焼塩壺	6.9	11.7	5.7	-	「ミなと藤左エ門」刻印
060	国産磁器	染付小杯	4.5	3.2	2.0	肥前	
061	国産磁器	染付小杯	5.9	3.6	1.8	肥前	
062	国産磁器	色絵小杯	6.5	2.9	2.9	肥前	
063	国産磁器	染付小杯	6.5	4.0(推定)	2.5	肥前	
064	国産磁器	染付小杯	5.2	3.0	1.8	肥前	
065	国産磁器	染付小杯	6.6	4.6	3.1	肥前	
066	国産磁器	染付小杯	8.3	5.6	3.0	肥前	
067	国産磁器	染付碗	5.9	4.3	2.2	肥前	
068	国産磁器	染付小杯	6.2	4.0	2.5	肥前	
069	国産磁器	染付小杯	9.7	5.8	4.9	肥前	
070	国産磁器	染付碗	6.4	4.2	2.5	肥前	
071	国産磁器	染付碗	6.1	3.7	2.9	肥前	
072	国産磁器	染付碗	8.7	6.0	3.5	肥前	
073	国産磁器	染付碗	10.3	6.4	4.2	肥前	
074	国産磁器	染付碗	10.6	7.3	4.2	肥前	
075	国産磁器	染付碗	9.8	7.0	3.7	肥前	
076	国産磁器	染付碗	10.2	7.2	4.1	肥前	
077	国産磁器	染付碗	10.9	6.2	3.9	肥前	
078	国産磁器	染付碗	9.8	7.1	4.2	肥前	高台内「大明成徳年製」銘
079	国産磁器	染付碗	9.3	5.7	4.3	肥前	
080	国産磁器	染付碗	10.5	6.3	4.2	肥前	高台内「大明」銘
081	国産磁器	染付碗	11.2	6.6	4.7	肥前	
082	国産磁器	染付碗	11.0	5.7	4.4	肥前	
083	国産磁器	染付碗	12.1	5.6	4.7	肥前	
084	国産磁器	染付碗	11.8	4.7	5.1	肥前	
085	国産磁器	染付碗	9.9	6.2	3.8	肥前	
086	国産磁器	染付碗	10.6	6.0	4.5	肥前	高台内「大明」銘
087	国産磁器	染付碗	11.3	6.6	4.2	肥前	
088	国産磁器	染付碗	11.4	6.5	4.4	肥前	
089	国産磁器	染付碗	11.0	6.3	3.9	肥前	
090	国産磁器	染付碗	10.9	7.4	4.2	肥前	
091	国産磁器	染付碗	10.6	7.8	4.4	肥前	
092	国産磁器	染付碗	11.1	6.5	4.2	肥前	
093	国産磁器	染付碗	12.6	7.0	5.2	肥前	
094	国産磁器	染付碗	10.9	6.2	4.6	肥前	
095	国産磁器	染付碗	11.3	6.4	5.2	肥前	団龍文様
096	国産磁器	染付碗	11.4	7.1	4.2	肥前	
097	国産磁器	染付碗	11.4	6.0	4.1	肥前	高台内「大明」銘、団龍文様
098	国産磁器	染付碗	11.0	6.3	4.7	肥前	
099	国産磁器	青磁碗	10.6	6.0	4.3	肥前	
100	国産磁器	青磁碗	11.4	6.0	4.6	肥前	
101	国産磁器	青磁碗	10.9	7.1	4.1	肥前	
102	国産磁器	染付碗	11.5	6.8	3.8	肥前	高台内角「福」銘
103	国産磁器	染付碗	11.5	7.4	4.0	肥前	高台内「大明」銘
104	国産磁器	白磁碗	11.3	6.1	4.4	肥前	
105	国産磁器	白磁碗	11.7	6.9	5.2	肥前	
106	国産磁器	白磁碗	11.3	6.8	4.6	肥前	口縁口紅
107	国産磁器	染付筒形碗	11.1	7.2	4.3	肥前	
108	国産磁器	染付碗	11.1	6.0	4.0	肥前	高台内「大明成」銘
109	国産磁器	染付碗	10.8	6.6	4.4	肥前	見込み「大明成化」銘
110	国産磁器	染付輪花皿	8.8	7.2	4.9	肥前	輪花
111	国産磁器	染付輪花皿	13.7	7.2	5.4	肥前	輪花
112	国産磁器	染付輪花皿	8.5	2.7	3.7	肥前	
113	国産磁器	染付皿	9.3	2.6	3.2	肥前	見込み「大明成化年製」銘

公家町遺跡（櫛笥家）指定候補陶磁器一覽表3

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高(cm)	高台径 (cm)	産地	備考
114	国産磁器	染付皿	10.0	2.2	5.9	肥前	
115	国産磁器	染付皿	9.2	2.0	3.4	肥前	
116	国産磁器	染付皿	5.9	1.3	3.1	肥前	
117	国産磁器	染付皿	13.5	4.6	5.8	肥前	見込み「壽」銘
118	国産磁器	染付皿	13.1	3.3	4.7	肥前	
119	国産磁器	染付皿	13.6	3.0	7.6	肥前	
120	国産磁器	染付皿	12.2	3.3	4.7	肥前	
121	国産磁器	染付皿	13.9	3.9	4.7	肥前	
122	国産磁器	染付皿	13.5	2.8	4.4	肥前	
123	国産磁器	染付皿	13.8	4.1	5.0	肥前	
124	国産磁器	染付皿	13.1	3.5	5.2	肥前	所謂初期伊万里
125	国産磁器	染付皿	12.9	3.5	4.2	肥前	
126	国産磁器	染付輪花皿	12.1	3.9	4.1	肥前	
127	国産磁器	染付輪花皿	13.4	4.0	4.7	肥前	
128	国産磁器	染付輪花皿	13.6(最大)	3.2	6.8	肥前	
129	国産磁器	染付輪花皿	13.1	3.5	4.9	肥前	
130	国産磁器	染付輪花皿	13.8	3.7	5.9	肥前	
131	国産磁器	染付輪花皿	13.1	3.4	4.4	肥前	
132	国産磁器	染付輪花皿	13.5	3.7	5.4	肥前	
133	国産磁器	染付輪花皿	14.5	3.1	5.2	肥前	
134	国産磁器	色絵皿	13.6	3.6	4.3	肥前	
135	国産磁器	染付皿	12.6	3.2	5.9	肥前	
136	国産磁器	染付皿	14.3	2.1	8.3	肥前	兔文
137	国産磁器	染付皿	13.5	2.8	7.3	肥前	
138	国産磁器	染付皿	18.2	3.1	6.7	肥前	幾何学文様
139	国産磁器	染付皿	24.2	6.2	6.6	肥前	
140	国産磁器	染付輪花皿	21.2	4.3	7.3	肥前	輪花
141	国産磁器	染付皿	20.1	3.9	7.3	肥前	
142	国産磁器	染付碗	23.7	4.8	8.7	肥前	
143	国産磁器	染付鉢	21.9	6.3	3.4	肥前	
144	国産磁器	染付鉢	13.6	6.8	5.4	肥前	
145	国産磁器	染付鉢	12.6	4.2	4.5	肥前	
146	国産磁器	青磁鉢	13.3	4.2	4.7	肥前	
147	国産磁器	青磁輪花鉢	12.7	4.4	4.7	肥前	
148	国産磁器	青磁染付鉢	21.5	8.9	6.4	肥前	
149	国産磁器	白磁鉢	22.6	9.1	7.7	肥前	
150	国産磁器	白磁香炉	17.6	5.0	5.9	肥前	
151	国産磁器	青磁香炉	7.1	4.0	3.0	肥前	
152	国産磁器	染付鉢	10.8	5.7	4.1	肥前	
153	国産磁器	染付皿	13.8	8.8	4.4	肥前	
154	国産磁器	青磁盤	22.6	6.0	10.1	肥前	三足
155	国産磁器	青磁盤	27.2	6.2	10.2	肥前	三足
156	国産磁器	錆絵染付筒形容器	18.6	5.3	5.5	肥前	呉須 + 錆釉
157	国産磁器	染付仏餉具	20.9	7.8(推定)	8.6(推定)	肥前	
158	国産磁器	染付蓋	4.2	8.5	4.7	肥前	
159	国産磁器	白磁人形	10.9	7.3	4.7	肥前	灯芯おさえか
160	国産磁器	白磁人形	7.8	7.0	3.9	肥前	灯芯おさえか
161	国産磁器	白磁人形	6.3(最大)	2.4		肥前	灯芯おさえか
162	輸入磁器	色絵小杯	5.5(幅)	1.5		中国	粉彩磁器
163	輸入磁器	染付小杯	9.9	7.4	4.4	中国	
164	輸入磁器	青花碗	11.0	5.6	4.2	中国	景德鎮窯系
165	輸入磁器	青花碗	11.6	5.5	4.7	中国	景德鎮窯系
166	輸入磁器	青花碗	11.3	6.1	4.4	中国	景德鎮窯系
167	輸入磁器	青花碗	11.6	5.8	4.7	中国	景德鎮窯系
168	輸入磁器	青花碗	11.7	5.5	4.4	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
169	輸入磁器	青花碗	11.9	5.9	4.7	中国	景德鎮窯系
170	輸入磁器	青花碗	11.4	6.3	4.2	中国	景德鎮窯系、高台内「大明嘉靖年製」銘
171	輸入磁器	青花碗	11.4	5.9	4.4	中国	景德鎮窯系、高台内「大明嘉靖年製」銘
172	輸入磁器	青花碗	11.2	6.5	4.8	中国	景德鎮窯系

公家町遺跡（櫛笥家）指定候補陶磁器一覽表 4

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	産地	備考
173	輸入磁器	青花碗	9.5	5.4	3.6	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
174	輸入磁器	白磁輪花碗	6.7	3.6	2.6	中国	
175	輸入磁器	青磁小碗	10.2	7.4	5.4	中国	龍泉窯系
176	輸入磁器	青花碗	11.6	5.4	4.4	中国	景德鎮窯系
177	輸入磁器	青花碗	10.9	6.5	4.7	中国	景德鎮窯系
178	輸入磁器	青花碗	11.1	4.0	4.1	中国	景德鎮窯系
179	輸入磁器	青花碗	10.3	4.7	4.0	中国	漳州窯系
180	輸入磁器	青花碗	6.4	3.3	2.5	中国	景德鎮窯系
181	輸入磁器	青花碗	8.8	3.8	2.8	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
182	輸入磁器	青花碗	11.7	6.4	4.8	中国	景德鎮窯系、高台内「成化年製」銘
183	輸入磁器	青花碗	13.3	5.0	4.8	中国	景德鎮窯系
184	輸入磁器	青花碗	12.1	5.8	4.9	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
185	輸入磁器	青花碗	11.7	6.1	4.3	中国	景德鎮窯系、見込「大明成化年製」銘
186	輸入磁器	青花碗	12.0	6.2	4.3	中国	景德鎮窯系
187	輸入磁器	青花輪花鉢	9.3	3.0	3.7	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
188	輸入磁器	青花鉢	8.9	2.7	3.9	中国	景德鎮窯系
189	輸入磁器	青花鉢	11.3	4.0	4.5	中国	景德鎮窯系
190	輸入磁器	青花鉢	11.9	3.5	5.6	中国	景德鎮窯系、見込「壽」銘
191	輸入磁器	青花鉢	12.8	3.6	5.1	中国	景德鎮窯系
192	輸入磁器	青花鉢	11.1	3.7	4.4	中国	景德鎮窯系
193	輸入磁器	青花鉢	12.7	4.1	5.0	中国	景德鎮窯系
194	輸入磁器	青花鉢	13.1	4.3	5.8	中国	景德鎮窯系
195	輸入磁器	青花鉢	11.8	3.5	4.8	中国	景德鎮窯系
196	輸入磁器	青花鉢	12.6	4.3	4.7	中国	景德鎮窯系
197	輸入磁器	青花鉢	12.8	3.9	4.8	中国	景德鎮窯系
198	輸入磁器	青花鉢	12.7	3.8	5.0	中国	景德鎮窯系
199	輸入磁器	青花鉢	12.0	3.5	6.1	中国	景德鎮窯系
200	輸入磁器	青花鉢	9.5	3.2	4.4	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
201	輸入磁器	青花皿	10.6	2.9	4.4	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
202	輸入磁器	青花皿	11.6	2.7	5.1	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
203	輸入磁器	青花皿	11.6	3.0	4.6	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」
204	輸入磁器	青花鉢	11.4	3.9	5.7	中国	景德鎮窯系
205	輸入磁器	青花鉢	13.3	4.4	6.7	中国	景德鎮窯系
206	輸入磁器	青花鉢	12.6	3.8	6.3	中国	景德鎮窯系
207	輸入磁器	青花鉢	12.0	3.6	5.0	中国	景德鎮窯系
208	輸入磁器	青花鉢	13.3	4.2	4.9	中国	景德鎮窯系
209	輸入磁器	青花皿	14.4	3.0	7.4	中国	景德鎮窯系
210	輸入磁器	青花皿	20.1	4.1	10.5	中国	漳州窯系
211	輸入磁器	青花皿	20.5	3.5	9.6	中国	景德鎮窯系、高台内「大明成化年製」銘
212	輸入磁器	鉄釉皿	10.7	2.3	4.0	中国	景德鎮窯系、高台内「嘉□年製」銘
213	輸入磁器	青花皿	14.7	2.4	7.3	中国	景德鎮窯系
214	輸入磁器	白磁蓋	13.3	3.2		中国	
215	輸入磁器	青花鉢	17.4	7.5	8.4	中国	景德鎮窯系
216	輸入磁器	青花鉢	18.1	7.0	7.0	中国	景德鎮窯系
217	輸入磁器	青花鉢	14.7	6.7	6.4	中国	景德鎮窯系
218	輸入磁器	青花壺蓋	6.8(最大)	4.4		中国	景德鎮窯系
219	輸入磁器	青花壺	7.5	11.8	5.3	中国	景德鎮窯系
220	輸入磁器	青花瓶	9.0	23.4(推定)	7.2	中国	景德鎮窯系
221	国産施釉陶器	鉄釉碗	2.4(最大)	3.7(残)	-	肥前	
222	国産施釉陶器	鉄釉片口鉢	2.6(最大)	3.6(残)	-	肥前	
223	国産施釉陶器	京焼灰釉水滴	3.6(最大)	4.1(残)	-	京都	
224	国産施釉陶器	鉄釉碗	11.5	6.9	4.6	瀬戸・美濃	鉄釉に灰釉流し
225	国産施釉陶器	京焼錆絵碗	11.0	6.7	3.6	京都	菊文器手腕
226	国産施釉陶器	京焼色絵皿	5.4	1.8	2.3	京都	輪花皿

公家町遺跡（櫛笥家）指定候補陶磁器一覧表5

指定番号	種類	器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	産地	備考
227	国産施釉陶器	鉄釉碗	10.9	7.5	4.4	瀬戸・美濃	鉄釉に灰釉流し
228	国産施釉陶器	天目茶碗	13.3	6.6	4.9	瀬戸・美濃	内反り高台
229	国産施釉陶器	天目茶碗	14.7	6.5	4.9	瀬戸・美濃	内反り高台
230	国産施釉陶器	天目茶碗	11.6	7.7	4.0	瀬戸・美濃	
231	国産施釉陶器	鉄釉小杯	7.7	4.2	3.8	肥前	
232	国産施釉陶器	鉄釉小杯	7.2	4.8	2.8	肥前	灰釉
233	国産施釉陶器	鉄釉小杯	8.3	4.3	4.4	肥前	鉄釉
234	国産施釉陶器	鏝絵碗	12.2	5.1	4.8	肥前	京焼風陶器、見込み山水楼閣文、高台に「清水」刻印
235	国産施釉陶器	色絵平碗	12.3	4.5	4.8	京都	赤・黄緑・青彩
236	国産施釉陶器	灰釉碗	11.5	7.3	4.0	肥前	
237	国産施釉陶器	鉄釉鉢	10.6	6.5	4.9	肥前	
238	国産施釉陶器	鉄釉鉢	9.9	7.8	6.1	肥前	
239	国産施釉陶器	灰釉碗	12.6	9.0	4.6	肥前	
240	国産施釉陶器	小天目茶碗	6.1	3.8	2.3	瀬戸・美濃	小型
241	国産施釉陶器	天目茶碗	10.2	6.4	3.0	瀬戸・美濃	底部中央に孔が穿たれる
242	国産施釉陶器	天目茶碗	9.7	6.0	3.2	瀬戸・美濃	
243	国産施釉陶器	天目茶碗	10.2	6.9	4.2	瀬戸・美濃	
244	国産施釉陶器	灰釉小杯	6.8	3.5	4.0	瀬戸・美濃	
245	国産施釉陶器	灰釉小杯	6.8	4.6	3.0	瀬戸・美濃	
246	国産施釉陶器	鉄釉碗	8.3	4.6	3.2	瀬戸・美濃	
247	国産施釉陶器	碗	13.5	7.0	5.0	肥前	呉器手、1650年代、内野山窯産
248	国産施釉陶器	灰釉蓋	7.9(最大)	2.6	-	丹波	
249	国産施釉陶器	鉄釉蓋	7.2(最大)	2.4	-	肥前	
250	国産施釉陶器	灰釉蓋	7.2(最大)	1.9	-	瀬戸・美濃	
251	国産施釉陶器	鉄釉蓋	8.6(最大)	2.2	-	瀬戸・美濃	
252	国産施釉陶器	鉄釉鉢	10.8(最大)	2.7	-	瀬戸・美濃	鉄釉に灰釉流し
253	国産施釉陶器	灰釉盤	15.0	7.1	11.1	肥前	
254	国産施釉陶器	二彩唐津壺	22.5	6.7	7.6	瀬戸・美濃	銅緑釉
255	国産施釉陶器	二彩唐津壺	-	10.9(残)	5.6	肥前	銅緑釉
256	国産施釉陶器	絵唐津壺	9.7	14.7(残)	-	肥前	鉄絵草文
257	国産施釉陶器	鉄釉甕	9.9	13.6	7.5	肥前	肩部から底部際まで鉄釉
258	国産施釉陶器	鉄釉壺	10.2	15.1	8.9	肥前	鉄釉流し掛け
259	国産施釉陶器	三島唐津鉢	5.7	9.6	8.3	丹波	
260	国産施釉陶器	二彩唐津鉢	9.7	9.9	7.1	瀬戸・美濃	※リアルタイム
261	国産施釉陶器	花生	31.5	8.6	11.5	肥前	双耳花生、藁灰釉
262	国産施釉陶器	瓶	28.6	9.5	8.9	肥前	所謂、朝鮮唐津
263	国産施釉陶器	京焼隅切折敷	5.8	8.1(残)	-	肥前	軟質施釉の隅切折敷、縁に突線
264	国産施釉陶器	鉄釉水滴	-	23.7(残)	9.4	肥前	鉄釉鳥形
265	国産焼締陶器	蓋	21.0(最大)	1.0	-	京都	
266	国産焼締陶器	片口壺	25.7	4.1	23.0	丹波	
267	国産焼締陶器	盤	27.1	5.3(推定)	24.2	丹波	
268	国産焼締陶器	盤	30.9	6.1(推定)	20.0	丹波	
269	国産焼締陶器	盤	33.9	7.9	22.3	丹波	
270	国産焼締陶器	盤	41.3	6.9	31.2	丹波	
271	国産焼締陶器	盤	35.6	17.0	14.5	丹波	
272	国産焼締陶器	搦鉢	14.3	9.0	15.3	備前	
273	国産焼締陶器	建水	17.4	14.7	14.0	不明	
274	土製品	埴塼	5.2(残)	3.8(残)	-	-	植木鉢に転用

平成 29 年度 京都市埋蔵文化財出土遺物文化財指定準備業務報告書

公家町遺跡（安禪寺杉之坊）出土品

公家町遺跡（櫛笥家）出土品

発行日 2018年3月31日

発 行 京都市文化市民局

住 所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

編 集 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 京都新聞印刷

